

稲沢市男女共同参画社会づくり 市民意識調査結果報告書

平成27年5月

稲沢市

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	2
2. 調査項目	2
3. 調査方法	2
4. 回収結果	2
5. 報告書の見方	3
II. 総括	5
1. 回答者の属性について	6
2. 男女平等の意識について	6
3. 結婚、家庭・地域生活について	7
4. 子育て、子どもの教育について	8
5. 高齢社会、介護について	9
6. 女性の社会進出について	9
7. 夫又は妻や恋人からの暴力について	10
III. 調査結果	11
1. 回答者の属性について	12
2. 男女平等の意識について	20
3. 結婚、家庭・地域生活について	34
4. 子育て、子どもの教育について	54
5. 高齢社会、介護について	58
6. 女性の社会進出について	64
7. 夫又は妻や恋人からの暴力について	72
IV. その他回答	81
V. 調査票	93

I . 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、平成23年3月に策定した「いなざわ男女共同参画プランⅡ（第1次中間改訂）」の見直しに当たり、市民の皆様の意識や考えをお聞きし、今後の施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査項目

- ①回答者の属性について
- ②男女平等の意識について
- ③結婚、家庭・地域生活について
- ④子育て、子どもの教育について
- ⑤高齢社会、介護について
- ⑥女性の社会進出について
- ⑦夫又は妻や恋人からの暴力について

3. 調査方法

- ①調査対象者 : 平成26年11月1日現在、稲沢市に居住している
16歳以上の市民2,500人（男女各1,250人）
- ②抽出法 : 年齢、性別を考慮し、住民基本台帳から対象者を無作為に抽出
- ③調査期間 : 平成26年11月21日～12月12日まで
- ④調査方法 : 調査票による本人記入方式
郵送配布・郵送回収による郵送調査方法（ハガキによる督促1回）

4. 回収結果

	配布数	有効回収数	回収率
合計	2,500	1,332	53.3%
男性	1,250	574	45.9%
女性	1,250	738	59.0%

※合計には性別不詳の20を含む。

5. 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。したがって、各選択肢の%に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者が計算できます。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、1選択の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数選択の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。

●表について

不明・無回答を除き、回答の高い選択肢第1位に網掛けをしています。

●比較分析について

比較分析において使用した調査名は次のとおりです。

- ・稲沢市平成21年度実施「男女共同参画社会づくり意識調査報告書」
- ・愛知県平成20年度実施「男女共同参画意識に関する調査」
- ・内閣府平成24年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

有効回収数

対象調査	配布数	有効回収数			回収率
			男性	女性	
稲沢市平成21年度実施	3,000	1,867	877	990	62.2%
愛知県平成20年度実施	4,000	2,124	971	1,153	53.1%
内閣府平成24年度実施	5,000	3,033	1,432	1,601	60.7%

Ⅱ. 総括

1. 回答者の属性について

回答者の男女比では女性がやや上回っています。年齢層をみると、60歳代が19.1%と最も高くなっています。

家族構成は「2世代世帯（親と子）」が51.9%、「1世代世帯（夫婦のみ）」が19.4%、「3世代世帯（親と子と孫）」が19.1%となっています。

職業では、男性は「勤め人（常勤）」が49.7%と最も高く、女性は「勤め人（非常勤）、パート、アルバイト」が25.1%、「専業主婦」が24.3%となっています。男性の配偶者・パートナーの職業は「勤め人（非常勤）、パート、アルバイト」が34.9%、「専業主婦」が23.4%、女性の配偶者・パートナーの職業は「勤め人（常勤）」が50.6%、「無職」が19.7%となっています。

婚姻の状況は、20歳代では「結婚していない」が79.7%、30歳代～40歳代では「結婚している」が70%台、50歳代以上では80%台となっています。

2. 男女平等の意識について

(1) 男女共同参画社会に関する用語の認知については「男女雇用機会均等法」が75.7%と最も高く、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力）」が75.1%となっています。「いなざわ男女共同参画プラン」は男女ともに1割を下回っています。

《県・国調査との比較》（県調査は、選択肢に「DV、育児・介護休業法」がない。国調査は、選択肢に「育児・介護休業法」がない。）

「男女共同参画社会」の認知については、国調査、市調査、県調査の順に高くなっています。

(2) 男女の平等感については、『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせたもの）は、「政治の場」が77.2%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたり」が70.0%、「職場」が69.6%、「社会全体として」が68.4%となっており、特に不平等感が強い分野であることがうかがえます。一方、「学校教育の場」では「平等である」が58.0%となっており、比較的、不平等感の差が少ない分野であるといえます。男性で『男性優遇』が最も高い分野は「政治の場」で71.1%、『女性優遇』が最も高い分野は「家庭生活」で11.3%、女性で『女性優遇』が最も高い分野は「家庭生活」で8.8%、『男性優遇』が最も高い分野は「政治の場」で82.9%となっています。

【前回調査との比較】

『男性優遇』は、「政治の場」が9.6ポイント、「職場」が1.9ポイント、「社会全体」が1.0ポイントそれぞれ高くなっており、「社会通念・慣習・しきたり」は0.5ポイント低くなっています。

《県・国調査との比較》

男性が優遇されていると答えた項目に大きな差異はないものの、市の調査の方が県や国の調査より「政治の場」の割合が高くなっています。また、平等感の差は市の調査の方が国の調査より、「地域活動の場」「法律や制度の上」の割合が低くなっています。

(3) 男女があらゆる分野でより平等になるために重要だと思うことでは、「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が49.9%と最も高く、次いで「女性の就業、社会

参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が47.9%となっています。男性では「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が43.9%と最も高く、女性では「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が54.7%、次いで「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が54.6%となっています。

3. 結婚、家庭・地域生活について

(1) 既婚者の家事分担の状況については、ほとんどの家事を主に「妻」が担っており、「食事のしたく」84.4%、「洗濯」80.9%、「食事の後片付け」70.3%、「掃除」68.8%の順に高くなっています。

「夫婦」が高いのは、「子育て」41.9%、「買い物」31.8%となっています。

年齢別にみると、30歳代では比較的「夫婦」で担っている割合が高くなっており、「子育て」に関しては20歳代の60.0%で「夫婦」と回答しています。

【前回調査との比較】

「介護」を「夫婦」が担っている割合が、前回23.6%から今回29.8%と6.2ポイント高くなっています。

《県調査との比較》

市調査の方が県調査より「子育て」を「妻」が担っている割合は14.4ポイント、「介護」を「妻」が担っている割合は9.1ポイントそれぞれ高くなっています。

(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、男性の38.0%が『そう思う』、女性の35.8%が『そうは思わない』と回答しています。しかし、最も高いのは「どちらともいえない」で男性が29.6%、女性が30.5%となっており、意識が拮抗しています。

【前回調査との比較】

前回調査より今回調査の方が、男性の『そう思う』は1.9ポイント減少し、女性の『そうは思わない』は3.7ポイント増加しています。また、「どちらともいえない」は男女ともに高くなっています。

(3) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先について

A 希望として

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が29.8%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい』が21.8%、『「家庭生活」を優先したい』が21.3%となっています。男女とも同じ傾向を示しています。

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が男性で30.0%、女性で29.5%と最も高いが、現実として、男性は『「仕事」を優先している』が44.8%、女性は『「家庭生活」を優先している』が35.6%とそれぞれ最も高くなっています。

【前回調査との比較】

前回調査では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』は男性が最も高くなっていますが、女性は『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい』が最も高くなっています。

《県調査との比較》

県調査は、前回調査と同じ傾向を示しています。

B 現実として

『「仕事」を優先している』が29.7%と最も高く、次いで『「家庭生活」を優先している』が25.5%、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が18.7%となっています。男性では『「仕事」を優先している』が44.8%、女性では『「家庭生活」を優先している』が35.6%とそれぞれ最も高くなっています。

希望と現実の差が最も大きいのは『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい／している』で、男性は希望が21.1%、現実が3.8%、女性は希望が22.4%、現実が4.9%となっています。

【前回調査との比較】

前回調査より今回調査の方が、男性では『「仕事」を優先している』が2.2ポイント、女性では『「家庭生活」を優先している』が0.4ポイントそれぞれ低くなっています。

《県調査との比較》

前回調査と同じ傾向を示しています。

(4) 地域活動への参加については、「現在参加している」と「かつて参加していたが現在は中止している」を合わせた『参加経験がある』は49.7%、「参加したことはない」は38.1%となっています。性別で『参加経験がある』は、男性が47.6%、女性は51.2%となっています。

【前回調査との比較】

『参加経験がある』は前回より3.2ポイント低く、男性では2.3ポイント、女性では4.2ポイントそれぞれ低くなっています。

《県調査との比較》

『参加経験がある』は、市調査の方が県調査より11.8ポイント、男性では7.3ポイント、女性では4.2ポイント低くなっています。

(5) 参加した活動については、「町内会や自治会」が55.2%で最も高く、次いで「PTAや子ども会」が48.9%となっています。性別で最も高いのは、男性は「町内会や自治会」が63.7%、女性は「PTAや子ども会」が69.3%となっています。

【前回調査との比較】

全体での傾向に大きな差異はないものの、「町内会や自治会」で24.2ポイント、「PTAや子ども会」で23.8ポイント高くなっています。

《県調査との比較》

全体での傾向に大きな差異はないものの、市調査の方が「町内会や自治会」で3.9ポイント、「PTAや子ども会」で5.3ポイント低くなっています。

4. 子育て、子どもの教育について

(1) 男女平等の意識を育てるために、学校教育で必要なことについては、「男女の別なく能力を活かせるよう指導する」が68.8%と最も高く、次いで「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」が59.2%となっています。

(2) 子どもへの虐待については、「感じたことがない」が63.7%で最も高くなっています。

【前回調査との比較】

前回調査より「よく思う」が0.5ポイント低くなっています。

(3) 児童虐待が家庭の中で起こる理由が親にあると考える場合の原因としては、「育児の悩みについて相談する人がいない」が47.3%と最も高く、次いで「核家族化が影響している」が31.4%となっています。

5. 高齢社会、介護について

(1) 老後の不安については、「生活費のこと」が60.4%と最も高く、次いで「自分や配偶者の健康のこと」が59.8%となっています。

(2) 老後の暮らし方については、「同居でなくてもよいが、自分の子どもたちと、顔を合わせられる距離で暮らしたい」が52.4%と最も高く、次いで「1人暮らしとなっても、必要に応じ、介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい」が43.3%、「家族と一緒に暮らしたい」が37.5%となっています。

(3) 介護を担っている方については、「配偶者」が24.6%と最も高く、次いで「息子の配偶者」が20.2%、「母」が17.5%となっています。

6. 女性の社会進出について

(1) 女性が増えると思う職業や役職については、「企業の管理職」が33.6%と最も高く、次いで「弁護士、医師などの専門職」が32.7%、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が31.2%となっています。

《県調査との比較》

県調査では、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」、「弁護士、医師などの専門職」、「企業の管理職」の順に高くなっています。

(2) 政治や行政において政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由については、「男性優位の組織運営」が59.7%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」が38.1%となっています。性別では、女性より男性で高いのは「女性側の積極性が不十分」が30.5%、男性より女性で高いのは「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」が42.1%となっています。

《県調査との比較》

女性で「家庭の支援・協力が得られない」が、県調査では51.4%と高くなっています。

(3) 女性が職業を持つことへの考え方については、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が39.8%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を持ちつづける方がよい」が38.3%となっています。

【前回調査との比較】

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっているのは同じであるものの、45.4%から39.8%と5.6ポイント低くなっています。「子どもができて、ずっと職業を持ちつづける方がよい」は30.5%から38.3%と7.8ポイント高くなっています。

《県調査との比較》

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっているのは同じであるものの、市調査の方が県調査より3.3ポイント低くなっています。「子どもができて、ずっと職業を持ちつづける方がよい」は、市調査の方が県調査より5.7ポイント高くなっています。

(4) 男女共同参画社会を推進していくために行政に望むことについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が48.6%と最も高く、次いで「政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する」が33.6%となっています。

7. 夫又は妻や恋人からの暴力について

(1) 配偶者や恋人からの暴力については、「ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受けたことがある」が7.3%と最も高くなっています。

(2) DVを経験した際の相談については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が39.9%と最も高く、次いで「友人・知人」が35.0%、「家族や親戚などの身内」が33.9%となっています。男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が60.7%と最も高く、次いで「友人・知人」が21.4%となっています。女性では、「家族や親戚などの身内」が43.4%と最も高く、次いで「友人・知人」が41.8%となっています。

(3) 相談しなかった理由については、「相談するほどのことではなかったから」が31.5%と最も高く、次いで「相談してもムダと思ったから」が27.4%、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が26.0%となっています。男性では、「相談するほどのことではなかったから」が38.2%と最も高く、次いで「相談してもムダと思ったから」「自分にも悪いところがあったと思っているから」がそれぞれ26.5%となっており、女性では、「相談してもムダと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」がそれぞれ29.7%と最も高く、次いで「相談するほどのことではなかったから」が27.0%となっています。

(4) DV等の防止のために必要な取り組みについては、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が51.1%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が49.8%、「犯罪の取り締まりを強化する」が48.6%となっています。

《県調査との比較》

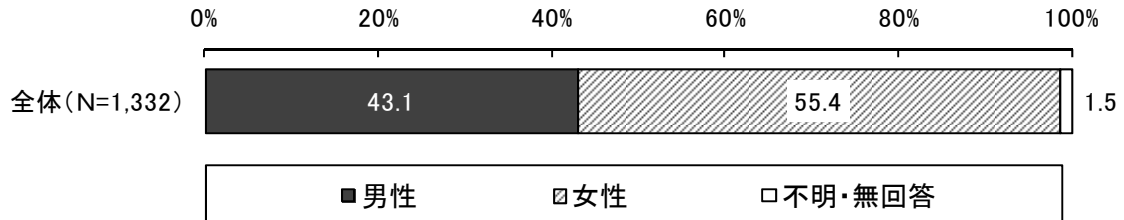
市調査の方が県調査より、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」で8.7ポイント低くなっています。「犯罪の取り締まりを強化する」では、市調査の方が県調査より9.9ポイント高くなっています。

Ⅲ. 調查結果

1. 回答者の属性について

A あなたの性別についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。
(1選択)

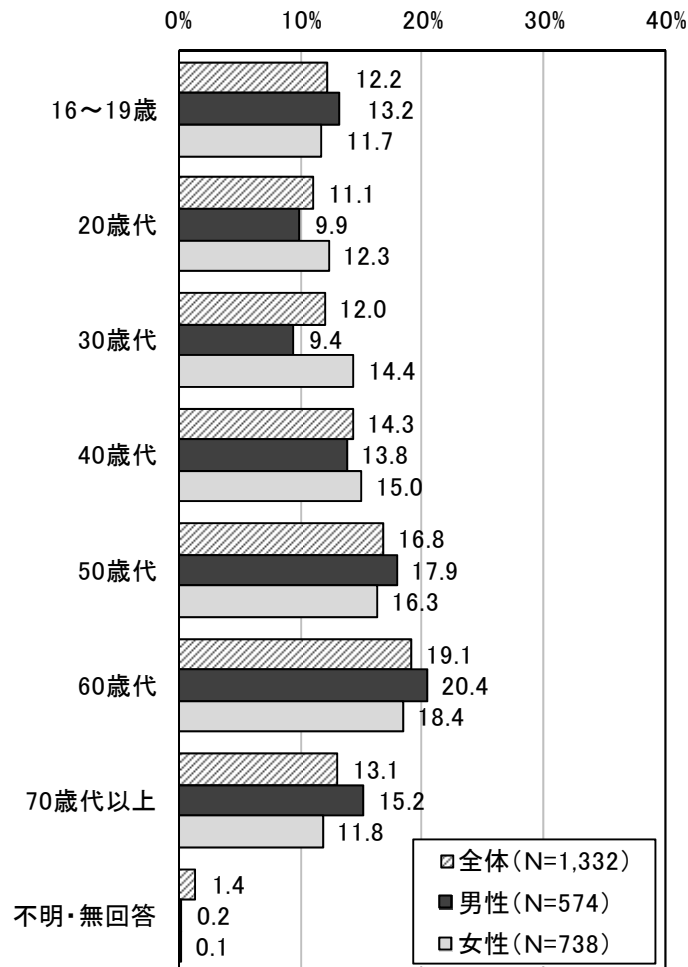
性別は、全体で「男性」が43.1%、「女性」が55.4%となっています。



B あなたの年齢についてお答えください(平成26年11月1日現在)。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

年齢は、全体で「60歳代」が19.1%と最も高く、次いで「50歳代」が16.8%、「40歳代」が14.3%となっています。

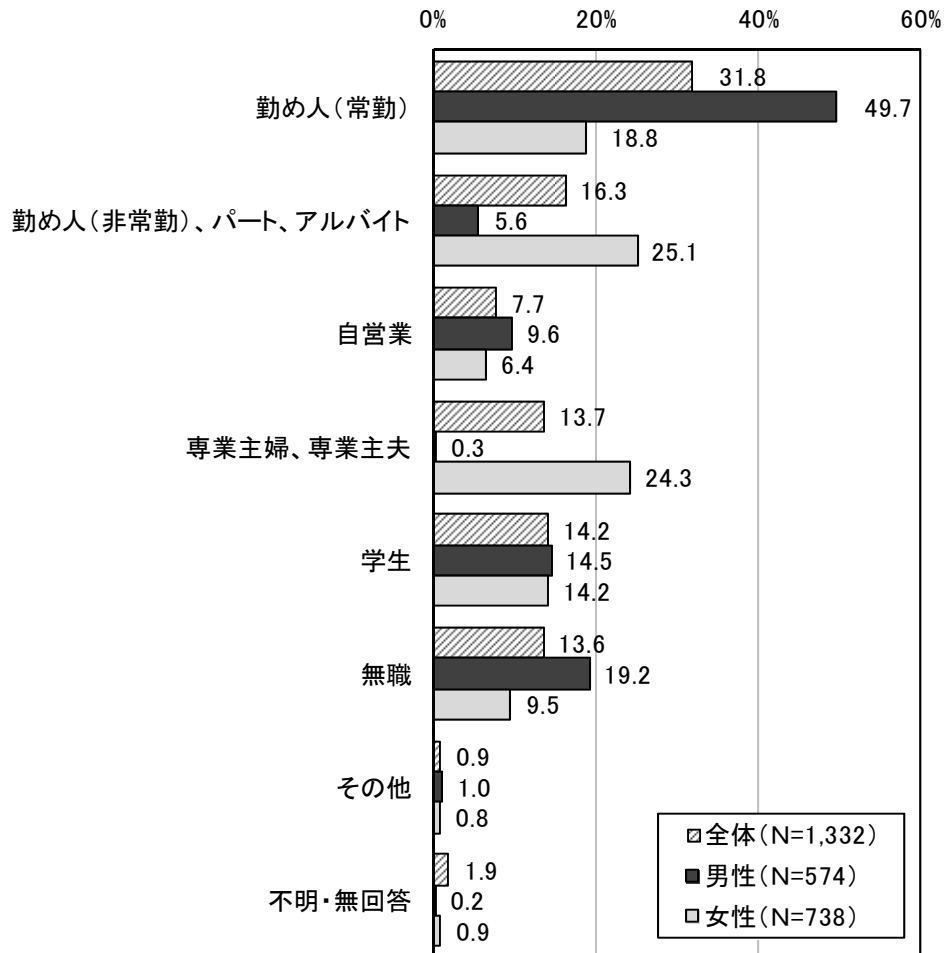
性別では、男女ともに「60歳代」が最も高く、男性が20.4%、女性が18.4%となっています。



□あなたの職業についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。
 (1選択)

職業の勤務形態は、全体で「勤め人(常勤)」が31.8%と最も高く、次いで「勤め人(非常勤)、パート、アルバイト」が16.3%、「学生」が14.2%となっています。

性別では、男性は「勤め人(常勤)」(49.7%)が、女性は「勤め人(非常勤)、パート、アルバイト」(25.1%)、「専業主婦、専業主夫」(24.3%)がそれぞれ高くなっています。

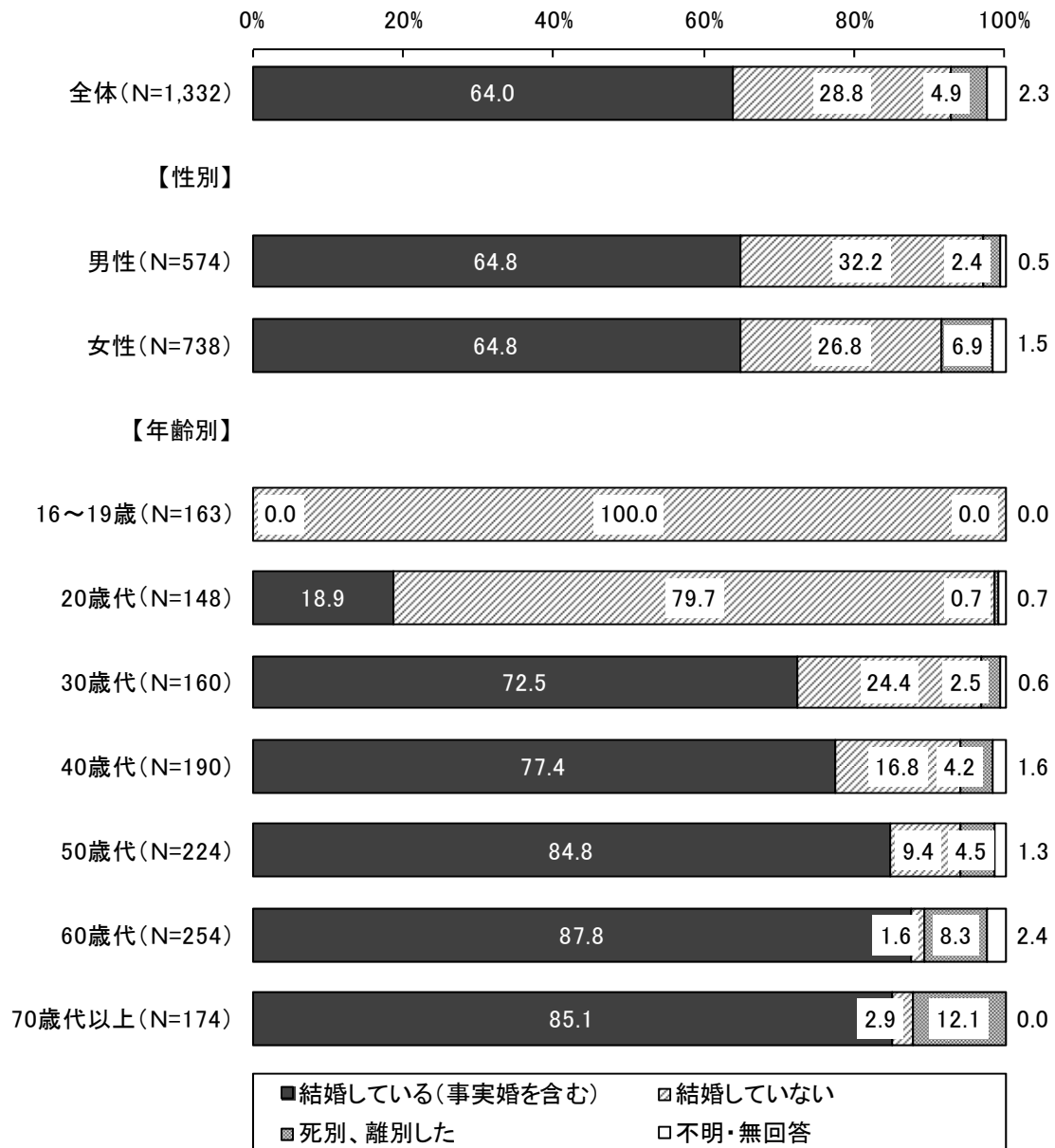


Dあなたは、結婚していますか(事実婚を含む)。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

結婚の状況は、全体で「結婚している(事実婚を含む)」が64.0%と最も高く、次いで「結婚していない」が28.8%、「死別、離別した」が4.9%となっています。

性別では、男性は女性と比べて「結婚していない」が5.4ポイント、女性は男性と比べて「死別、離別した」が4.5ポイント高くなっています。

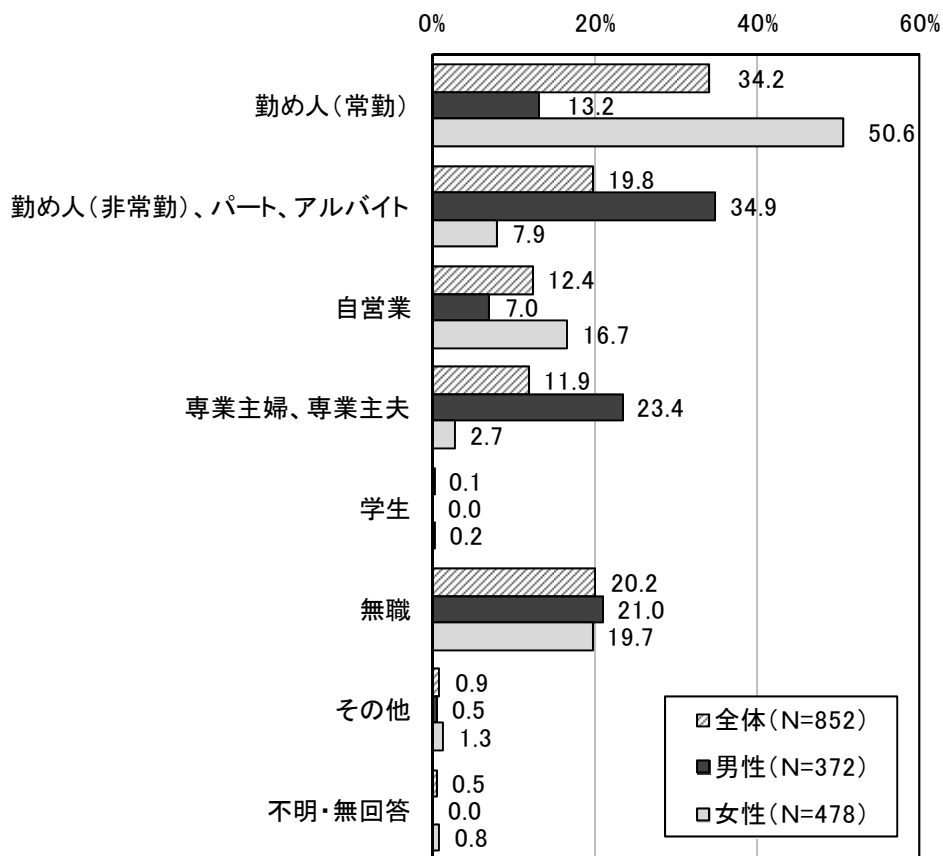
年齢別では、30歳代以上で「結婚している(事実婚を含む)」が7割を超えています。



D(1) あなたの配偶者の職業についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

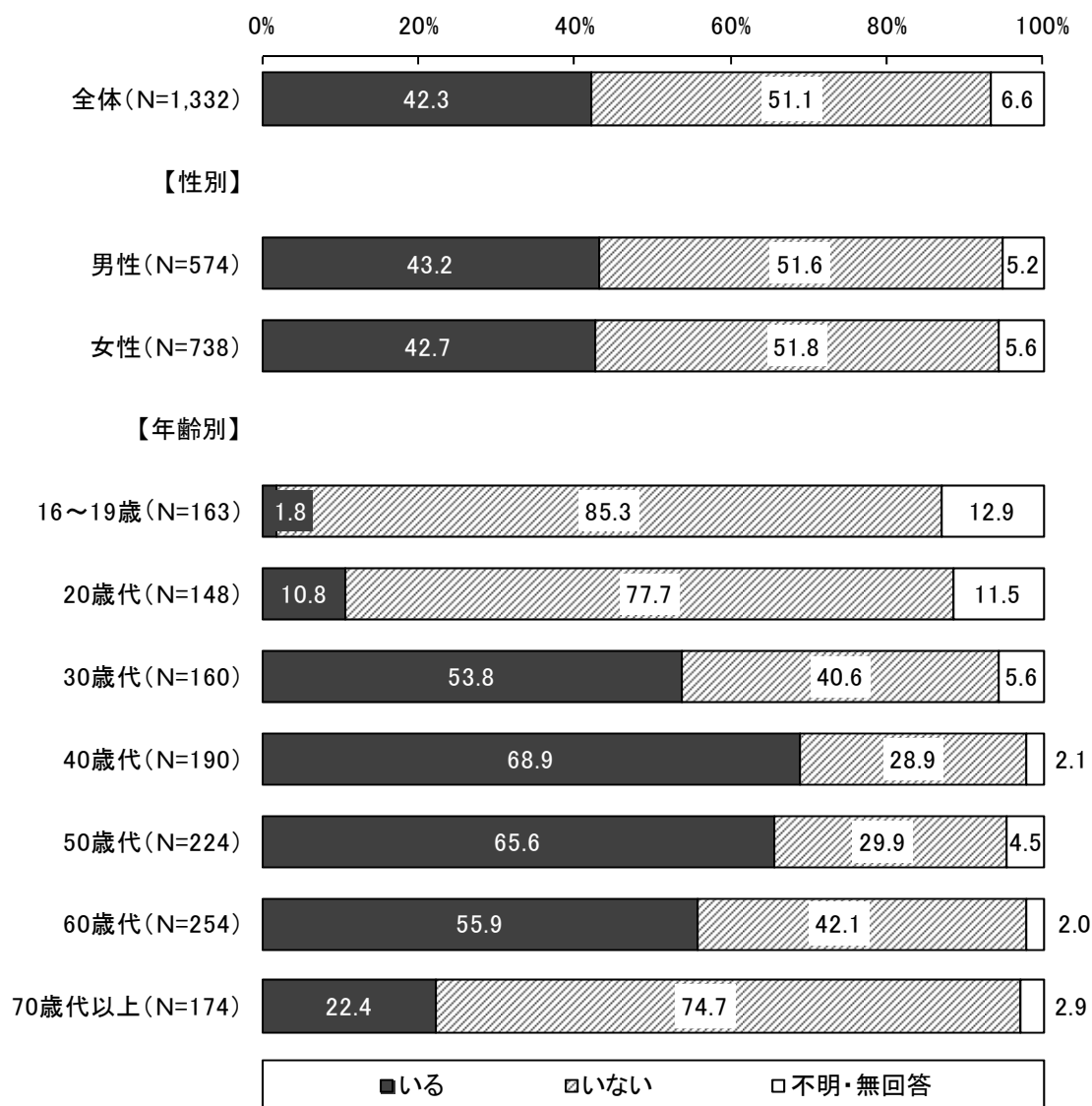
配偶者の職業の勤務形態は、全体で「勤め人（常勤）」が 34.2%と最も高く、次いで「無職」が 20.2%、「勤め人（非常勤）、パート、アルバイト」が 19.8%となっています。

性別では、男性の配偶者は「勤め人（非常勤）、パート、アルバイト」(34.9%)が、女性の配偶者は「勤め人（常勤）」(50.6%)がそれぞれ最も高くなっています。



□あなたは、未婚のお子さんがいらっしゃいますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

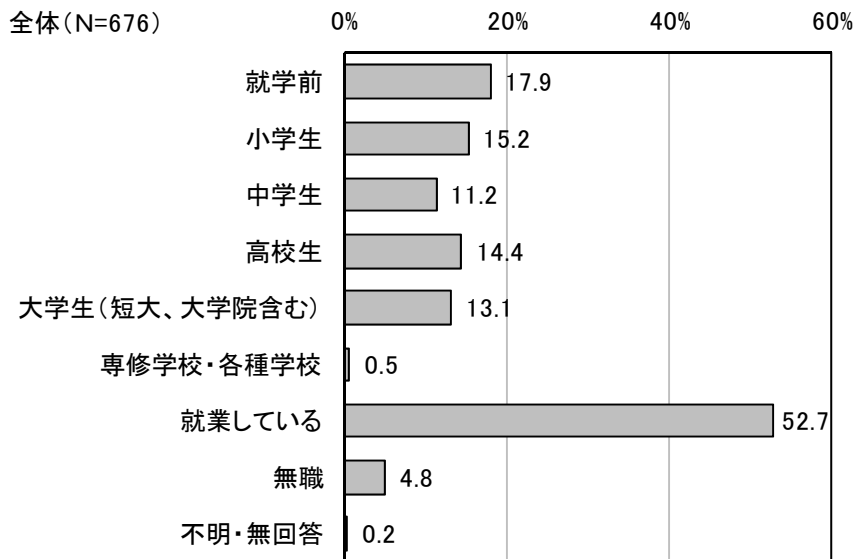
未婚の子どもがいるかは、全体で「いる」が42.3%、「いない」が51.1%となっています。
性別では、男女ともに「いる」が4割程度となっています。
年齢別では、70歳代以上で「いる」が22.4%となっています。



E(1) お子さんは、次のどれに当たりますか。当てはまるすべての番号を○で囲んでください。
 (複数選択)

子どもの年齢等は、全体で「就業している」が52.7%と最も高く、次いで「就学前」が17.9%、「小学生」が15.2%となっています。

年齢別では、40歳代以上で「無職」が高くなっています。



■クロス集計 (年齢別)

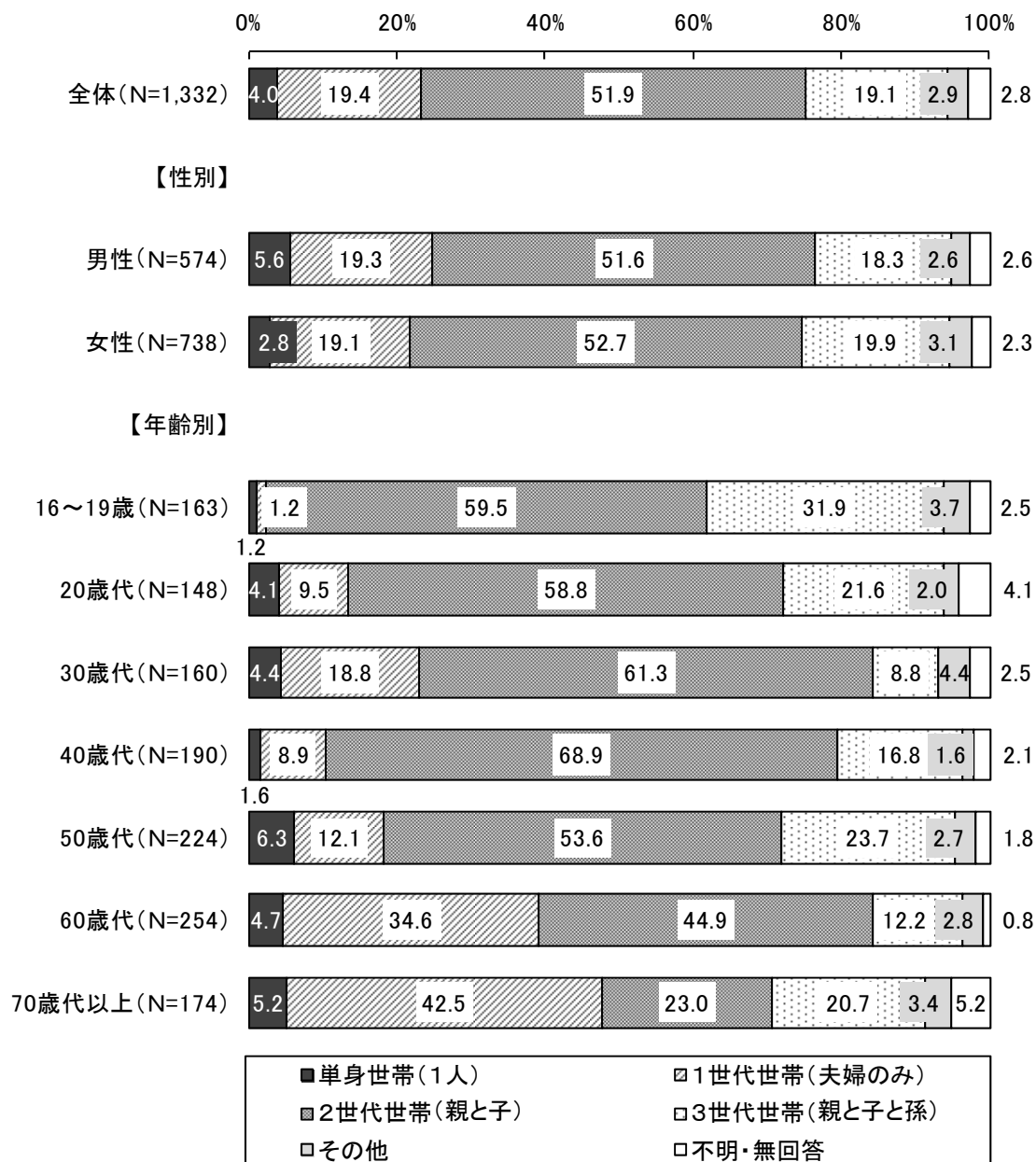
	就学前	小学生	中学生	高校生	大学生(短大、大学院含む)	専修学校・各種学校	就業している	無職	不明・無回答
16~19歳 (N=3)	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-
20歳代 (N=16)	87.5	6.3	-	6.3	-	-	-	-	-
30歳代 (N=86)	75.6	37.2	4.7	2.3	-	-	-	-	-
40歳代 (N=131)	15.3	35.1	38.9	42.7	19.1	1.5	14.5	0.8	-
50歳代 (N=147)	-	4.1	5.4	14.3	27.9	0.7	74.8	5.4	-
60歳代 (N=142)	0.7	-	-	-	5.6	-	93.0	9.9	0.7
70歳代以上 (N=39)	-	-	-	-	-	-	92.3	10.3	-

Fあなたの世帯の家族構成についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

家族構成は、全体で「2世代世帯（親と子）」が51.9%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が19.4%、「3世代世帯（親と子と孫）」が19.1%となっています。

性別では、男性は女性と比べて「単身世帯（1人）」が2.8ポイント高くなっています。

年齢別では、60歳代以下で「2世代世帯（親と子）」が、70歳代以上で「1世代世帯（夫婦のみ）」がそれぞれ高くなっています。なお、16～19歳で「3世代世帯（親と子と孫）」が31.9%と高くなっています。



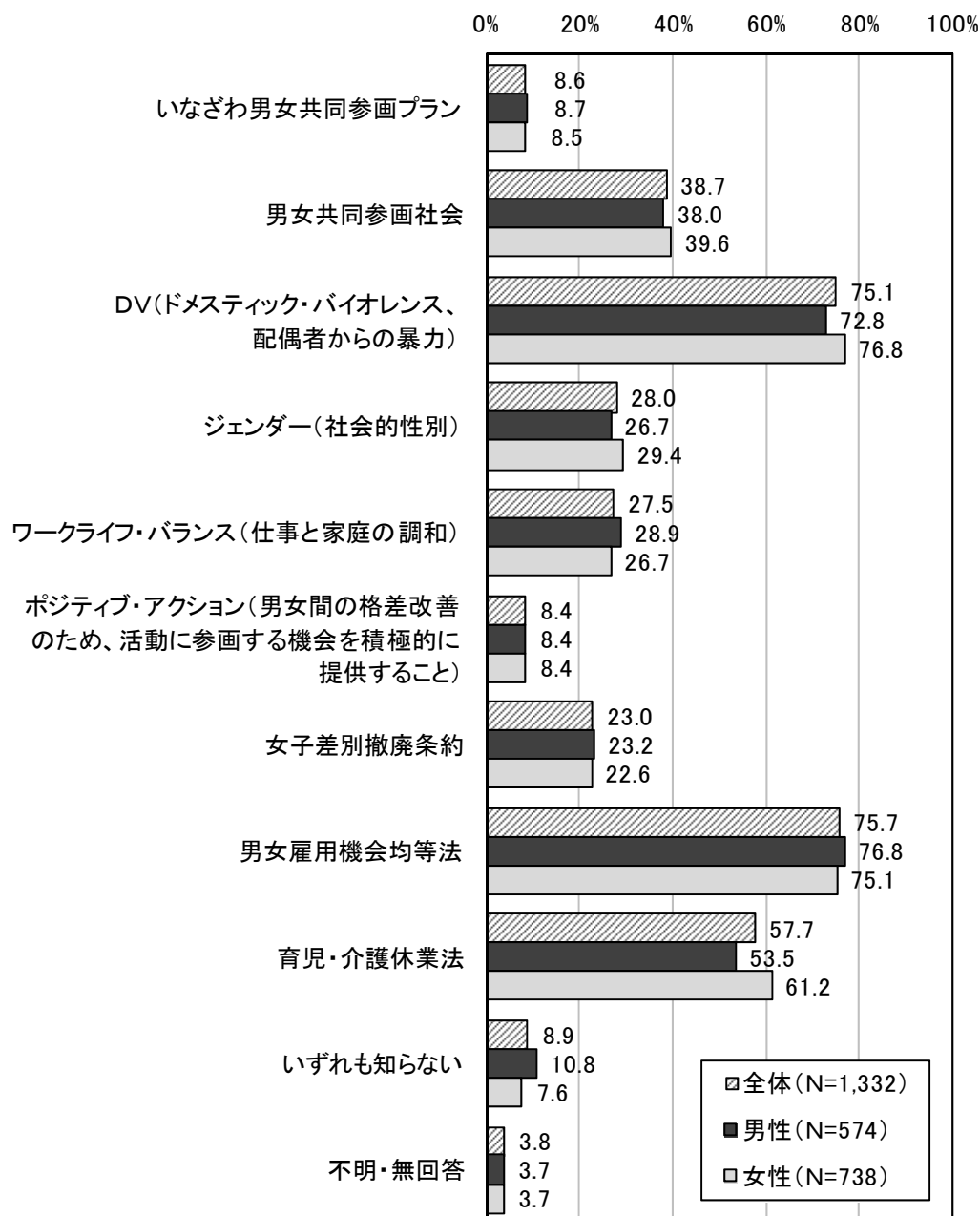
2. 男女平等の意識について

問1 あなたは、次にあげる「男女共同参画社会」に関する言葉や制度のうち、見たり聞いたりしたことがありますか。次の中からあるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

「男女共同参画社会」に関して見たり聞いたりしたことがある言葉や制度は、全体で「男女雇用機会均等法」が75.7%と最も高く、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力）」が75.1%、「育児・介護休業法」が57.7%となっています。

性別では、女性は男性と比べて「育児・介護休業法」が7.7ポイント、「DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力）」が4.0ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、20歳代以下で上位の「DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力）」「育児・介護休業法」の他に「男女共同参画社会」が6割を超えて高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

	いなざわ男女共同参画プラン	男女共同参画社会	DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力）	ジェンダー（社会的性別）	ワークライフ・バランス（仕事と家庭の調和）	ポジティブ・アクション（男女間の格差改善のため、活動に参画する機会を積極的に提供すること）	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	いずれも知らない	不明・無回答
16～19歳（N=163）	3.1	71.8	85.3	44.2	33.7	9.8	38.7	82.2	51.5	5.5	1.2
20歳代（N=148）	3.4	60.8	87.2	57.4	38.5	8.1	29.1	82.4	50.0	6.1	1.4
30歳代（N=160）	3.8	26.9	76.9	31.3	35.6	5.6	28.1	78.8	58.1	11.3	1.9
40歳代（N=190）	7.4	25.8	81.6	24.2	25.8	7.4	15.8	75.3	58.4	7.9	2.6
50歳代（N=224）	10.3	30.8	72.8	21.9	22.8	8.9	17.0	74.1	60.3	11.6	1.3
60歳代（N=254）	13.4	33.1	71.3	19.7	26.0	11.8	17.3	76.4	63.0	6.7	3.9
70歳代以上（N=174）	14.9	32.8	55.2	10.3	16.1	5.7	21.8	63.2	58.0	13.8	13.2

問2次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれの項目について、当てはまる番号を1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

問2の選択肢にかかる表現は以下のように区分しており、このページ以降の文中においても反映されています。

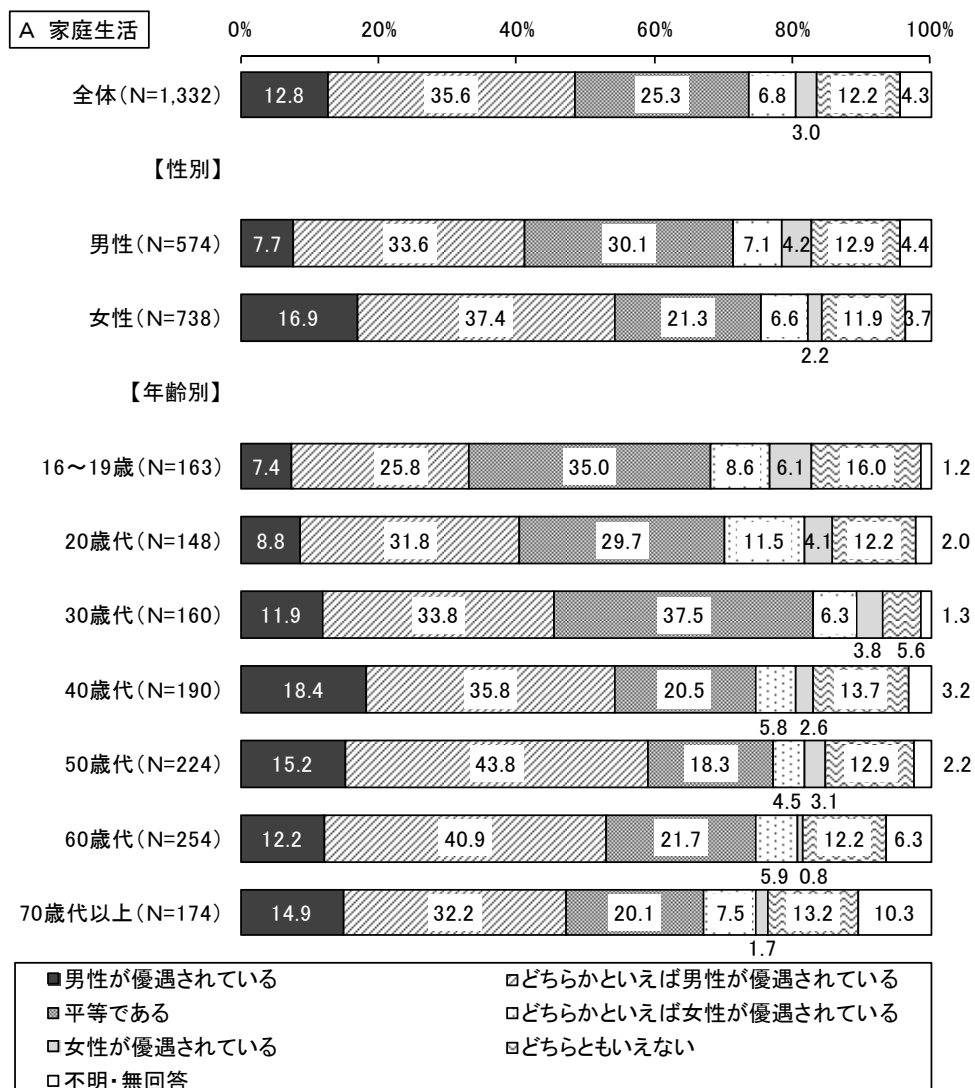
- 『男性優遇』 …「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせたもの
- 『女性優遇』 …「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせたもの

A 家庭生活

家庭生活では、全体で「どちらかといえば男性が優遇されている」が35.6%と最も高く、次いで「平等である」が25.3%となっています。『男性優遇』(48.4%)に対し、「平等である」(25.3%)、『女性優遇』(9.8%)となっています。

性別では、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、男性で33.6%、女性で37.4%となっています。女性は男性と比べて「男性が優遇されている」が9.2ポイント、『男性優遇』は13.0ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、16～19歳、30歳代で「平等である」が最も高いものの、その他の年代では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。40歳代～60歳代では、『男性優遇』が5割を超えて高くなっています。

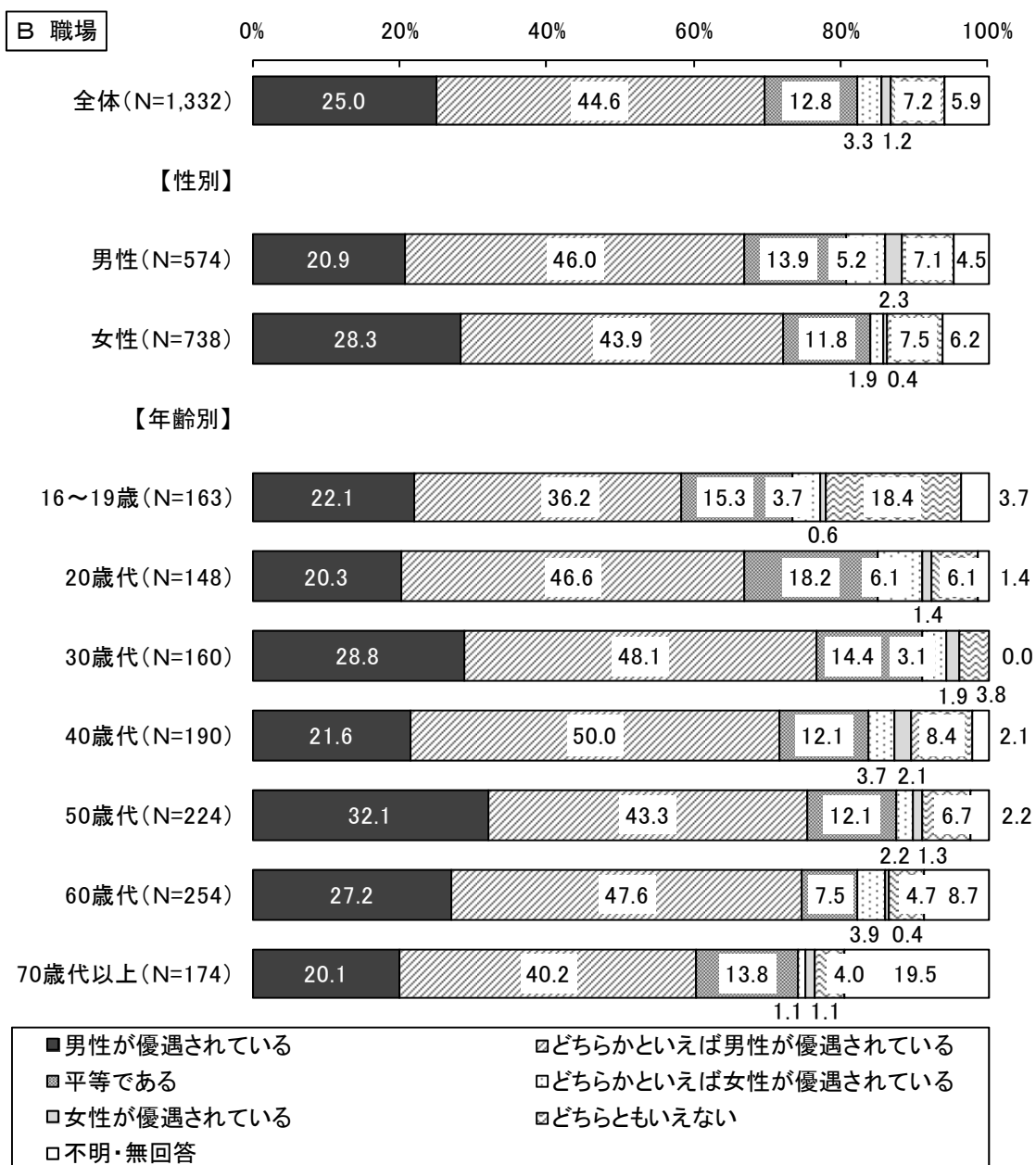


B 職場

職場では、全体で「どちらかといえば男性が優遇されている」が44.6%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」が25.0%となっています。『男性優遇』(69.6%)に対し、「平等である」(12.8%)、『女性優遇』(4.5%)となっています。

性別では、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、男性で46.0%、女性で43.9%となっています。女性は男性と比べて「男性が優遇されている」が7.4ポイント、『男性優遇』は5.3ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、いずれの年代でも「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、『男性優遇』は5割を超えています。「平等である」が最も高い年代は、20歳代の18.2%にとどまっています。

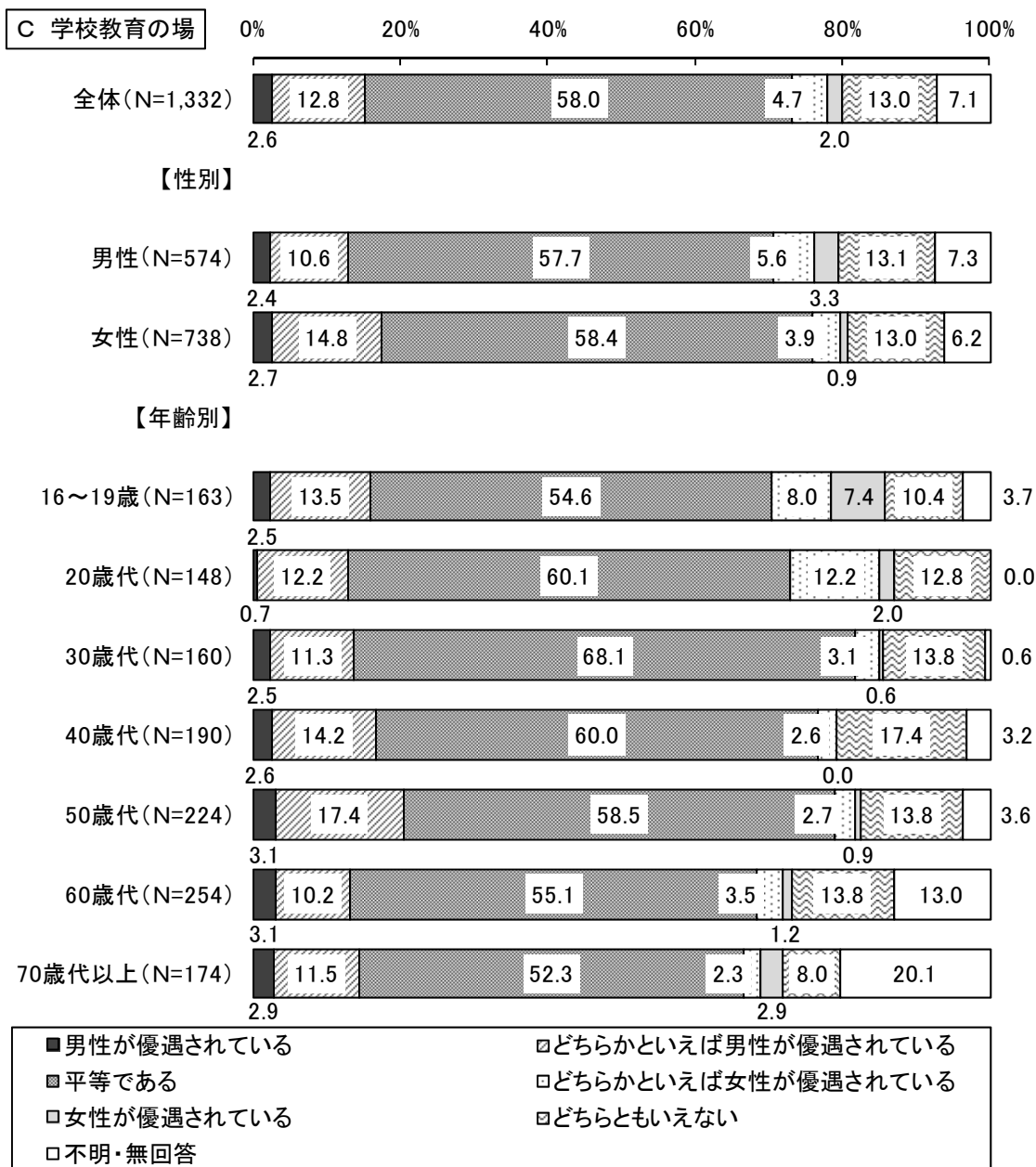


C 学校教育の場

学校教育の場では、全体で「平等である」が58.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が13.0%となっています。「平等である」に対し、『男性優遇』（15.4%）、『女性優遇』（6.7%）となっています。

性別では、男女ともに「平等である」が最も高く、男性で57.7%、女性で58.4%となっています。女性は男性と比べて『男性優遇』が4.5ポイント、男性は女性と比べて『女性優遇』が4.1ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、いずれの年代でも「平等である」が最も高くなっています。なお、50歳代で『男性優遇』が20.5%と、他の年代と比べて高くなっています。

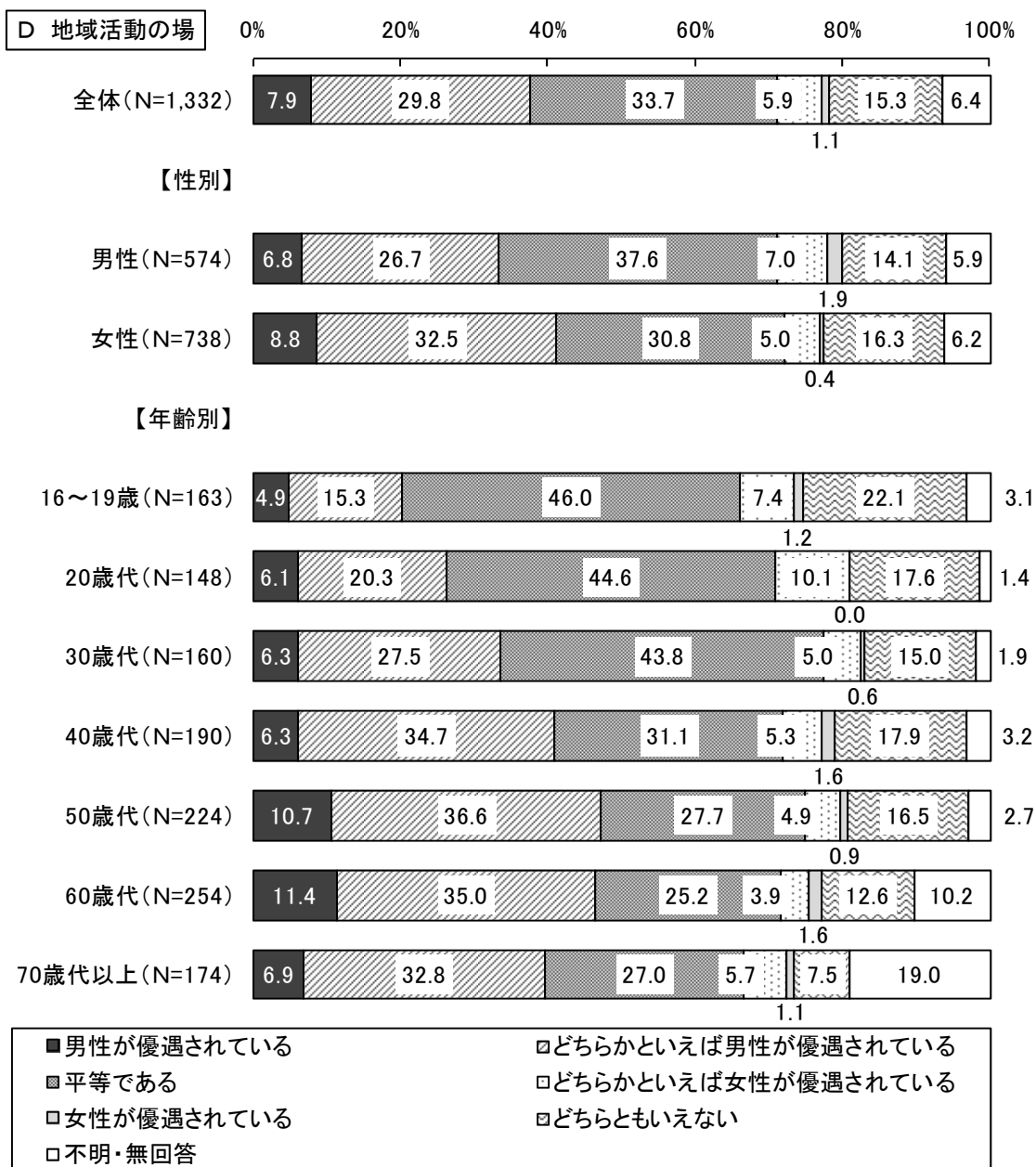


D 地域活動の場

地域活動の場では、全体で「平等である」が33.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が29.8%となっています。『男性優遇』（37.7%）が、「平等である」、『女性優遇』（7.0%）を上回っています。

性別では、男性で「平等である」が37.6%、女性で「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.5%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて『男性優遇』が7.8ポイント高くなっています。

年齢別では、70歳代以上を除いて年代が高くなるにしたがい、「平等である」が低くなっています。50歳代で『男性優遇』が47.3%と最も高くなっています。

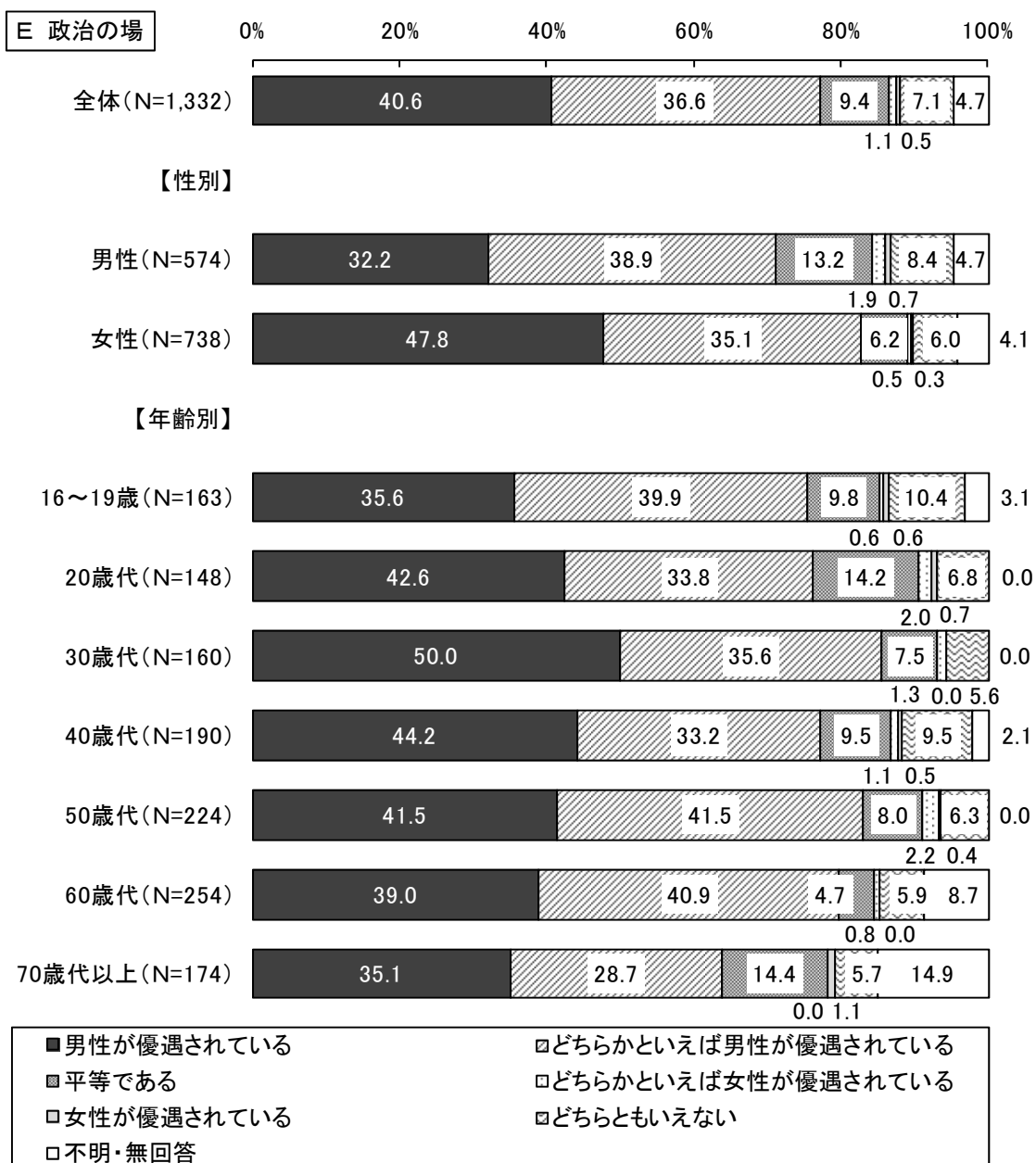


E 政治の場

政治の場では、全体で「男性が優遇されている」が40.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が36.6%となっています。『男性優遇』（77.2%）に対し、「平等である」（9.4%）、『女性優遇』（1.6%）となっています。

性別では、男性で「どちらかといえば男性が優遇されている」が38.9%、女性で「男性が優遇されている」が47.8%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて『男性優遇』が11.8ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」が高くなっています。70歳代以上を除いて『男性優遇』が7割を超えており、30歳代では85.6%と最も高くなっています。

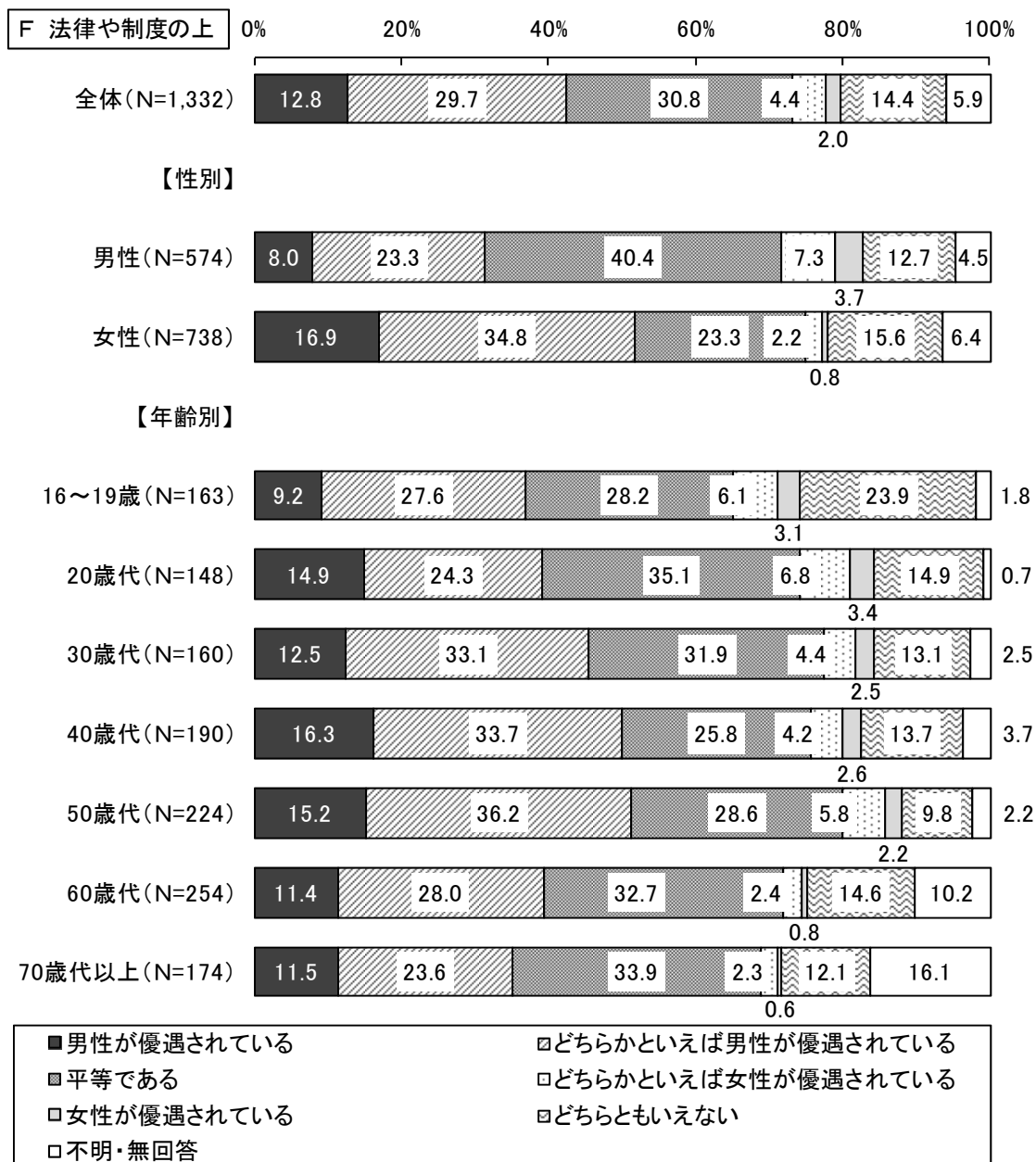


F 法律や制度の上

法律や制度の上では、全体で「平等である」が30.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が29.7%となっています。『男性優遇』（42.5%）に対し、「平等である」、『女性優遇』（6.4%）となっています。

性別では、男性で「平等である」が40.4%、女性で「どちらかといえば男性が優遇されている」が34.8%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて『男性優遇』が20.4ポイント高くなっています。

年齢別では、30歳代から50歳代で『男性優遇』が5割前後と高くなっています。

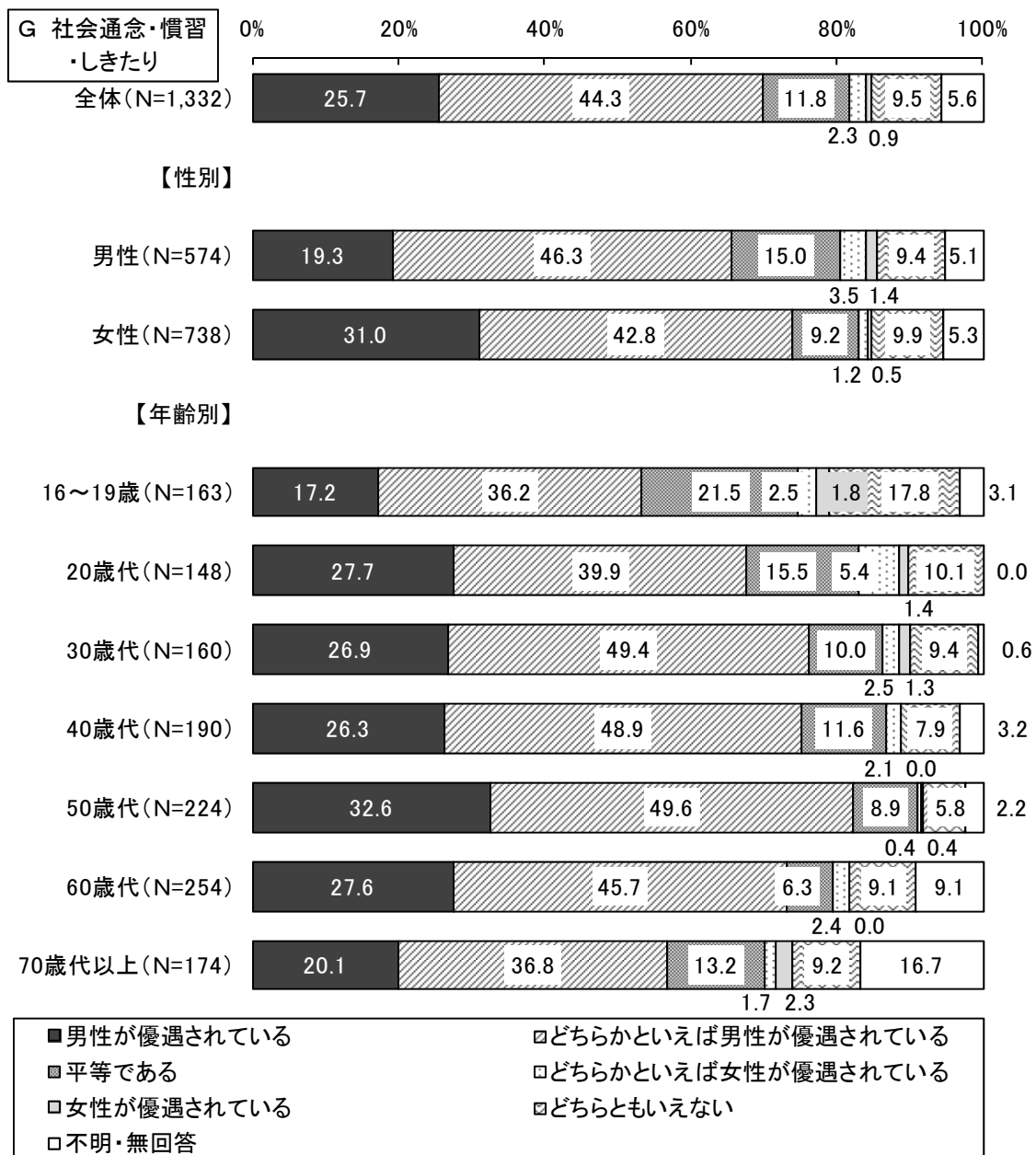


G 社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりでは、全体で「どちらかといえば男性が優遇されている」が44.3%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」が25.7%となっています。『男性優遇』(70.0%)に対し、「平等である」(11.8%)、『女性優遇』(3.2%)となっています。

性別では、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、男性で46.3%、女性で42.8%となっています。女性は男性と比べて『男性優遇』が8.2ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「どちらかといえば男性が優遇されている」が高くなっています。30歳代から60歳代では『男性優遇』が7割を超えており、50歳代で82.2%と最も高くなっています。

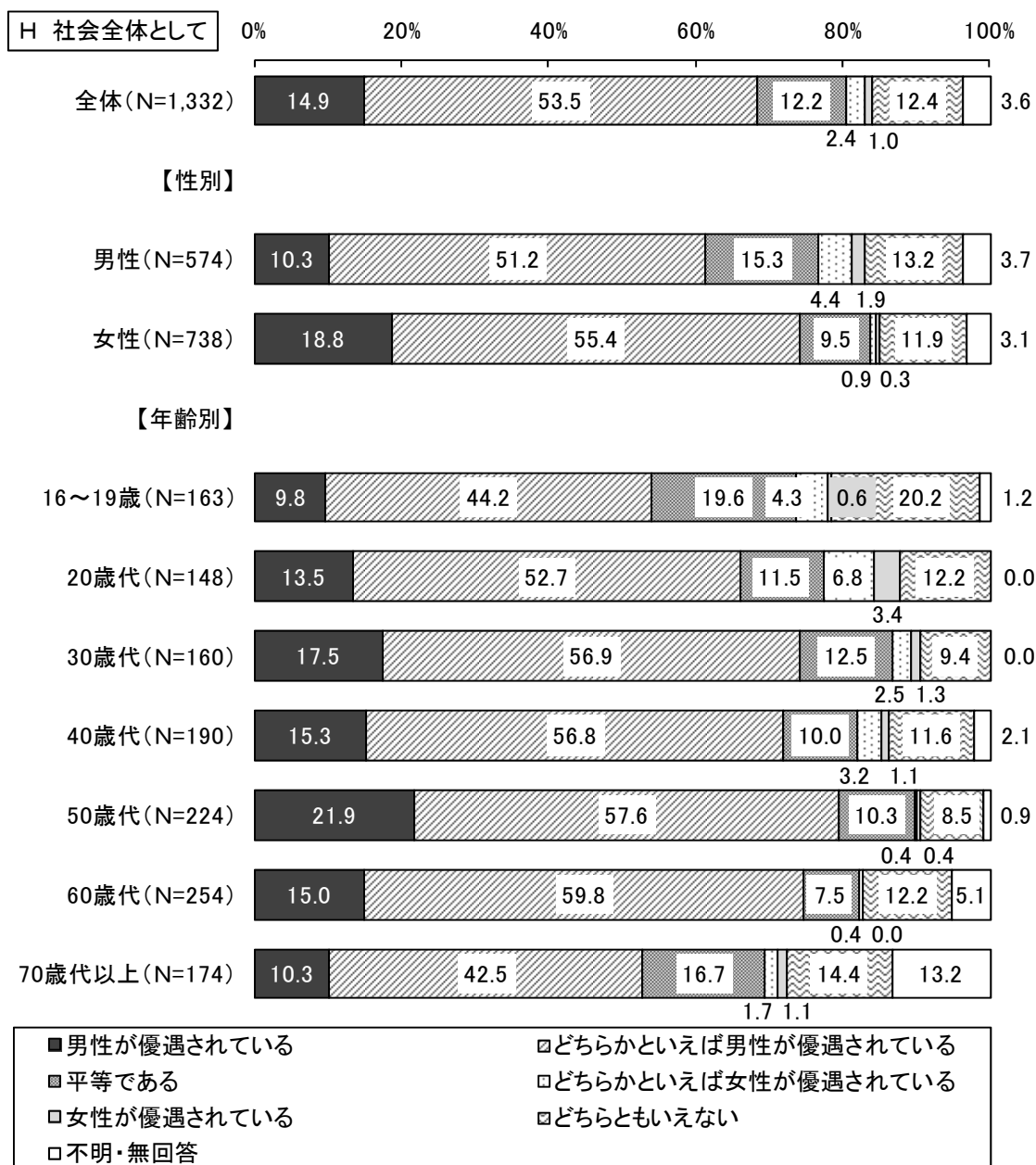


H 社会全体として

社会全体としては、全体で「どちらかといえば男性が優遇されている」が 53.5%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」が 14.9%となっています。『男性優遇』(68.4%) に対し、「平等である」(12.2%)、『女性優遇』(3.4%) となっています。

性別では、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、男性で 51.2%、女性で 55.4%となっています。女性は男性と比べて『男性優遇』が 12.7 ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「どちらかといえば男性が優遇されている」が高くなっています。30 歳代から 60 歳代では『男性優遇』が 7 割を超えており、50 歳代で 79.5%と最も高くなっています。

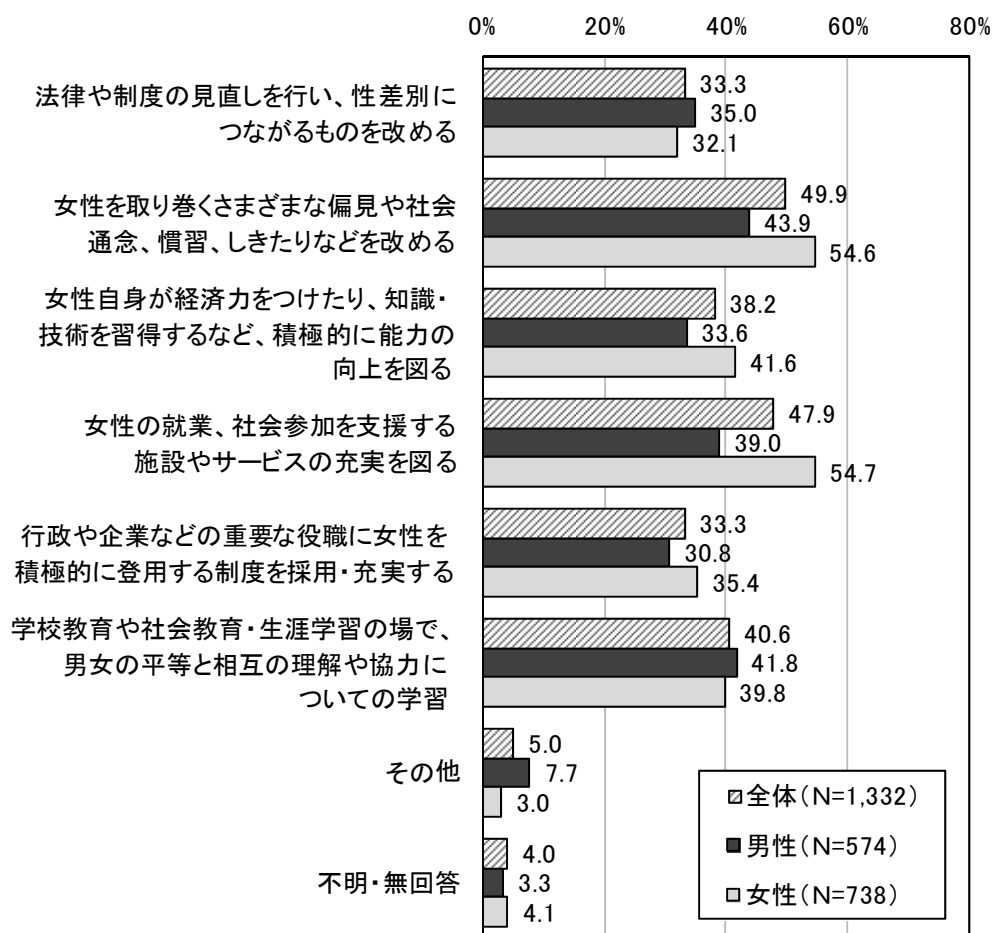


問3あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要なことは、全体で「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が49.9%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が47.9%となっています。

性別では、男性で「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が43.9%、女性で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が54.7%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が15.7ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」または「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」の他に、「行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する」「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習」も高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

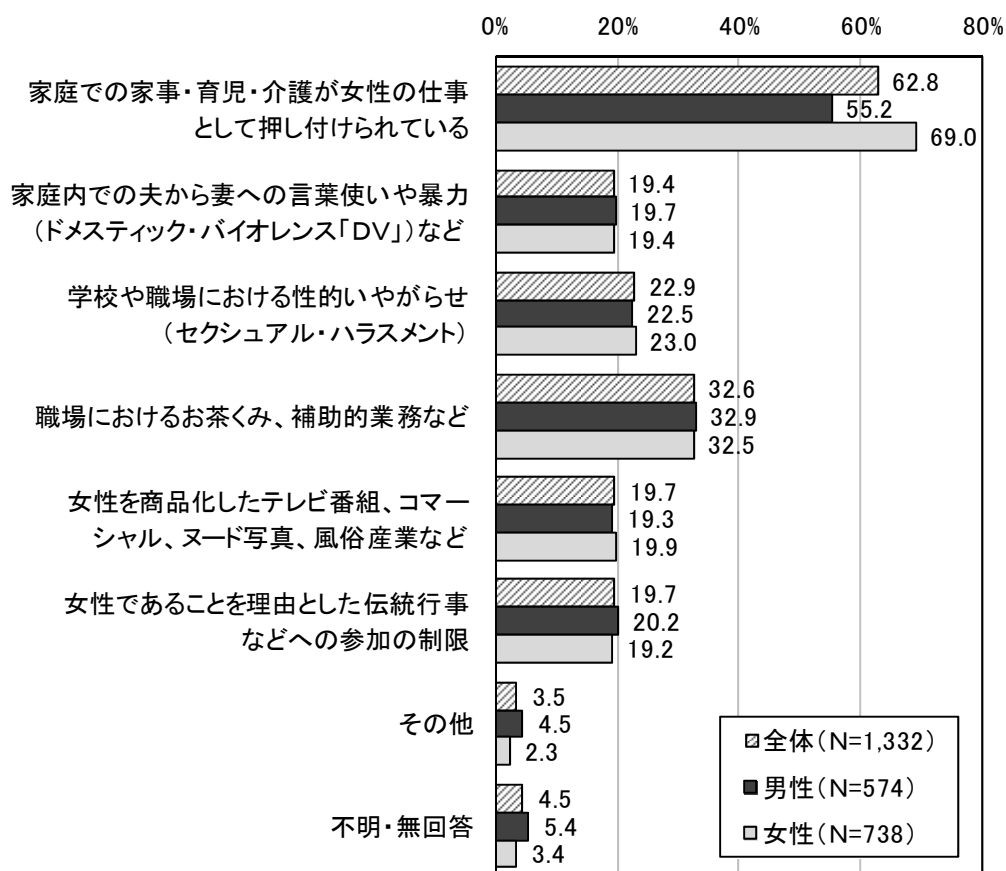
	法律や制度の見直しを行い、性別につながるものを改める	女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図る	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	行政や企業などの重要な役割に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	その他	不明・無回答
16～19歳（N=163）	39.9	41.1	33.1	42.3	39.3	36.2	4.3	2.5
20歳代（N=148）	36.5	50.7	33.8	43.2	35.1	37.2	9.5	1.4
30歳代（N=160）	29.4	51.9	31.9	54.4	31.9	40.6	5.6	1.9
40歳代（N=190）	33.7	52.1	28.9	45.3	26.8	38.4	5.8	3.2
50歳代（N=224）	33.9	52.2	44.6	54.5	32.1	37.5	4.9	3.1
60歳代（N=254）	31.1	54.7	43.7	45.7	34.3	48.4	3.9	4.3
70歳代以上（N=174）	29.9	43.1	45.4	48.3	35.1	43.1	2.3	9.8

問4あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中から2つまで選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

女性の人権が尊重されていないと感じる場面は、全体で「家庭での家事・育児・介護が女性の仕事として押し付けられている」が62.8%と最も高く、次いで「職場におけるお茶くみ、補助的業務など」が32.6%となっています。

性別では、男女ともに「家庭での家事・育児・介護が女性の仕事として押し付けられている」が最も高く、男性で55.2%、女性で69.0%となっており、女性は男性と比べて13.8ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「家庭での家事・育児・介護が女性の仕事として押し付けられている」が最も高くなっています。なお、20歳代では「学校や職場における性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）」が35.1%と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

	家庭での家事・育児・介護が女性の仕事として押し付けられている	家庭内での夫から妻への言葉使用や暴力（ドメスティック・バイオレンス「DV」）など	学校や職場における性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	職場におけるお茶くみ、補助的業務など	女性を商品化したテレビ番組、コマーシャル、ヌード写真、風俗産業など	女性であることを理由とした伝統行事などへの参加の制限	その他	不明・無回答
16～19歳（N=163）	65.0	24.5	27.6	28.8	9.2	17.8	3.7	3.1
20歳代（N=148）	60.8	23.0	35.1	40.5	12.2	16.2	2.0	2.7
30歳代（N=160）	63.1	16.9	20.0	43.8	13.1	18.1	5.0	2.5
40歳代（N=190）	66.8	17.4	26.8	31.6	20.5	18.9	3.7	3.2
50歳代（N=224）	64.7	18.8	18.8	31.7	21.9	24.1	2.7	3.1
60歳代（N=254）	60.2	20.1	17.3	27.6	29.1	23.6	3.1	5.1
70歳代以上（N=174）	59.2	16.7	20.1	29.3	24.1	14.9	2.9	10.3

3. 結婚、家庭・地域生活について

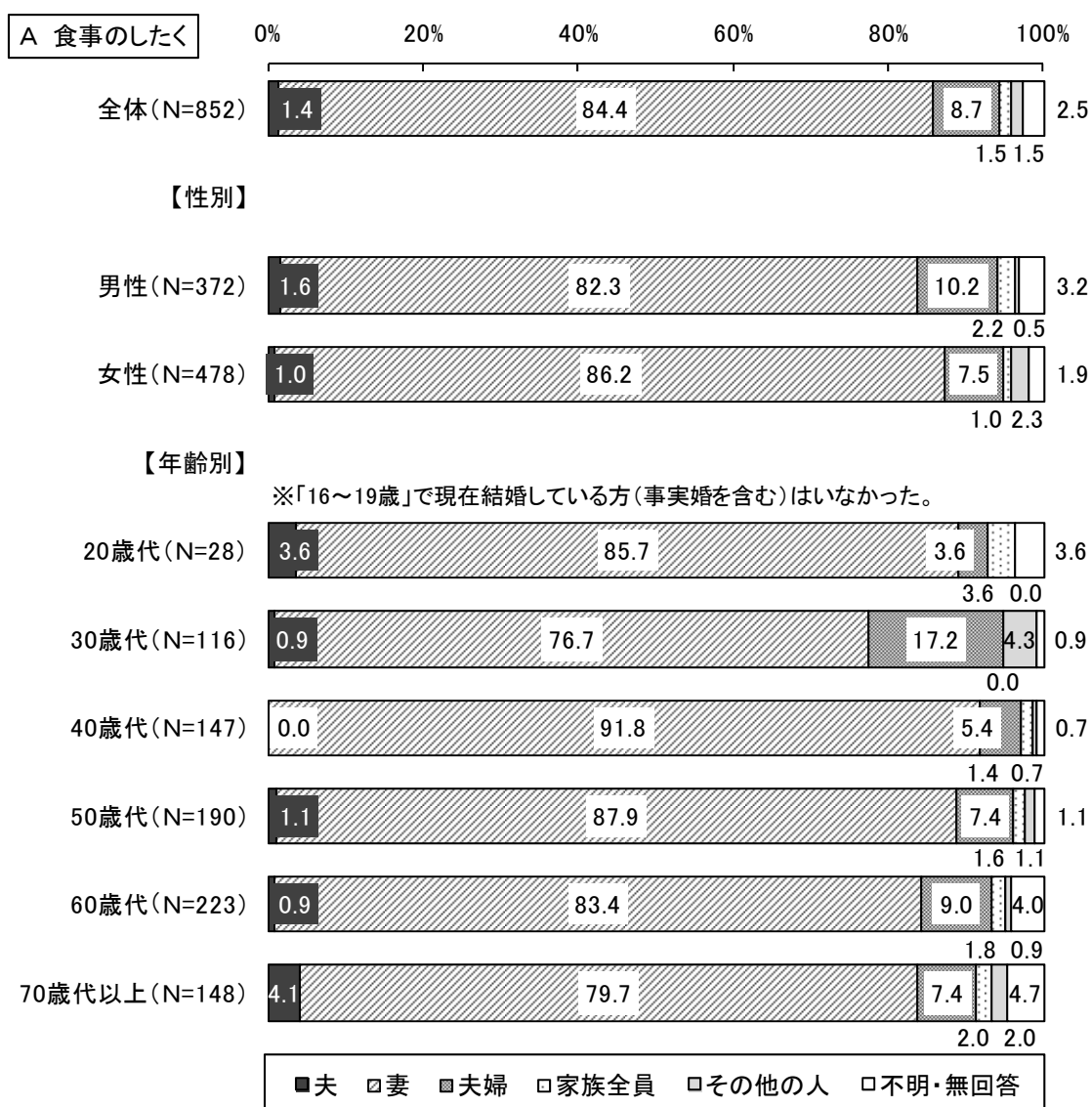
問5 「現在結婚しているかた(事実婚を含む)」にお聞きします。あなたの家庭では、次にあげる家事は主にだれが分担していますか。(A~Hのそれぞれの項目について、当てはまる番号を1つ選んで、番号を○で囲んでください。)(1選択)

A 食事のしたく

食事のしたくは、全体で「妻」が84.4%と最も高く、次いで「夫婦」が8.7%となっています。

性別では、男女ともに「妻」が最も高く、男性で82.3%、女性で86.2%となっており、女性は男性と比べて3.9ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「妻」が最も高く、40歳代で91.8%となっています。なお、30歳代では「夫婦」が17.2%と、他の年代と比べて高くなっています。

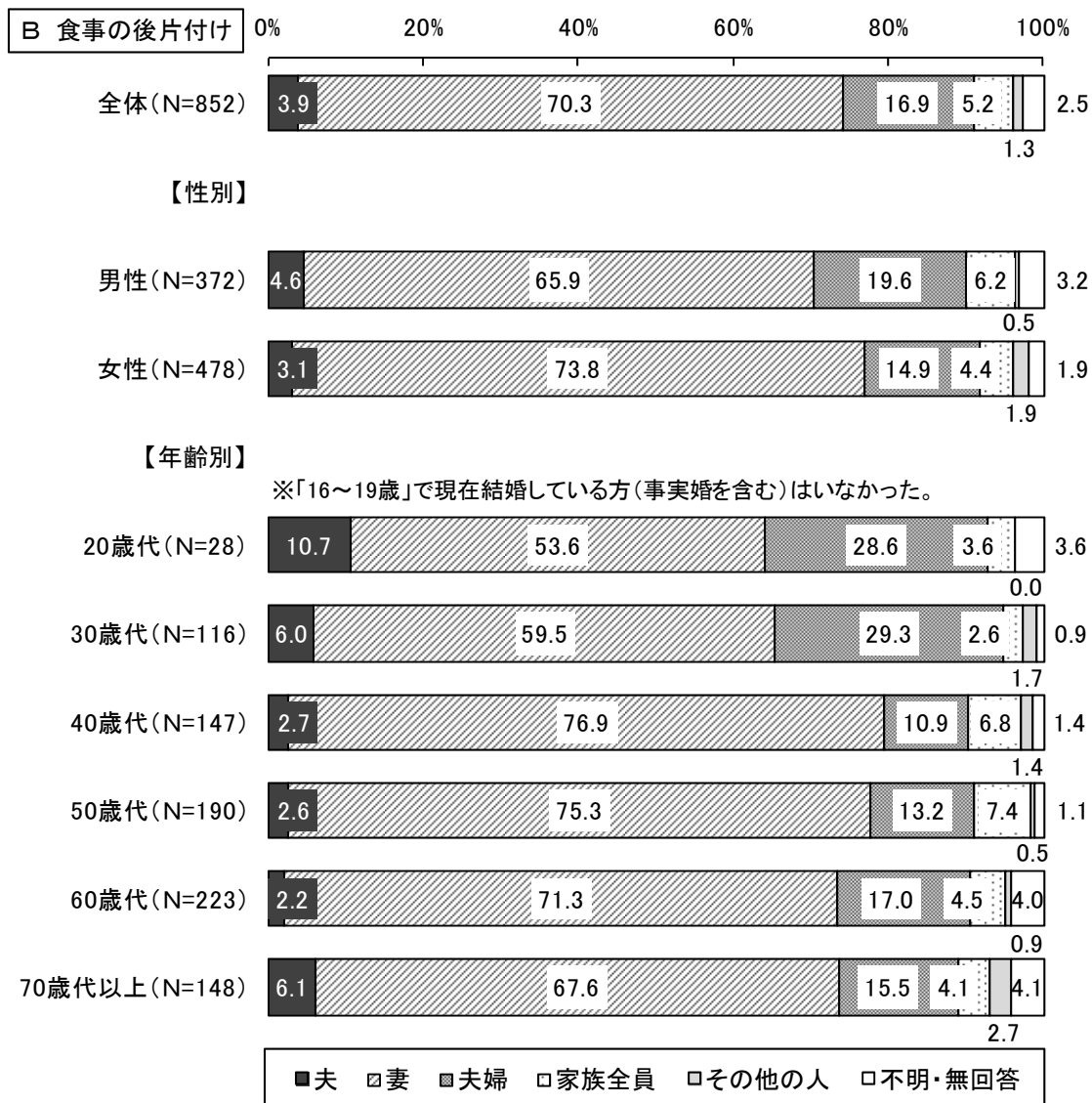


B 食事の後片付け

食事の後片付けは、全体で「妻」が70.3%と最も高く、次いで「夫婦」が16.9%となっています。

性別では、男女ともに「妻」が最も高く、男性で65.9%、女性で73.8%となっており、女性は男性と比べて7.9ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「妻」が最も高く、40歳代で76.9%となっています。なお、20歳代及び30歳代では「夫婦」が3割弱と、他の年代と比べて高くなっています。

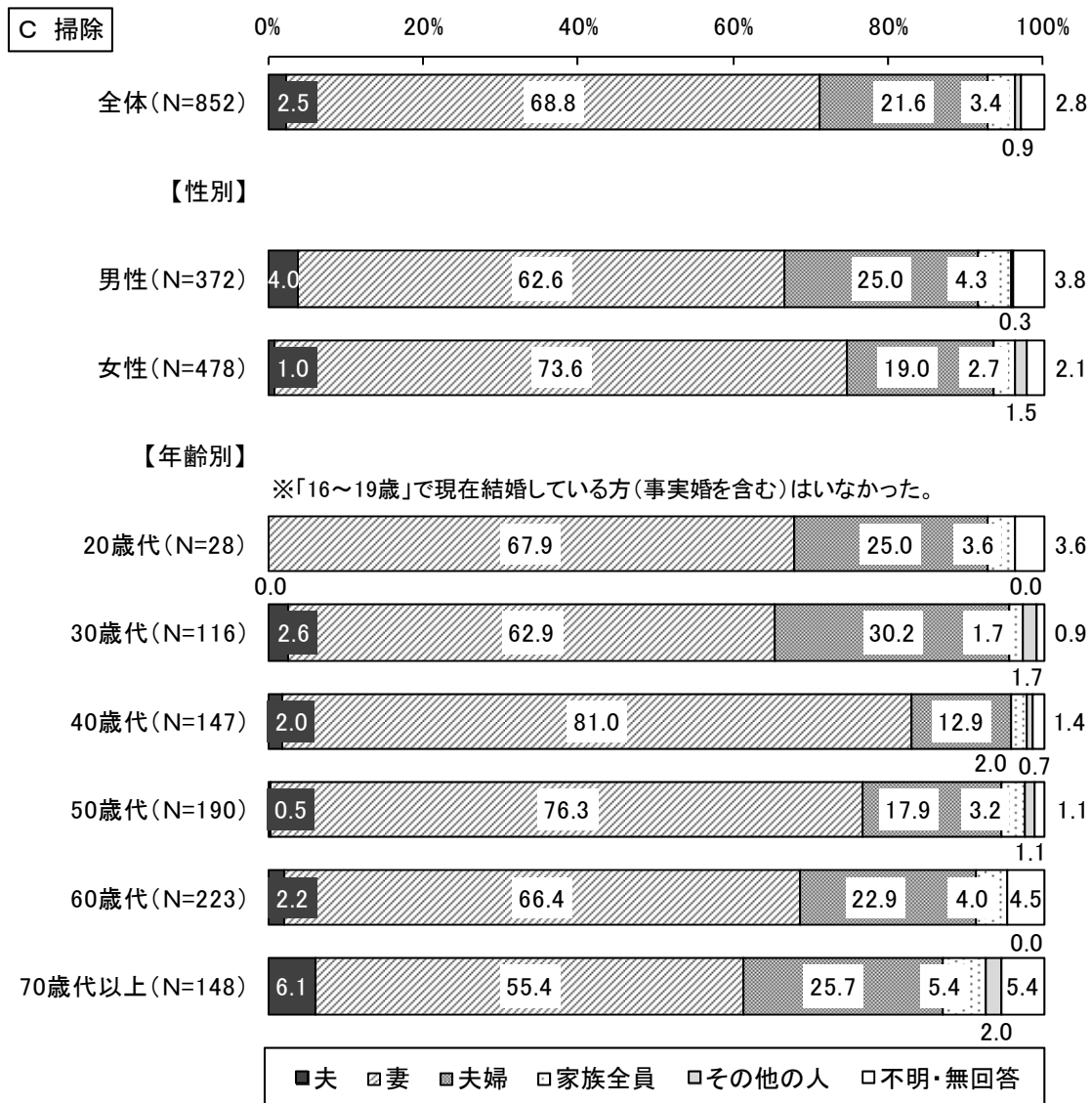


C 掃除

掃除は、全体で「妻」が68.8%と最も高く、次いで「夫婦」が21.6%となっています。

性別では、男女ともに「妻」が最も高く、男性で62.6%、女性で73.6%となっており、女性は男性と比べて11.0ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「妻」が最も高く、40歳代で81.0%となっています。なお、20歳代、30歳代及び70歳代以上では「夫婦」が3割前後と、他の年代と比べて高くなっています。

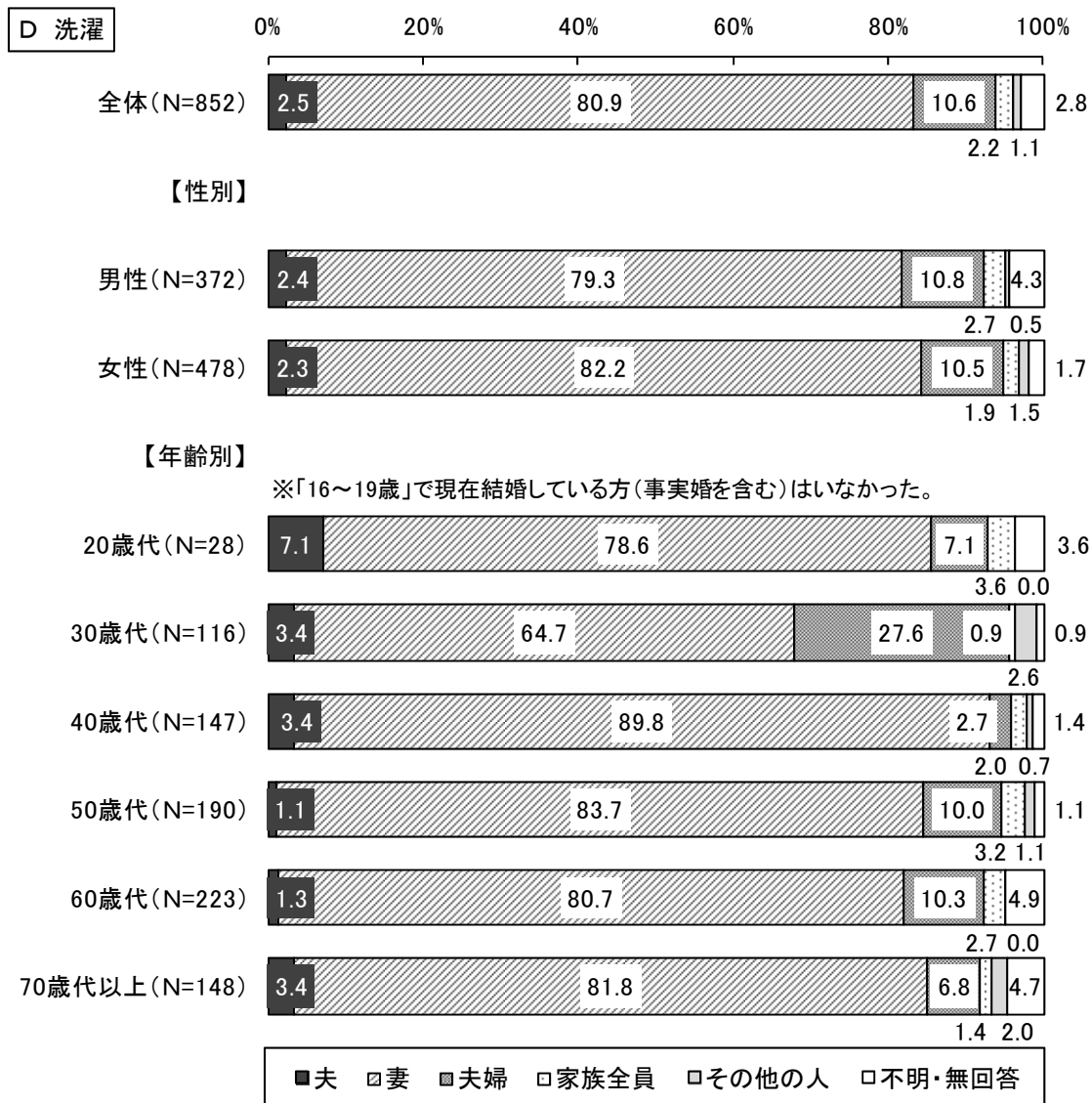


D 洗濯

洗濯は、全体で「妻」が80.9%と最も高く、次いで「夫婦」が10.6%となっています。

性別では、男女ともに「妻」が最も高く、男性で79.3%、女性で82.2%となっており、女性は男性と比べて2.9ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「妻」が最も高く、40歳代で89.8%となっています。なお、30歳代では「夫婦」が27.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

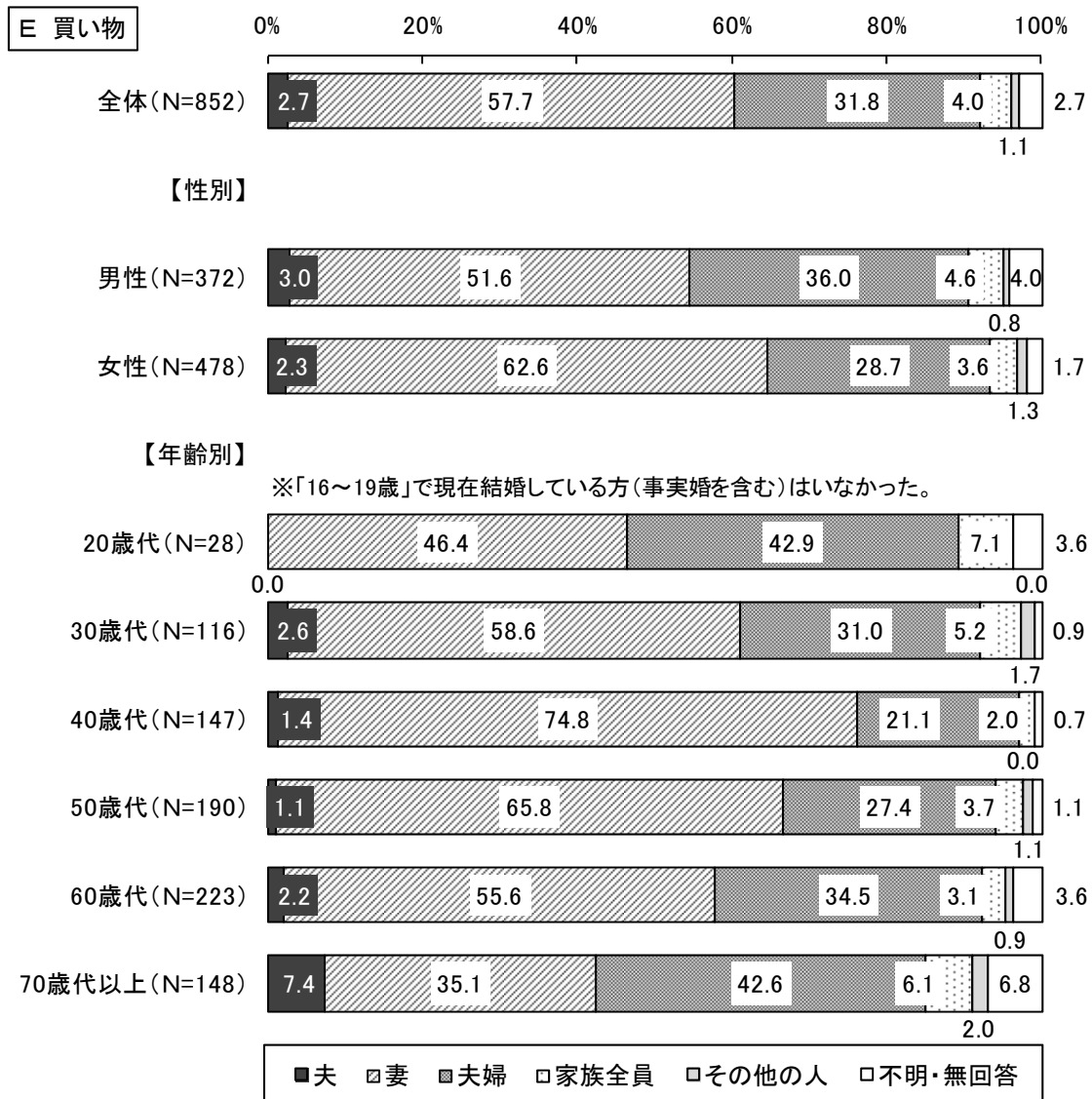


E 買い物

買い物は、全体で「妻」が57.7%と最も高く、次いで「夫婦」が31.8%となっています。

性別では、男女ともに「妻」が最も高く、男性で51.6%、女性で62.6%となっており、女性は男性と比べて11.0ポイント高くなっています。

年齢別では、70歳代以上を除いたいずれの年代も「妻」が最も高く、40歳代で74.8%となっています。なお、20歳代及び70歳代以上では「夫婦」が4割強と、他の年代と比べて高くなっています。

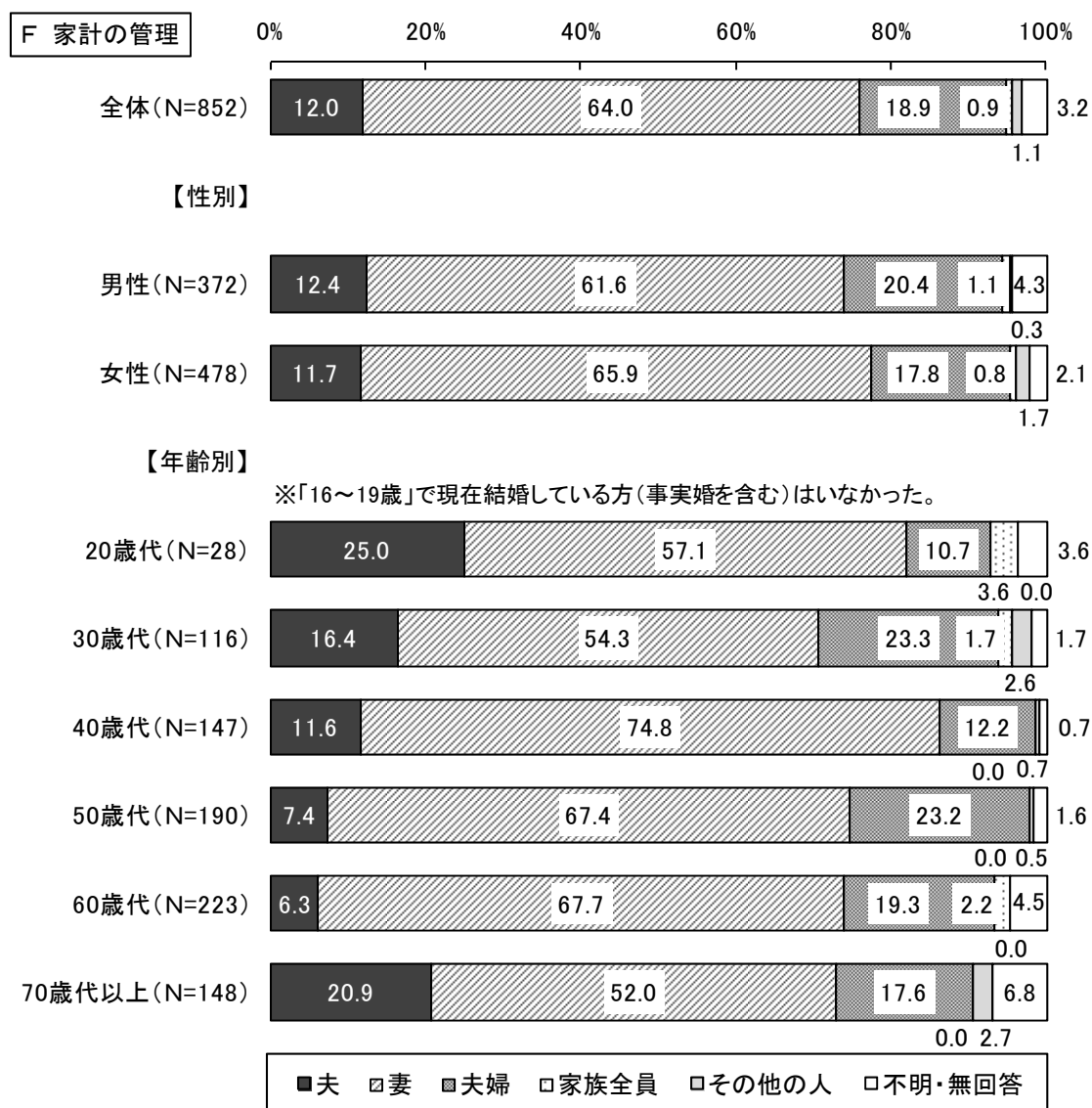


F 家計の管理

家計の管理は、全体で「妻」が64.0%と最も高く、次いで「夫婦」が18.9%となっています。

性別では、男女ともに「妻」が最も高く、男性で61.6%、女性で65.9%となっており、女性は男性と比べて4.3ポイント高くなっています。

年齢別では、70歳代以上を除いたいずれの年代も「妻」が最も高く、40歳代で74.8%となっています。なお、20歳代及び70歳代以上では「夫」が2割強と、他の年代と比べて高くなっています。

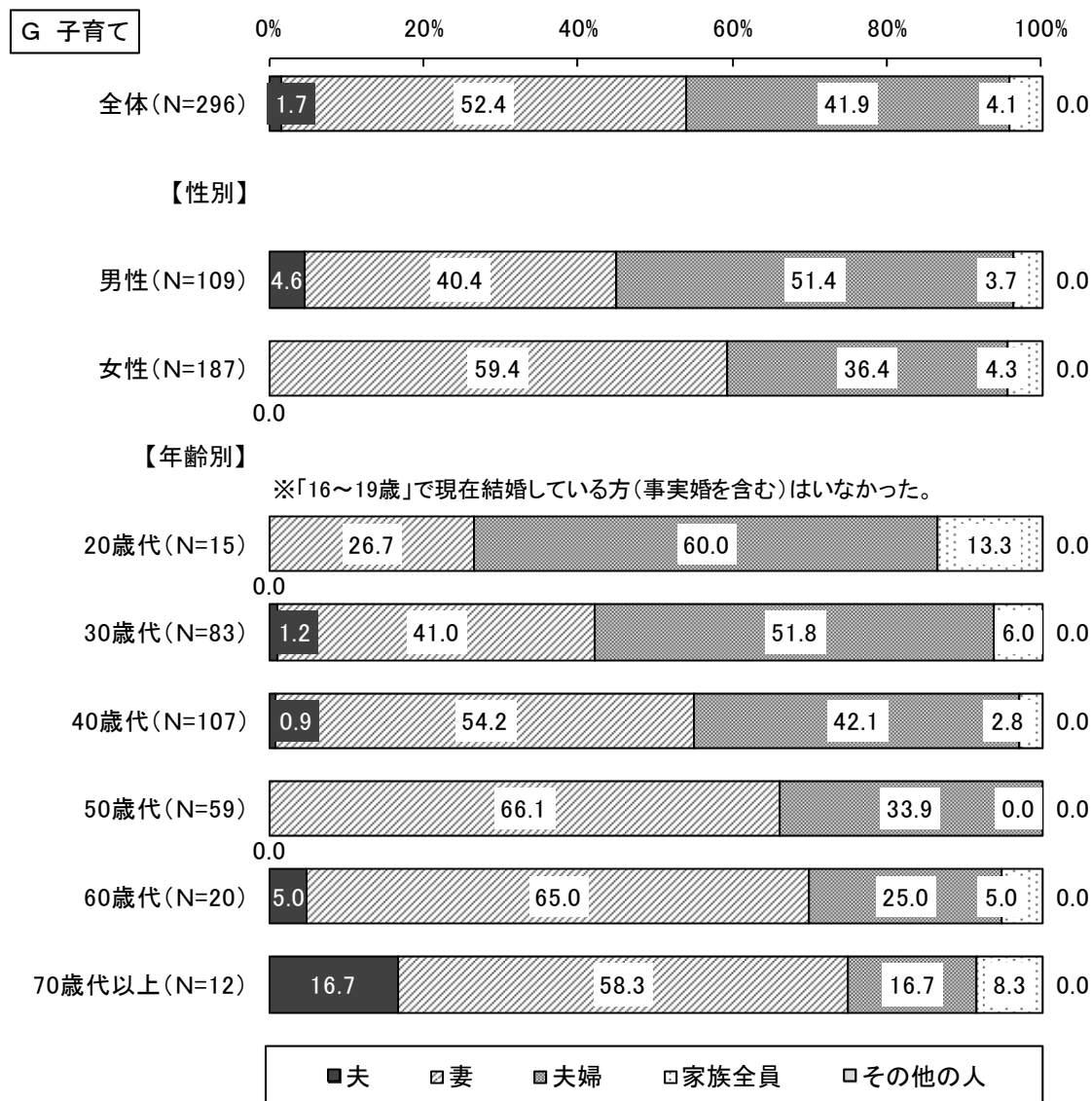


G 子育て

子育ては、全体で「妻」が52.4%と最も高く、次いで「夫婦」が41.9%となっています。

性別では、男性で「夫婦」が51.4%、女性で「妻」が59.4%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「妻」が19.0ポイント高くなっています。

年齢別では、30歳代以下で「夫婦」が、40歳代以上で「妻」がそれぞれ最も高くなっています。なお、20歳代では「家族全員」が13.3%と、他の年代と比べて高くなっています。



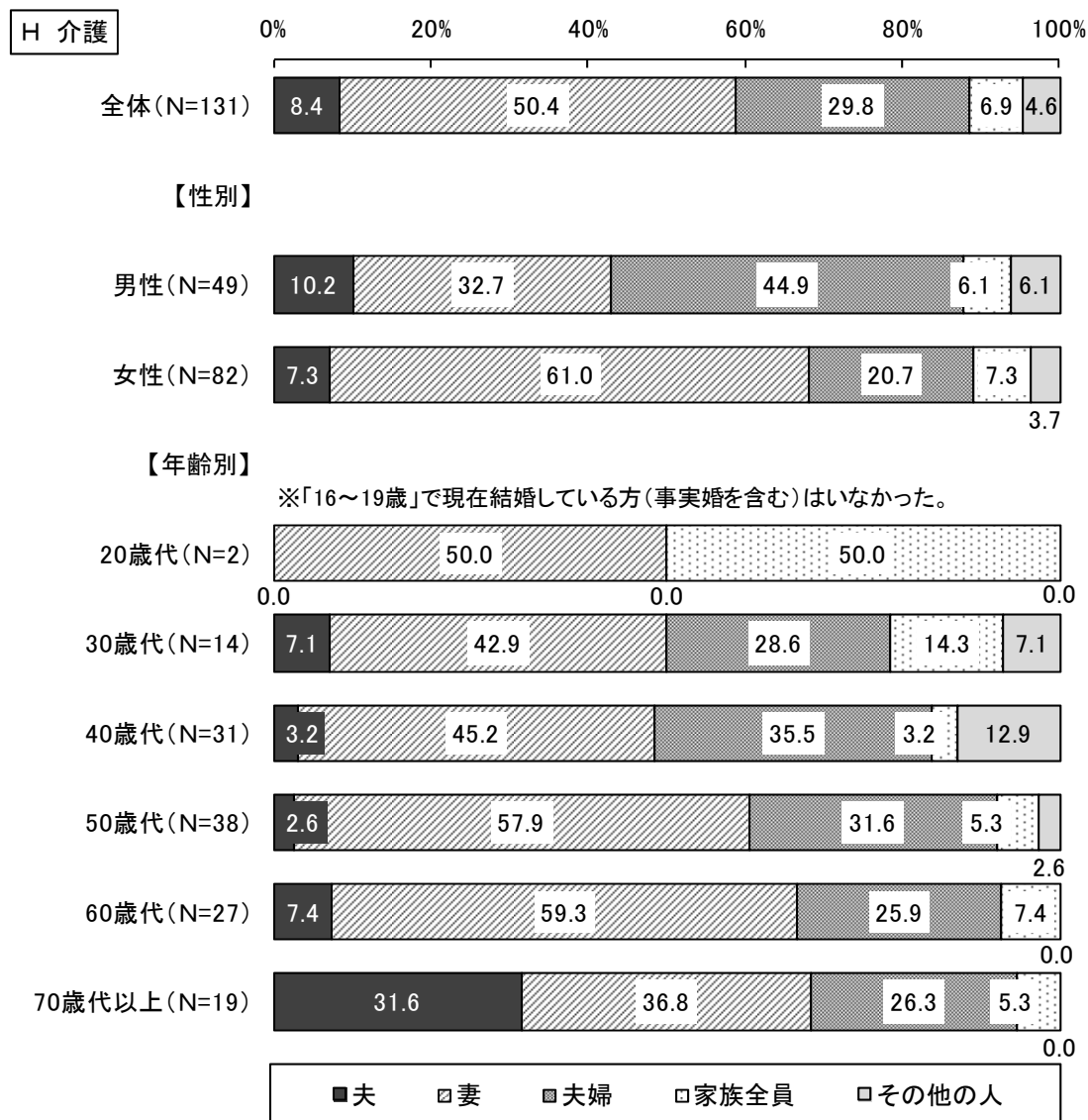
※「不明・無回答」を除く。

H 介護

介護は、全体で「妻」が50.4%と最も高く、次いで「夫婦」が29.8%となっています。

性別では、男性で「夫婦」が44.9%、女性で「妻」が61.0%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「妻」が28.3ポイント高くなっています。

年齢別では、30歳代以上で「妻」が最も高く、60歳代で59.3%となっています。なお、70歳代以上では「夫」が31.6%と、他の年代と比べて高くなっています。



※「不明・無回答」を除く。

問6あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。
次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

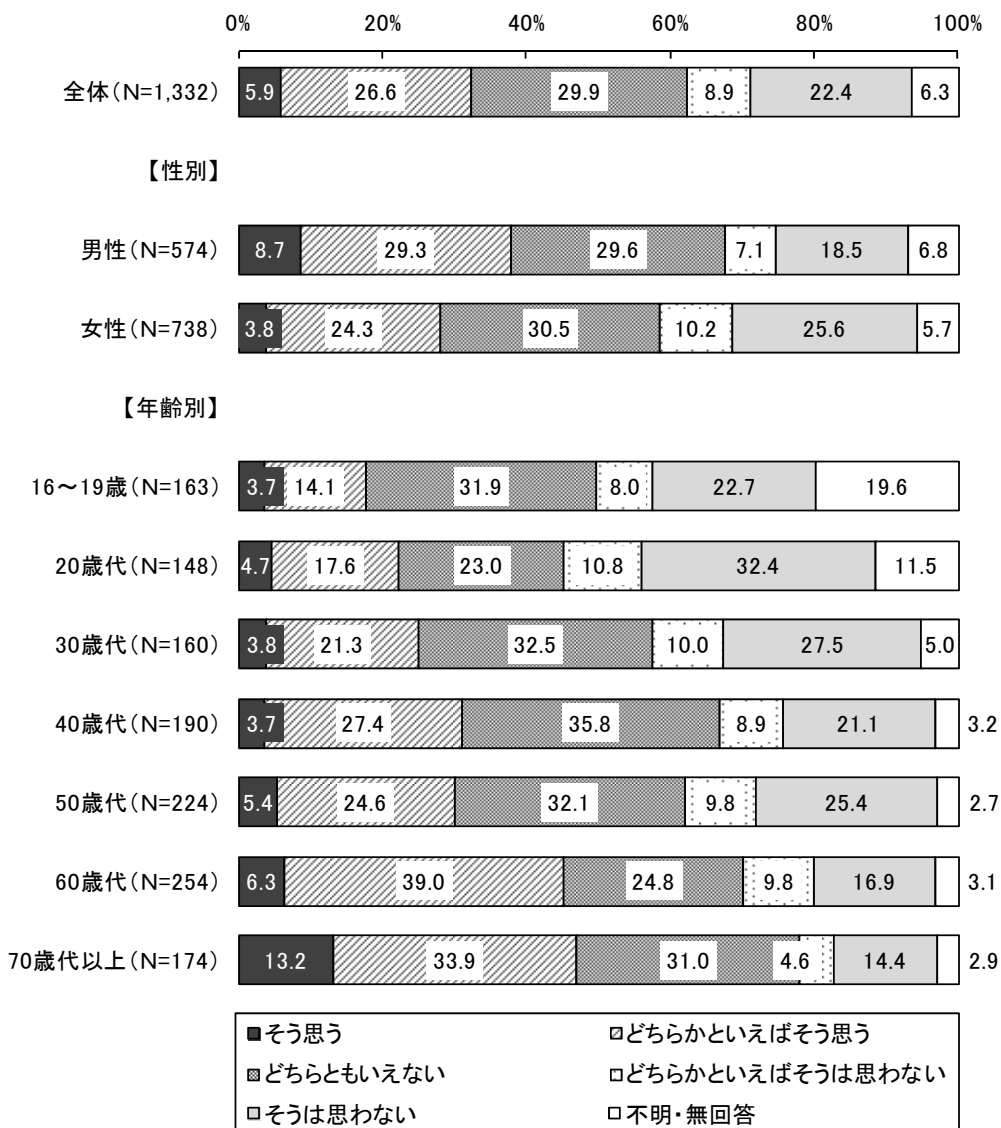
問6の選択肢にかかる表現は以下のように区分しており、このページ以降の文中においても反映されています。

- 『そう思う』 …「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの
- 『そうは思わない』 …「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせたもの

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、全体で「どちらともいえない」が29.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が26.6%となっています。『そう思う』(32.5%)が、「どちらともいえない」、『そうは思わない』(31.3%)を上回っています。

性別では、男女ともに「どちらともいえない」が最も高く、男性で29.6%、女性で30.5%となっています。男性は女性と比べて『そう思う』が9.9ポイント、女性は男性と比べて『そうは思わない』は10.2ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、16～19歳、30歳代～50歳代で「どちらともいえない」が、20歳代で「そうは思わない」、60歳代以上で「どちらかといえばそう思う」がそれぞれ最も高くなっています。60歳代以上では、『そう思う』が4割を超えて高くなっています。



問7あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

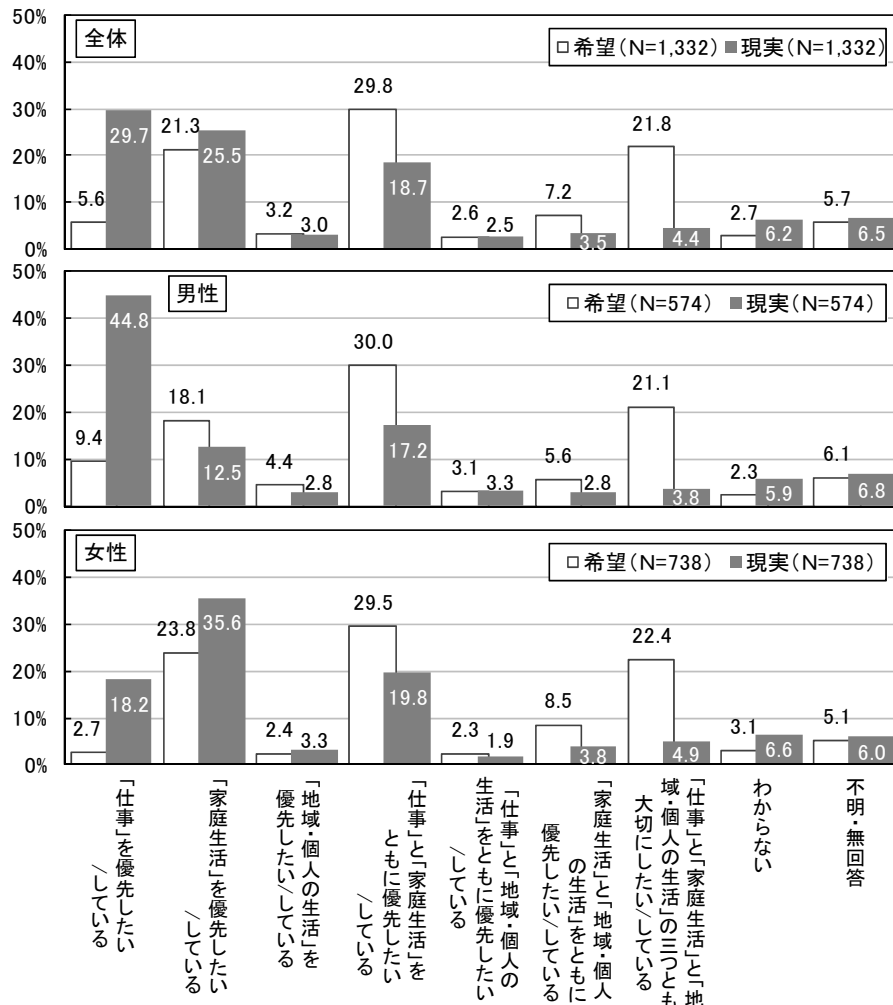
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」で優先するものは、全体で希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが29.8%と最も高いものの、現実には18.7%となっています。次いで、希望は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたいが21.8%であるものの、現実には4.4%となっています。現実では、「仕事」を優先しているが29.7%と最も高くなっています。

性別では、男女ともに希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが男性で30.0%、女性で29.5%とそれぞれ最も高いものの、現実には男性で17.2%、女性で19.8%となっています。現実では、男性で「仕事」を優先しているが44.8%、女性で「家庭生活」を優先しているが35.6%とそれぞれ最も高くなっています。

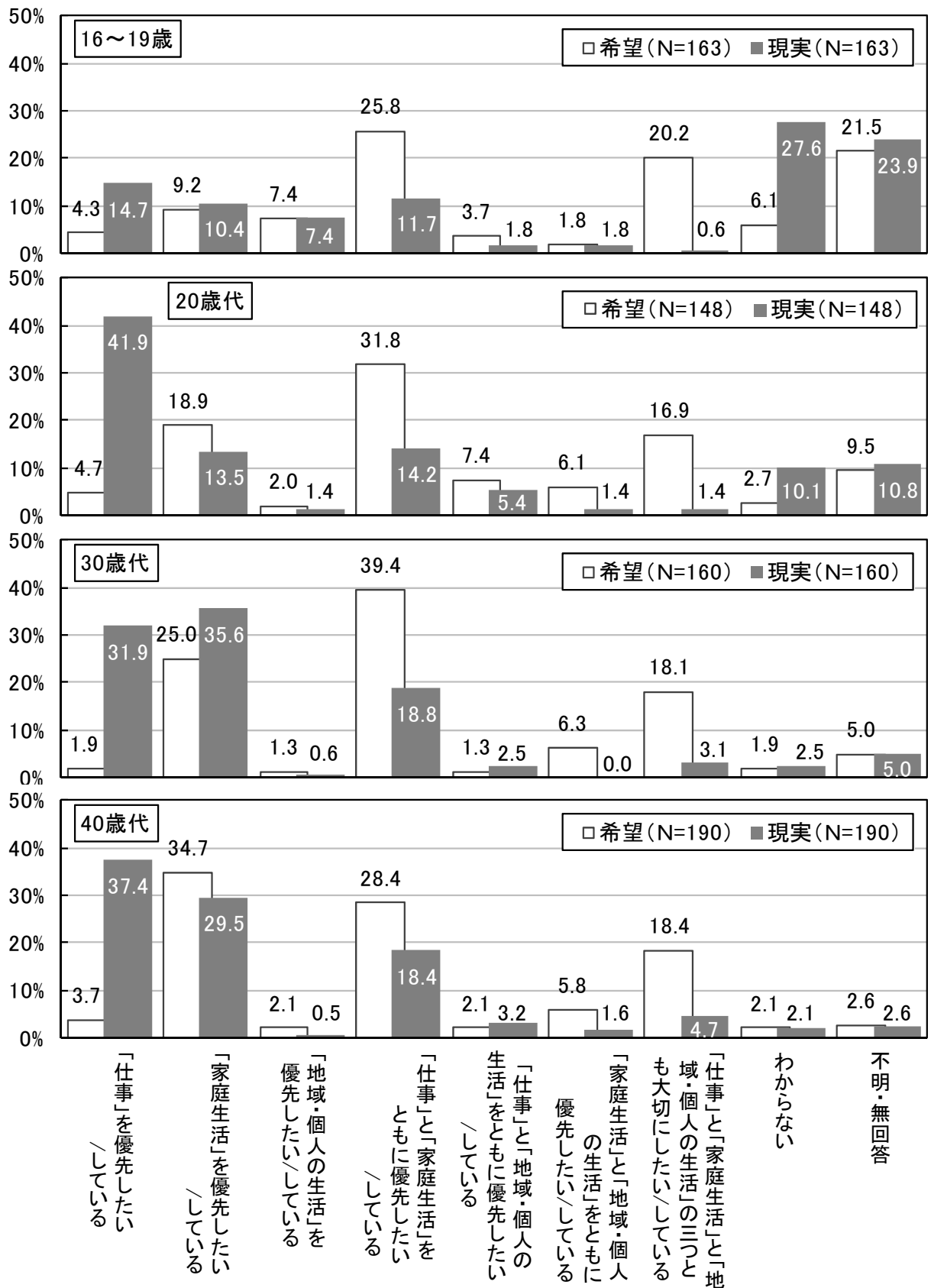
年齢別では、いずれの年代も希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが最も高いものの、現実には20歳代、40歳代及び50歳代は「仕事」を優先しているが、30歳代及び60歳代以上は「家庭生活」を優先しているがそれぞれ最も高くなっています。

女性の勤務形態別では、勤め人(常勤)、勤め人(非常勤)、パート、アルバイト、自営業の希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが最も高いものの、現実には勤め人(常勤)及び自営業は「仕事」を優先している、勤め人(非常勤)、パート、アルバイトは「家庭生活」を優先しているがそれぞれ最も高くなっています。

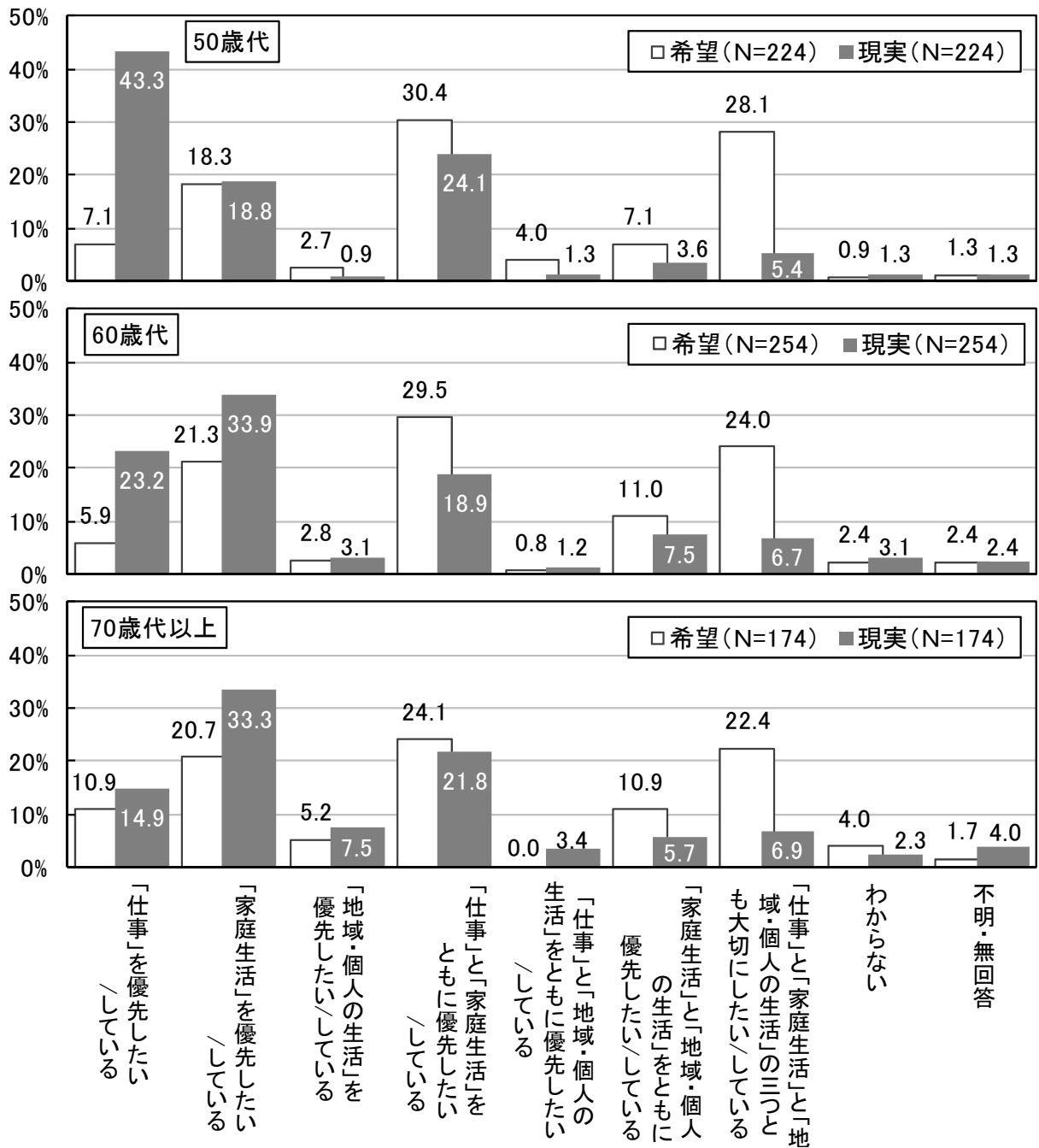
■クロス集計(全体・性別)



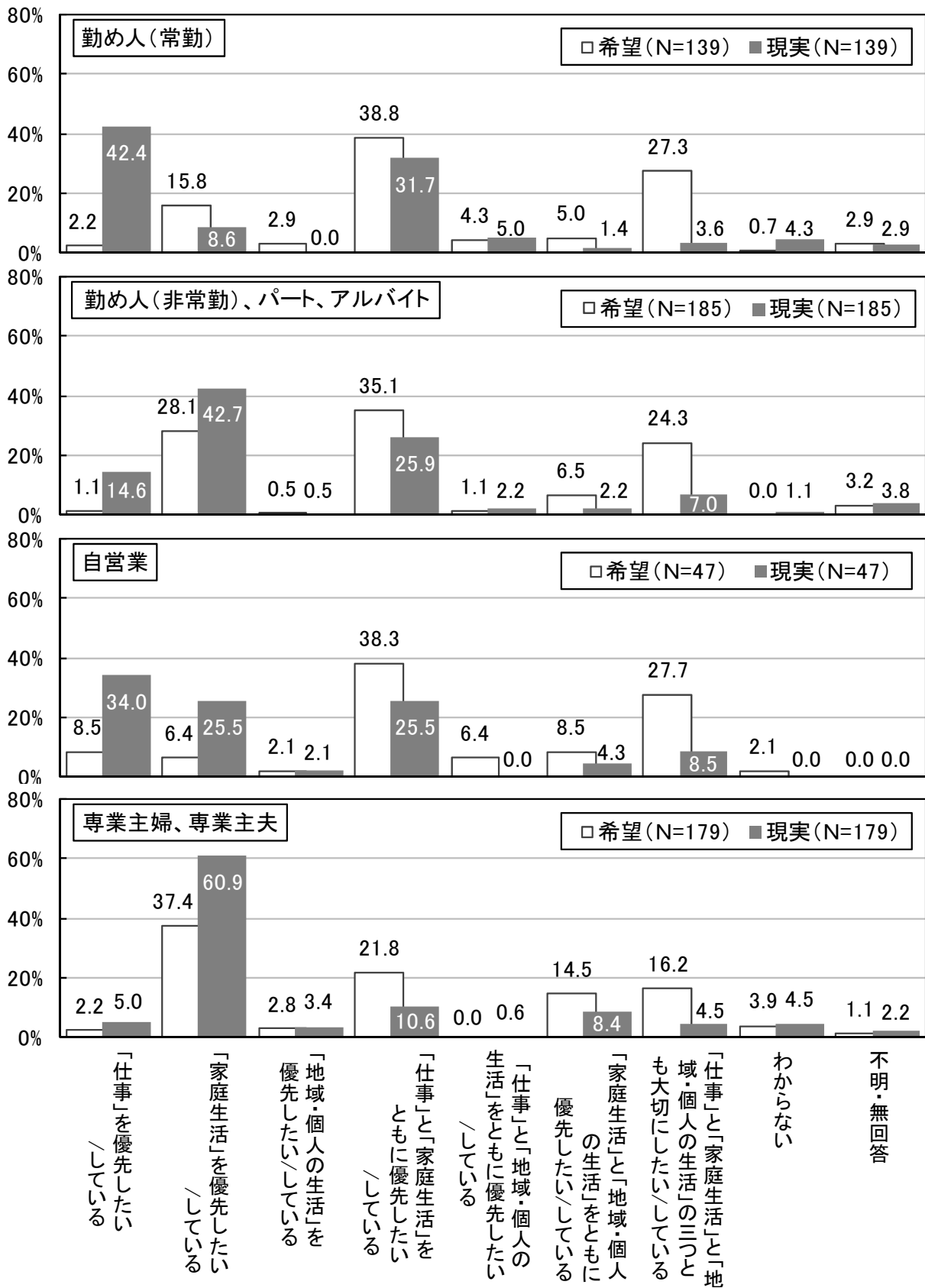
■クロス集計（年齢別）



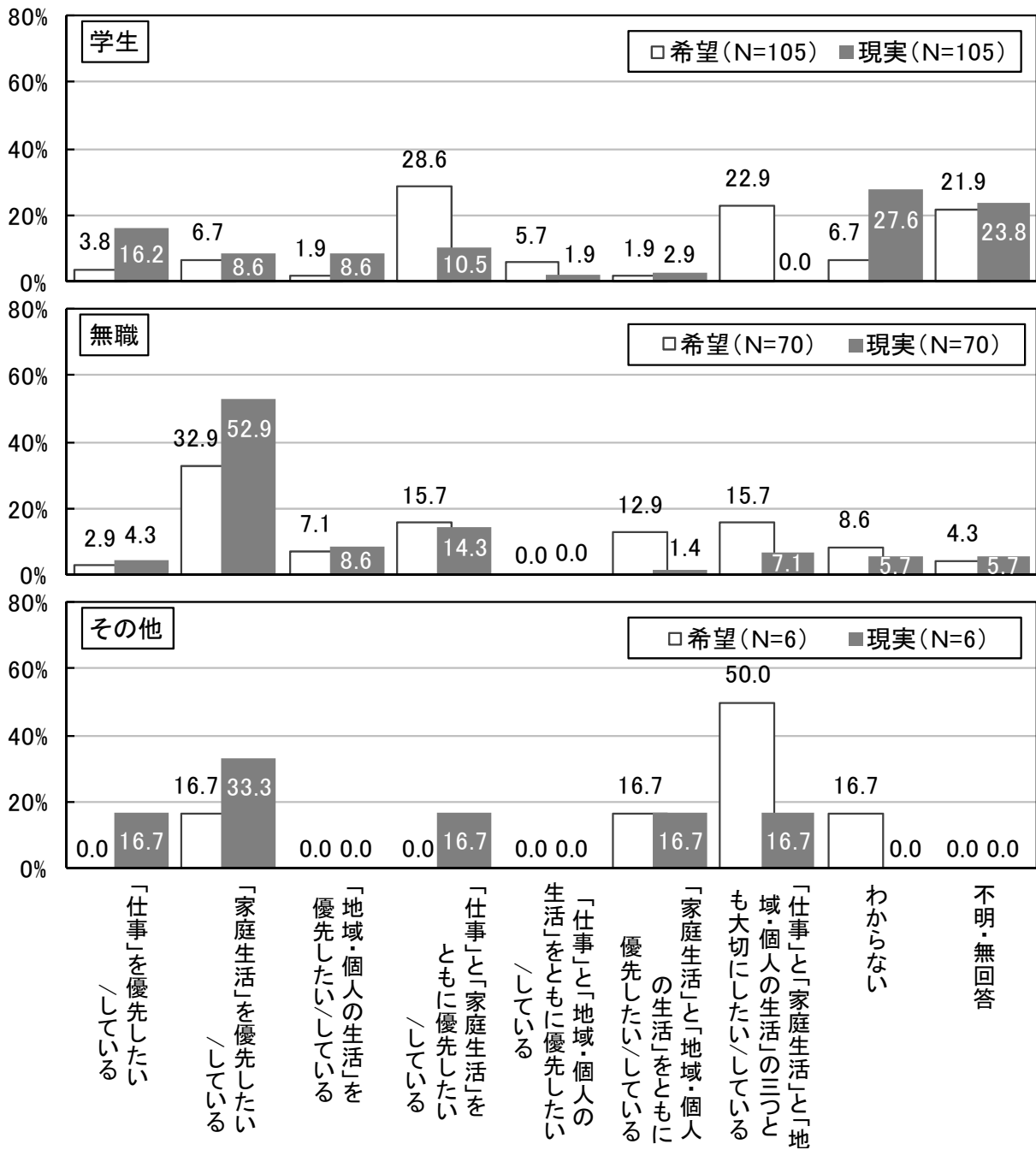
■クロス集計（年齢別）



■クロス集計（女性の勤務形態別）



■クロス集計（女性の勤務形態別）

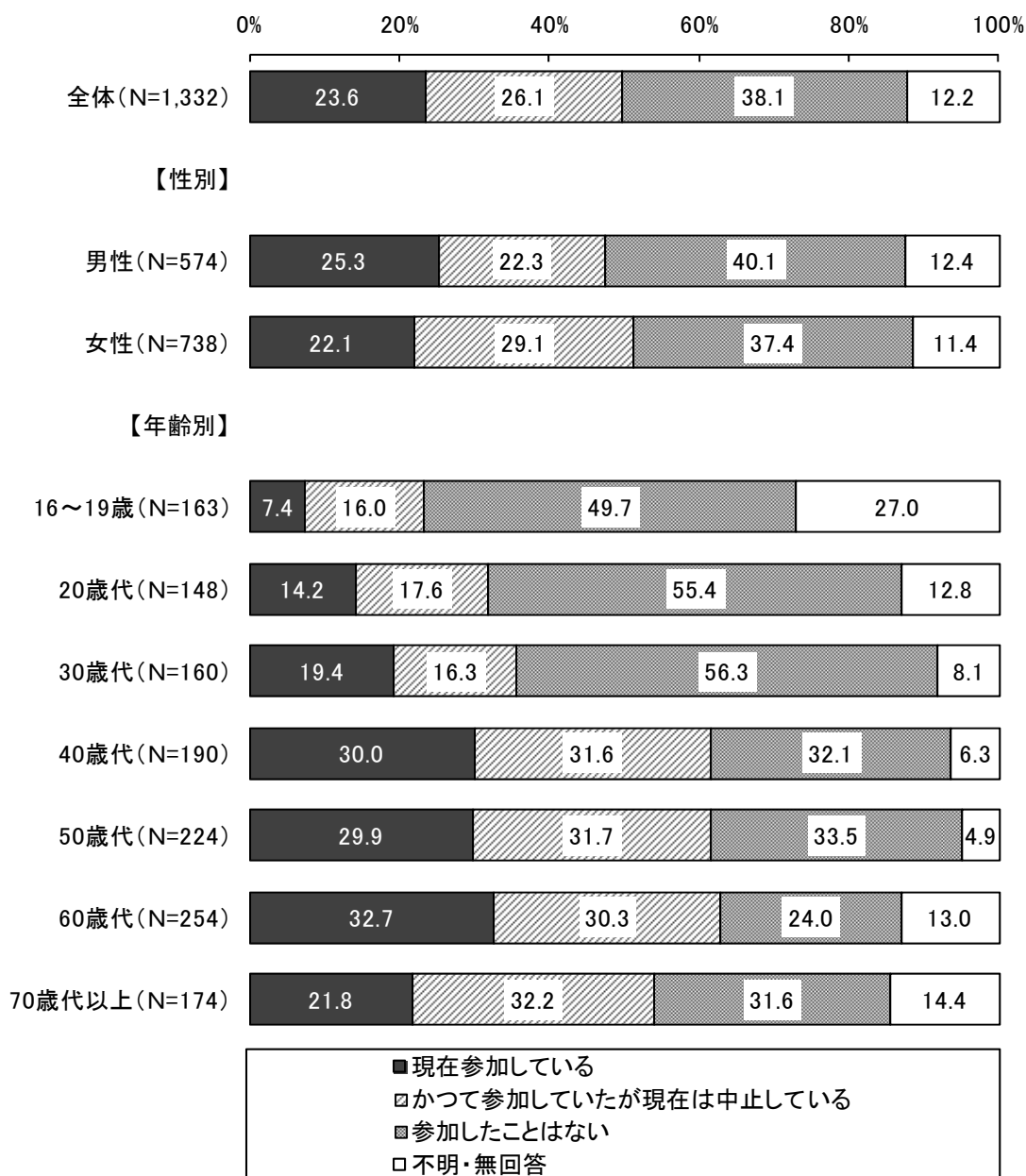


問8あなたは、仕事以外に地域で何か活動に参加した経験はありますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

仕事以外に地域での活動に参加した経験は、全体で「参加したことはない」が38.1%と最も高く、次いで「かつて参加していたが現在は中止している」が26.1%、「現在参加している」が23.6%となっています。

性別では、男女ともに「参加したことはない」が最も高く、男性で40.1%、女性で37.4%となっています。女性は男性と比べて「現在参加している」が3.2ポイント低くなっています。

年齢別では、30歳代以下で「参加したことはない」が最も高くなっています。40歳代～60歳代では「現在参加している」が3割前後である一方で、「かつて参加していたが現在は中止している」は3割を超えて高くなっています。

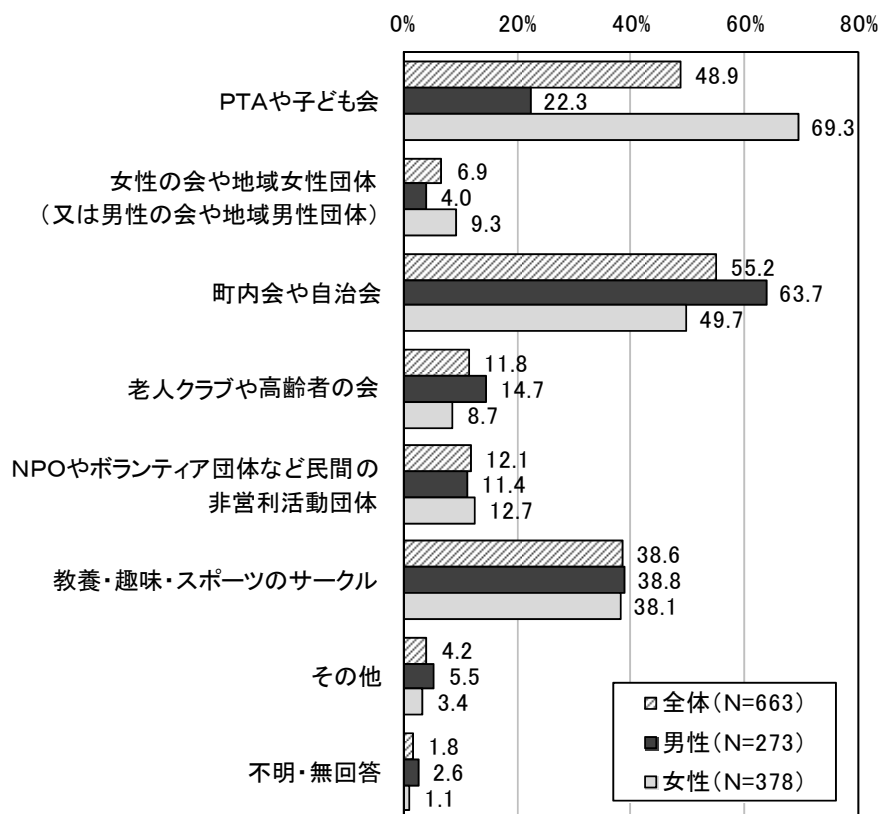


問8(1) 現在(今までに)どのような活動に参加していますか(した経験がありますか)。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

今までに参加した経験がある活動は、全体で「町内会や自治会」が55.2%と最も高く、次いで「PTAや子ども会」が48.9%となっています。

性別では、男性で「町内会や自治会」が63.7%、女性で「PTAや子ども会」が69.3%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「PTAや子ども会」が47.0ポイント高く、「町内会や自治会」は14.0ポイント低くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「町内会や自治会」または「PTAや子ども会」の他に、「教養・趣味・スポーツのサークル」も高く、20歳代では51.1%となっています。



■クロス集計 (年齢別)

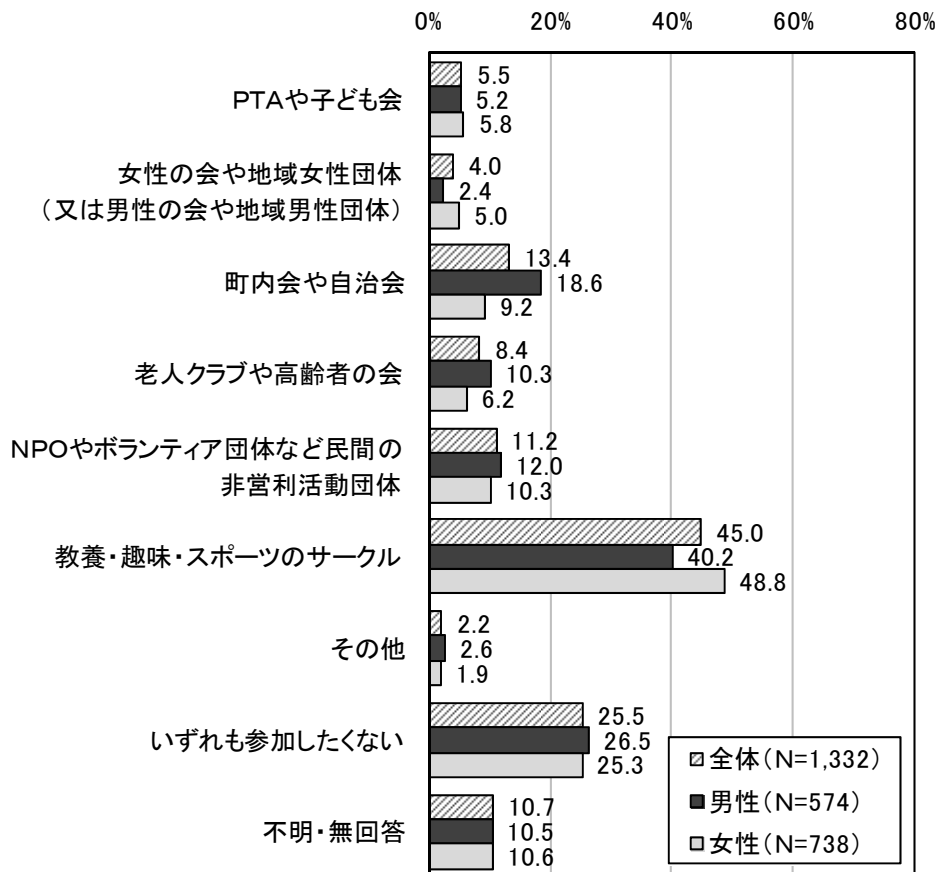
	PTAや子ども会	女性の会や地域女性団体 (又は男性の会や地域男性団体)	町内会や自治会	老人クラブや高齢者の会	NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	不明・無回答
16~19歳 (N=38)	63.2	-	7.9	-	23.7	28.9	10.5	-
20歳代 (N=47)	21.3	2.1	19.1	-	21.3	51.1	2.1	2.1
30歳代 (N=57)	42.1	-	45.6	-	10.5	35.1	5.3	3.5
40歳代 (N=117)	69.2	1.7	67.5	-	6.8	28.2	0.9	-
50歳代 (N=138)	58.0	10.9	60.9	-	12.3	37.0	6.5	1.4
60歳代 (N=160)	43.8	10.0	66.9	18.8	11.3	44.4	3.1	1.9
70歳代以上 (N=94)	36.2	12.8	56.4	46.8	11.7	43.6	5.3	3.2

問8(2) 今後又は引き続き、あなたが活動したい活動はありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

今後又は引き続き続けたい活動は、全体で「教養・趣味・スポーツのサークル」が45.0%と最も高く、次いで「いずれも参加したくない」が25.5%となっています。

性別では、男女ともに「教養・趣味・スポーツのサークル」が最も高く、男性で40.2%、女性で48.8%となっており、女性は男性と比べて8.6ポイント高くなっています。

年齢別では、60歳代以下で「教養・趣味・スポーツのサークル」が、70歳代以上では「いずれも参加したくない」がそれぞれ最も高くなっています。



■クロス集計 (年齢別)

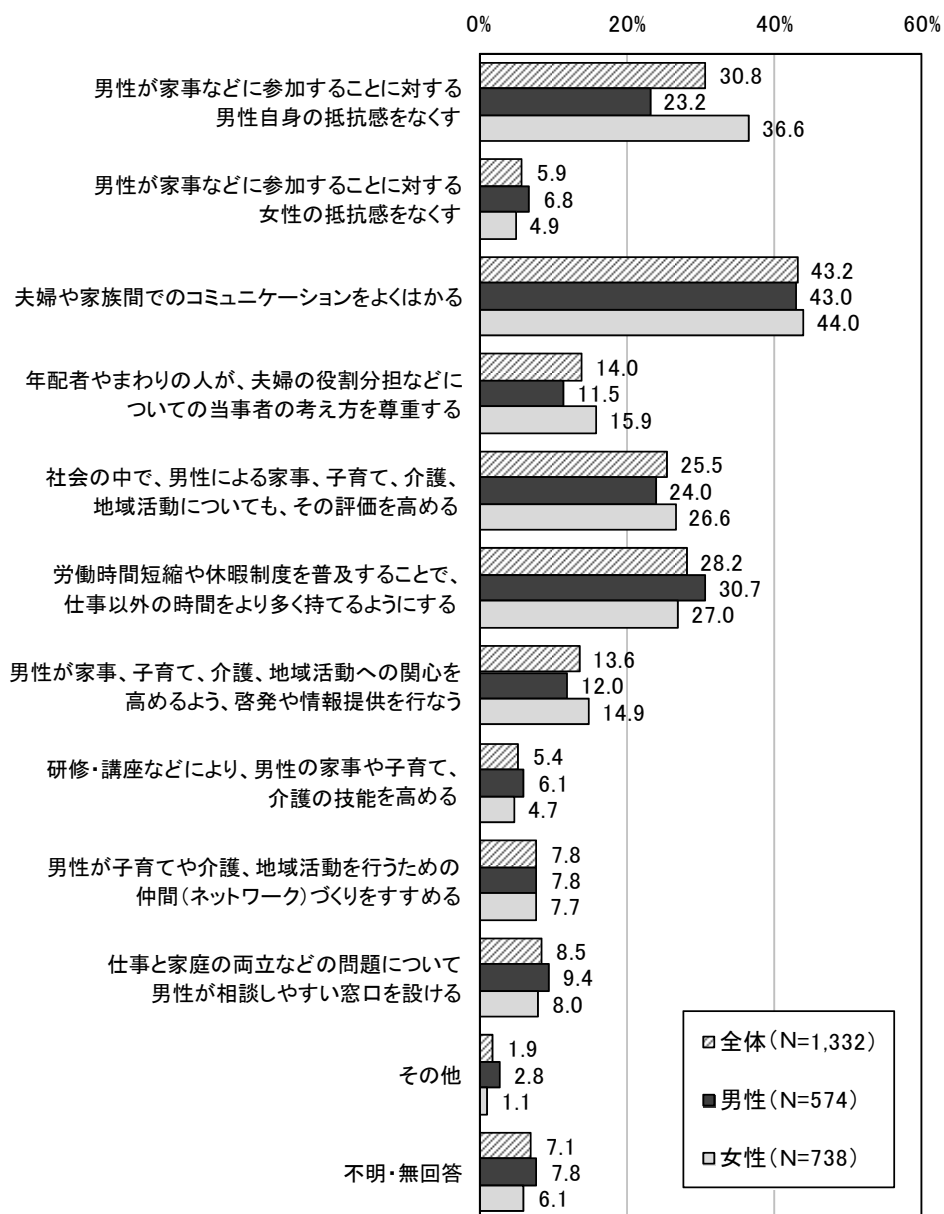
	PTAや子ども会	女性の会や地域女性団体 (又は男性の会や地域男性団体)	町内会や自治会	老人クラブや高齢者の会	NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	いずれも参加したくない	不明・無回答
16~19歳 (N=163)	8.6	0.6	5.5	2.5	12.9	33.1	1.8	21.5	25.8
20歳代 (N=148)	7.4	2.7	8.1	2.0	11.5	43.9	0.7	31.8	13.5
30歳代 (N=160)	13.1	2.5	11.3	1.3	11.3	50.6	3.1	23.8	8.8
40歳代 (N=190)	10.5	2.6	17.4	2.1	11.1	46.3	1.1	30.0	5.3
50歳代 (N=224)	-	5.8	11.2	3.1	13.8	49.6	0.4	29.0	7.6
60歳代 (N=254)	1.2	7.1	20.1	14.2	9.8	53.1	2.8	15.7	9.1
70歳代以上 (N=174)	2.3	4.0	16.1	29.3	6.9	32.2	5.7	32.8	7.5

問9あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、全体で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が43.2%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が30.8%となっています。

性別では、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高く、男性で43.0%、女性で44.0%となっています。女性は男性と比べて「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が13.4ポイント高くなっています。

年齢別では、16～19歳で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が、20歳代で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が、30歳代以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」がそれぞれ最も高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようになる	男性が家事、子育て、介護、地域活動への関心を高めるよう、啓発や情報提供を行なう	介護の技能を高める	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる	仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設ける	その他	不明・無回答
16～19 歳 (N=163)	36.2	5.5	33.1	6.7	22.1	24.5	9.8	4.3	7.4	4.9	1.8	20.9
20 歳代 (N=148)	27.7	7.4	33.8	12.2	23.6	42.6	10.8	1.4	8.8	12.2	1.4	8.8
30 歳代 (N=160)	30.0	5.6	40.0	15.0	36.3	35.6	11.9	6.3	6.9	6.9	2.5	4.4
40 歳代 (N=190)	27.4	3.7	45.3	14.2	34.7	34.7	16.3	3.7	7.9	8.9	1.1	4.2
50 歳代 (N=224)	28.1	6.7	48.7	12.5	28.1	31.7	12.5	8.9	7.6	9.4	2.7	1.8
60 歳代 (N=254)	31.5	5.5	48.4	17.3	19.7	22.4	17.7	6.3	7.5	7.9	2.0	4.7
70 歳代以上 (N=174)	34.5	6.3	48.9	17.8	14.9	12.1	13.8	4.6	8.6	10.3	1.1	7.5

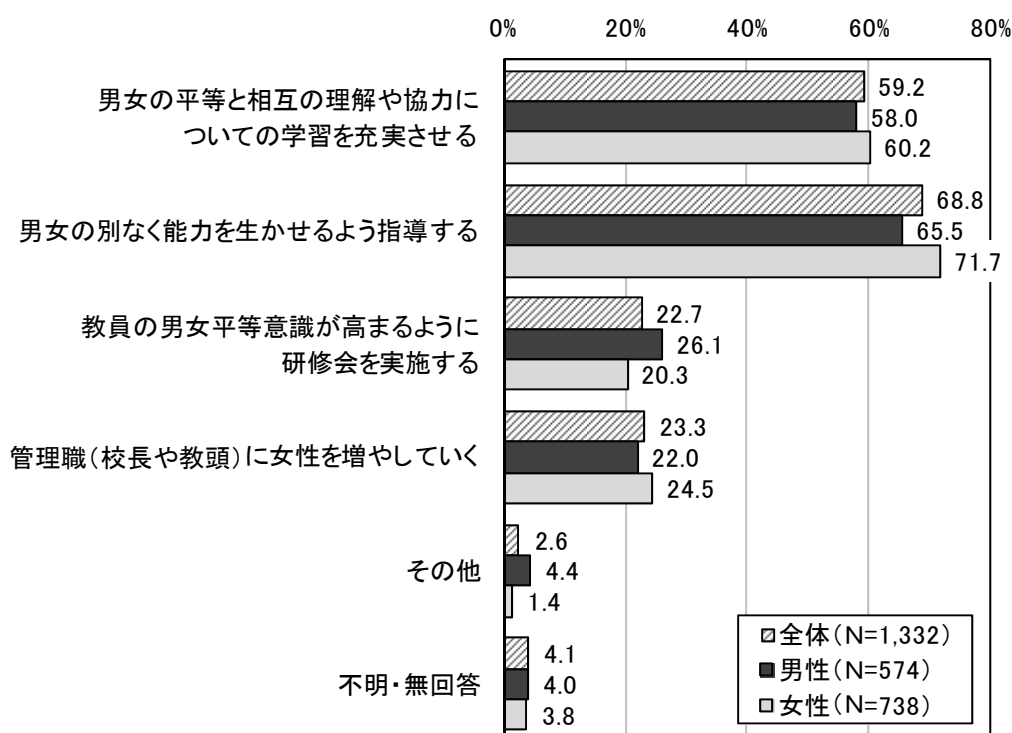
4. 子育て、子どもの教育について

問 10 男女平等の意識を育てるために、学校教育の場で必要なことは何だと思えますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

男女平等の意識を育てるために、学校教育の場で必要なことは、全体で「男女の別なく能力を生かせるよう指導する」が68.8%と最も高く、次いで「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」が59.2%となっています。

性別では、男女ともに「男女の別なく能力を生かせるよう指導する」が最も高く、男性で65.5%、女性で71.7%となっており、女性は男性と比べて6.2ポイント高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「男女の別なく能力を生かせるよう指導する」が最も高く、次いで「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」となっています。



■クロス集計 (年齢別)

年齢	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる	男女の別なく能力を生かせるよう指導する	教員の男女平等意識が高まるように研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	その他	不明・無回答
16~19歳 (N=163)	51.5	63.2	19.6	27.0	4.3	5.5
20歳代 (N=148)	58.8	70.9	16.2	27.0	4.1	4.1
30歳代 (N=160)	63.1	75.6	13.1	29.4	2.5	0.6
40歳代 (N=190)	68.9	70.0	22.6	20.5	2.6	2.1
50歳代 (N=224)	58.5	75.0	21.4	21.9	2.2	2.7
60歳代 (N=254)	57.5	68.9	28.7	23.2	2.0	3.5
70歳代以上 (N=174)	55.7	59.2	33.9	16.7	1.7	9.2

問 11 自分の周りで、子どもを虐待しているのではないかと思ったことがありますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

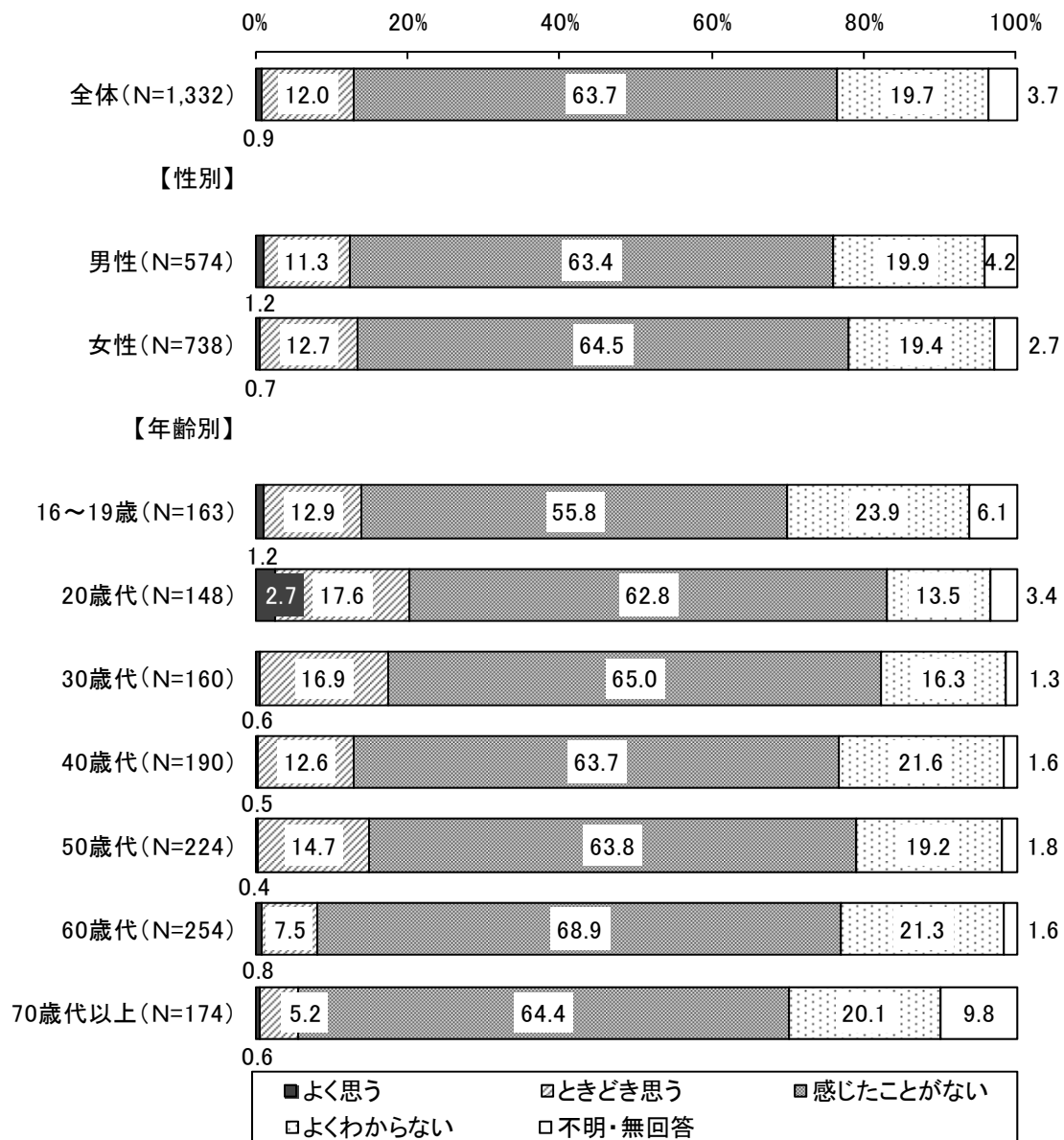
問 11 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しており、このページ以降の文中においても反映されています。

○『思う』 …「よく思う」と「どときどき思う」を合わせたもの

自分の周りで、子どもを虐待しているのではないかと思ったことは、全体で「感じたことがない」が63.7%と最も高く、次いで「よくわからない」19.7%、『思う』(12.9%)の順となっています。

性別では、男女ともに「感じたことがない」が最も高く、男性で63.4%、女性で64.5%となっています。

年齢別では、いずれの年代も「感じたことがない」が最も高く、60歳代で68.9%と高くなっています。なお、20歳代で『思う』が20.3%と、他の年代と比べて高くなっています。

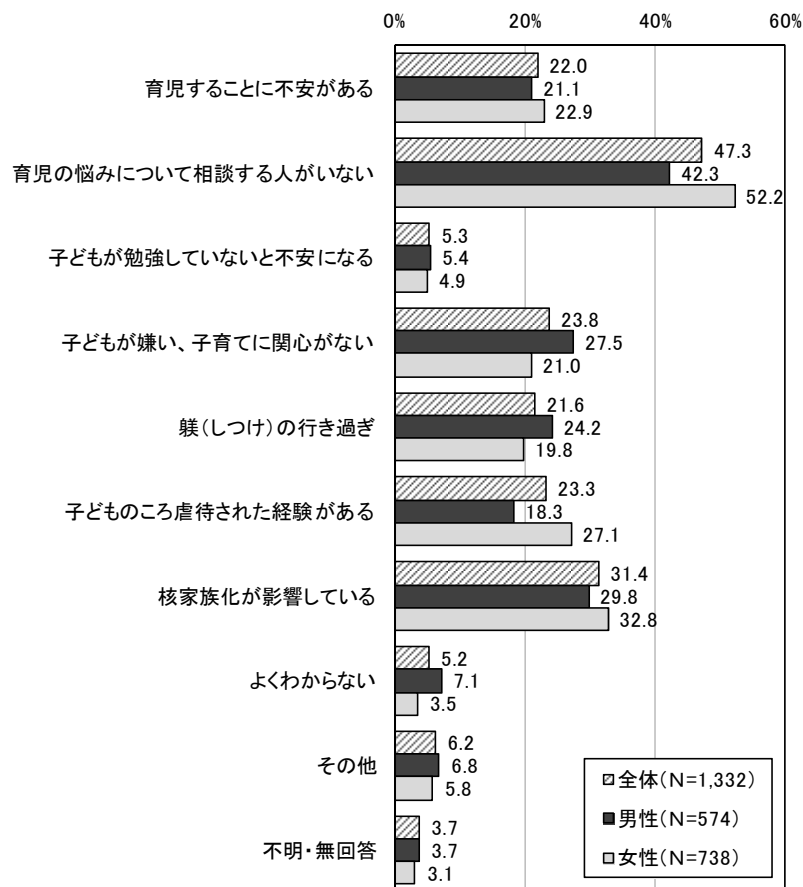


問 12 児童虐待が家庭の中で起こる理由が親にあると考える場合、関係している原因は何だと思われるか。次の中から2つまで選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

児童虐待が家庭の中で起こる理由が親にあると考える場合、関係している原因は、全体で「育児の悩みについて相談する人がいない」が47.3%と最も高く、次いで「核家族化が影響している」が31.4%となっています。

性別では、男女ともに「育児の悩みについて相談する人がいない」が最も高く、男性で42.3%、女性で52.2%となっており、女性は男性と比べて9.9ポイント高くなっています。

年齢別では、16～19歳で「躰の行き過ぎ」、20歳代以上では「育児の悩みについて相談する人がいない」がそれぞれ最も高くなっています。なお、60歳代以上で「核家族化が影響している」が4割を超えて高くなっています。



■クロス集計 (年齢別)

	育児することに不安がある	育児の悩みについて相談する人がいない	子どもが勉強していないと不安になる	子どもが嫌い、子育てに関心がない	子どもが嫌い、子育てに関心がない	躰(しつけ)の行き過ぎ	子どものころ虐待された経験がある	核家族化が影響している	よくわからない	その他	不明・無回答
16～19歳 (N=163)	20.9	27.0	4.9	31.3	39.9	25.8	10.4	9.8	8.0	5.5	
20歳代 (N=148)	21.6	49.3	2.7	26.4	23.0	28.4	16.2	4.7	8.1	6.1	
30歳代 (N=160)	23.8	53.8	3.8	21.9	20.0	28.1	29.4	0.6	13.8	0.6	
40歳代 (N=190)	23.7	50.0	5.3	27.4	22.1	31.1	30.0	2.6	5.8	1.1	
50歳代 (N=224)	21.0	54.5	5.4	26.3	17.9	25.9	34.8	3.6	4.0	1.3	
60歳代 (N=254)	23.2	52.0	3.9	20.5	15.4	17.3	46.1	4.7	3.9	2.8	
70歳代以上 (N=174)	20.7	43.1	9.2	14.4	19.0	9.2	42.0	10.3	2.9	8.0	

5. 高齢社会、介護について

※以下の質問について、配偶者には事実婚を含みます。

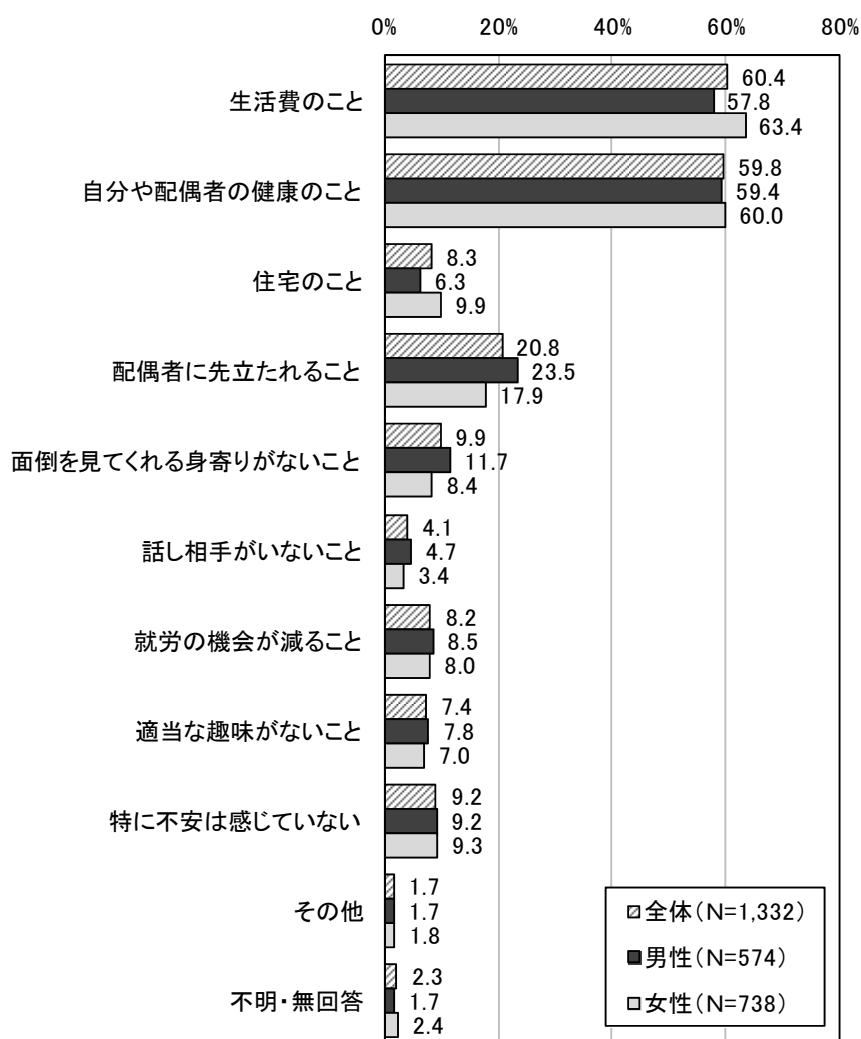
問 13 あなたは、ご自分の老後を考えたとき、不安はありますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

自分の老後を考えたときの不安は、全体で「生活費のこと」が60.4%と最も高く、次いで「自分や配偶者の健康のこと」が59.8%となっています。

性別では、男性は「自分や配偶者の健康のこと」が59.4%、女性は「生活費のこと」が63.4%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「生活費のこと」が5.6ポイント、男性は女性と比べて「配偶者に先立たれること」が5.6ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、40歳代以下で「生活費のこと」、50歳代以上では「自分や配偶者の健康のこと」がそれぞれ最も高くなっています。なお、60歳代以上で「配偶者に先立たれること」が3割前後と高くなっています。

家族構成別では、他の家族構成と比べて単身世帯（1人）では「住宅のこと」（11.3%）、「面倒を見てくれる身寄りがないこと」（30.2%）が、1世代世帯（夫婦のみ）では「配偶者に先立たれること」（36.3%）がそれぞれ高くなっています。



■クロス集計（年齢別・家族構成別）

	生活費のこと	自分や配偶者の健康のこと	住宅のこと	配偶者に先立たれること	面倒を見てくれる身寄りがないこと	話し相手がないこと	就労の機会が減ること	適当な趣味がないこと	特に不安は感じていない	その他	不明・無回答
【年齢別】											
16～19歳（N=163）	65.6	31.3	19.0	8.0	16.0	8.0	8.6	5.5	12.3	3.1	6.7
20歳代（N=148）	77.0	46.6	11.5	13.5	15.5	3.4	8.8	3.4	5.4	2.0	2.7
30歳代（N=160）	76.9	56.3	10.0	15.0	8.8	2.5	10.6	6.3	6.9	-	0.6
40歳代（N=190）	75.8	55.8	7.4	15.8	12.6	4.2	11.6	9.5	3.2	1.1	2.1
50歳代（N=224）	61.2	68.8	4.9	21.4	8.9	5.4	11.2	8.5	6.7	1.8	0.4
60歳代（N=254）	44.1	75.6	4.7	29.5	4.3	2.4	5.1	10.6	11.0	2.4	0.8
70歳代以上（N=174）	35.6	71.8	4.6	33.9	6.9	2.3	2.3	5.7	19.5	1.7	2.9
【家族構成別】											
単身世帯（1人） （N=53）	64.2	41.5	11.3	7.5	30.2	5.7	9.4	7.5	3.8	3.8	1.9
1世代世帯（夫婦のみ） （N=259）	46.7	72.6	7.3	36.3	8.1	3.9	5.8	6.2	8.9	1.2	1.2
2世代世帯（親と子） （N=691）	65.7	58.0	8.0	19.1	10.0	3.9	8.4	7.7	8.5	1.6	1.4
3世代世帯（親と子と孫） （N=254）	60.2	61.0	9.4	15.7	5.5	4.3	8.7	5.5	14.6	2.4	1.6
その他（N=38）	57.9	47.4	2.6	13.2	15.8	2.6	15.8	13.2	-	2.6	13.2

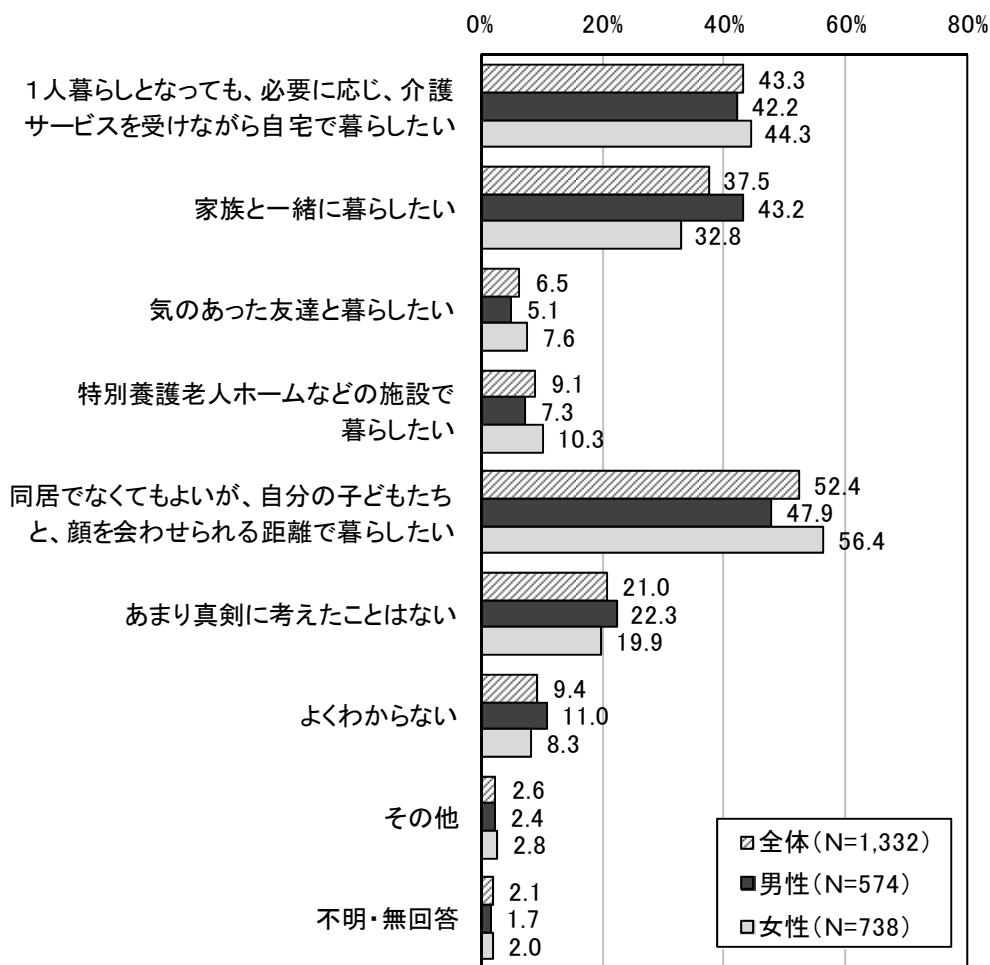
問 14 あなたは、老後どのように暮らしたいと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で
 囲んでください。(2選択)

老後の暮らしかたは、全体で「同居でなくてもよいが、自分の子どもたちと、顔を合わせられる距離で暮らしたい」が52.4%と最も高く、次いで「1人暮らしとなっても、必要に応じ、介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい」が43.3%となっています。

性別では、男女ともに「同居でなくてもよいが、自分の子どもたちと、顔を合わせられる距離で暮らしたい」が最も高く、男性で47.9%、女性で56.4%となっており、女性は男性と比べて8.5ポイント高くなっています。なお、男性は女性と比べて「家族と一緒に暮らしたい」が10.4ポイント高くなっています。

年齢別では、60歳代以下で「同居でなくてもよいが、自分の子どもたちと、顔を合わせられる距離で暮らしたい」、70歳代以上では「1人暮らしとなっても、必要に応じ、介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい」がそれぞれ最も高くなっています。

家族構成別では、他の家族構成と比べて単身世帯(1人)では「特別養護老人ホームなどの施設で暮らしたい」(20.8%)が、3世代世帯(親と子と孫)では「家族と一緒に暮らしたい」(50.8%)がそれぞれ高くなっています。



■クロス集計（年齢別・家族構成別）

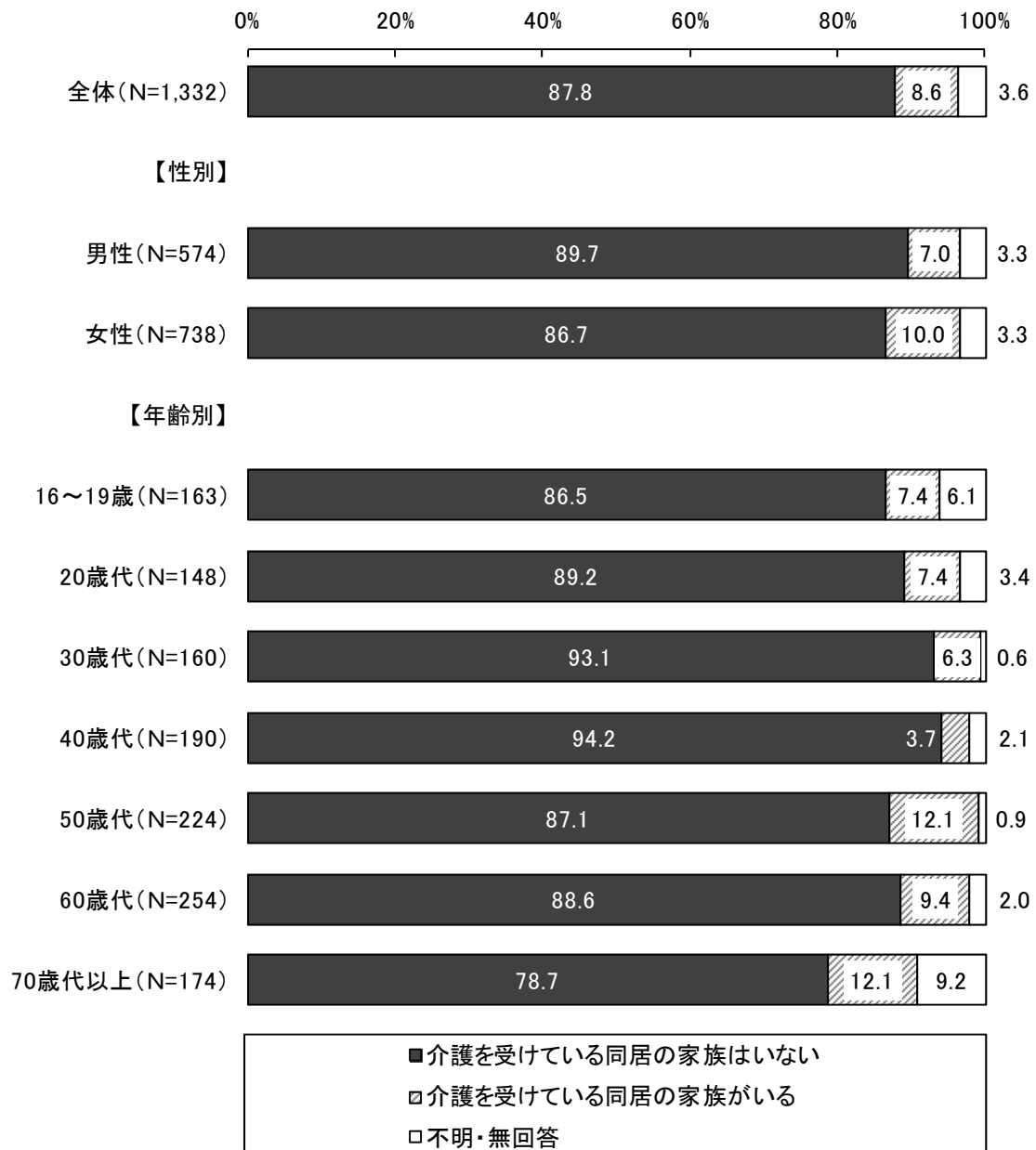
	1人暮らしとなっても、必要に応じて、介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい	家族と一緒に暮らしたい	気のあった友達と暮らしたい	特別養護老人ホームなどの施設で暮らしたい	同居でなくてもよいが、自分の子どもたちと、顔を合わせられる距離で暮らしたい	あまり真剣に考えたことはない	よくわからない	その他	不明・無回答
【年齢別】									
16～19歳（N=163）	19.6	38.0	12.9	6.1	39.3	30.1	16.6	3.1	6.1
20歳代（N=148）	32.4	44.6	6.1	6.8	50.0	28.4	9.5	-	2.7
30歳代（N=160）	35.6	44.4	7.5	11.9	53.1	17.5	10.0	4.4	1.3
40歳代（N=190）	43.2	38.4	6.3	9.5	54.2	20.0	11.1	4.2	2.1
50歳代（N=224）	53.1	28.1	6.7	10.7	59.4	18.8	9.4	2.7	0.4
60歳代（N=254）	53.1	32.3	3.1	8.3	59.4	20.1	7.5	2.4	-
70歳代以上（N=174）	55.7	42.0	3.4	9.8	47.7	15.5	3.4	1.7	2.3
【家族構成別】									
単身世帯（1人）（N=53）	69.8	15.1	1.9	20.8	41.5	15.1	9.4	3.8	1.9
1世代世帯（夫婦のみ）（N=259）	54.1	24.7	6.6	12.0	54.1	17.8	8.1	2.7	1.2
2世代世帯（親と子）（N=691）	41.7	39.2	7.1	7.8	52.8	23.6	9.7	2.5	1.7
3世代世帯（親と子と孫）（N=254）	34.3	50.8	5.5	5.5	54.3	19.7	9.1	3.1	0.8
その他（N=38）	36.8	36.8	5.3	7.9	55.3	21.1	10.5	2.6	5.3

問 15 同居するご家族の中に、介護が必要なかたはいますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

同居家族の中に、介護が必要なかたがいるかは、全体で「介護を受けている同居の家族はいない」が87.8%、「介護を受けている同居の家族がいる」が8.6%となっています。

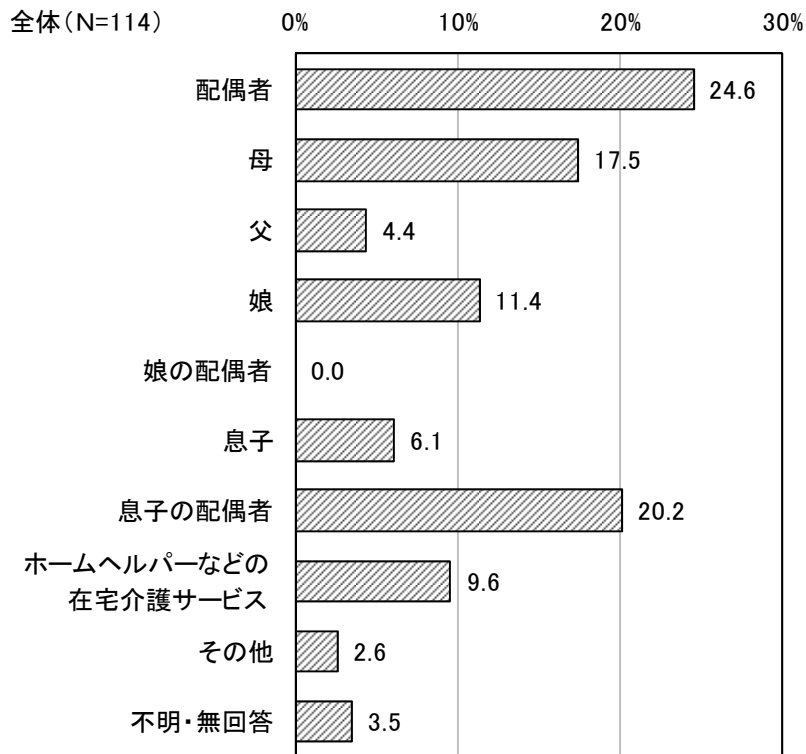
性別では、「介護を受けている同居の家族がいる」は男性で7.0%、女性で10.0%となっています。

年齢別では、50歳代及び70歳代以上で「介護を受けている同居の家族がいる」がそれぞれ12.1%と、他の年代と比べて高くなっています。



問 15(1) 主に介護を担っているかたは、介護を受けているかたから見てどなたですか。次の中から最も近いかたを1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

主に介護を担っているかたは、介護を受けているかたから見て「配偶者」が24.6%と最も高く、次いで「息子の配偶者」が20.2%となっています。



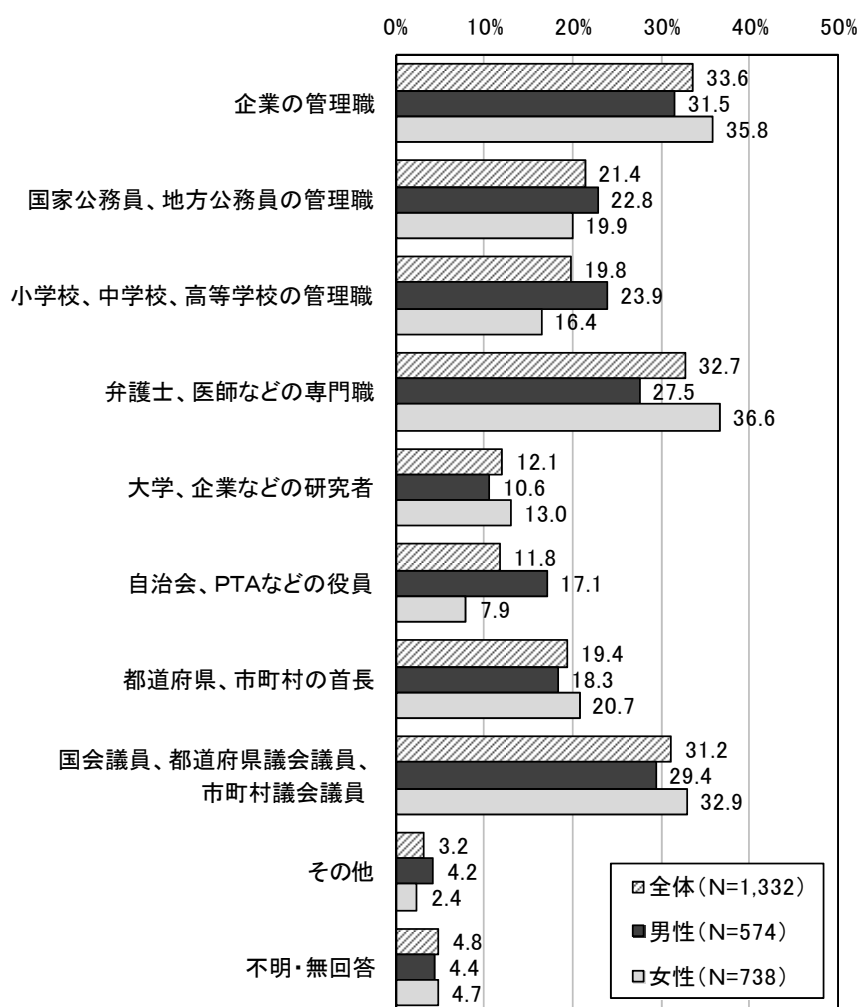
6. 女性の社会進出について

問 16 あなたが、女性が増えるとよいと思う職業や役職は何ですか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

女性が増えるとよいと思う職業や役職は、全体で「企業の管理職」が33.6%と最も高く、次いで「弁護士、医師などの専門職」が32.7%となっています。

性別では、男性は「企業の管理職」が31.5%、女性は「弁護士、医師などの専門職」が36.6%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「弁護士、医師などの専門職」が9.1ポイント、男性は女性と比べて「自治会、PTAなどの役員」が9.2ポイント、「小学校、中学校、高等学校の管理職」が7.5ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、「企業の管理職」「弁護士、医師などの専門職」の他に「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」も高くなっており、30歳代で44.4%となっています。



■クロス集計（年齢別）

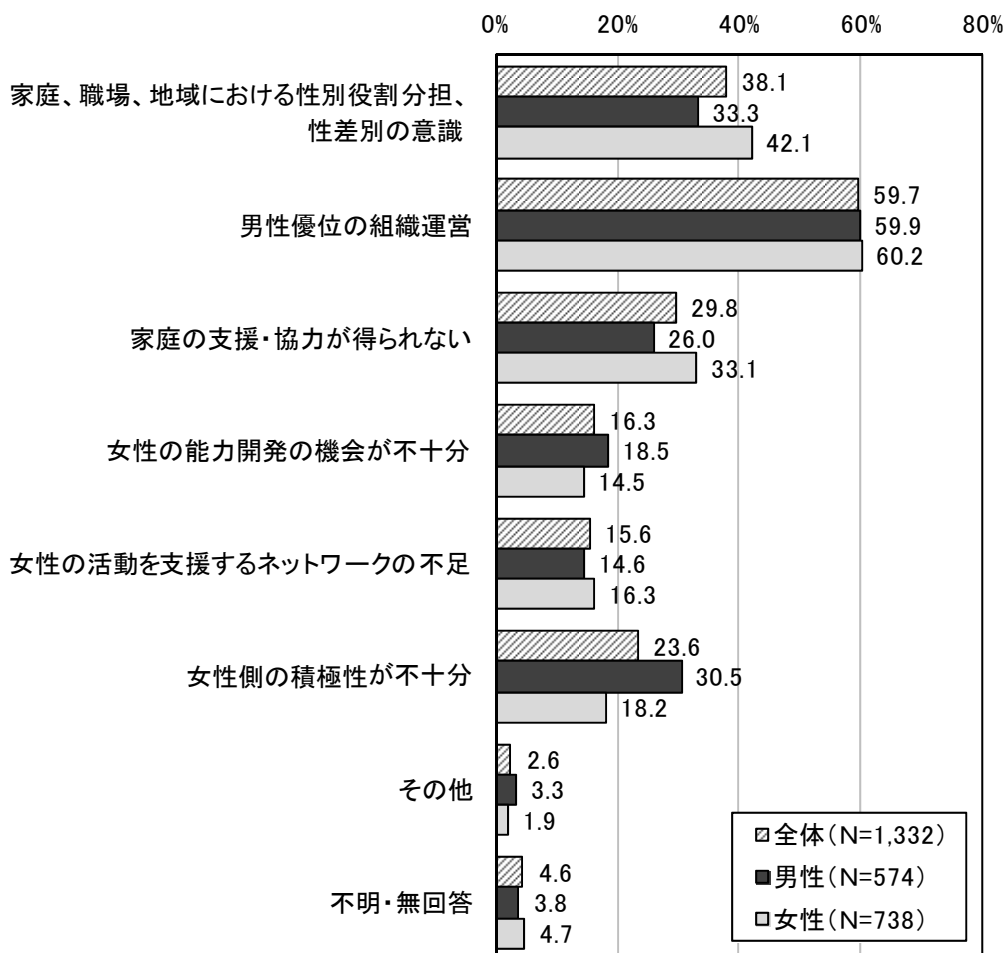
	企業の管理職	国家公務員、地方公務員の管理職	小学校、中学校、高等学校の管理職	弁護士、医師などの専門職	大学、企業などの研究者	自治会、PTAなどの役員	都道府県、市町村の首長	国會議員、都道府県會議員、市町村會議員	その他	不明・無回答
16～19歳（N=163）	31.3	26.4	25.2	23.9	17.2	6.7	20.9	31.3	3.1	3.1
20歳代（N=148）	37.8	23.6	23.0	37.8	17.6	6.1	16.2	29.1	3.4	0.7
30歳代（N=160）	45.0	21.9	12.5	28.8	12.5	6.3	20.6	44.4	3.1	1.9
40歳代（N=190）	36.8	19.5	17.9	34.2	10.5	10.0	24.2	33.7	4.7	3.2
50歳代（N=224）	36.6	21.4	15.2	35.3	12.1	12.1	21.9	33.0	2.7	2.7
60歳代（N=254）	30.7	17.3	21.7	35.0	9.4	19.3	17.7	27.6	2.8	5.5
70歳代以上（N=174）	19.5	21.3	23.6	31.6	7.5	17.8	14.9	21.8	2.9	14.9

問 17 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は、全体で「男性優位の組織運営」が59.7%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」が38.1%となっています。

性別では、男女ともに「男性優位の組織運営」が最も高く、男性で59.9%、女性で60.2%となっています。なお、女性は男性と比べて「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」が8.8ポイント、「家庭の支援・協力が得られない」が7.1ポイント、男性は女性と比べて「女性側の積極性が不十分」が12.3ポイント高くなっています。

年齢別では、「男性優位の組織運営」「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」の他に「家庭の支援・協力が得られない」も高くなっており、30歳代で33.1%となっています。



■クロス集計（年齢別）

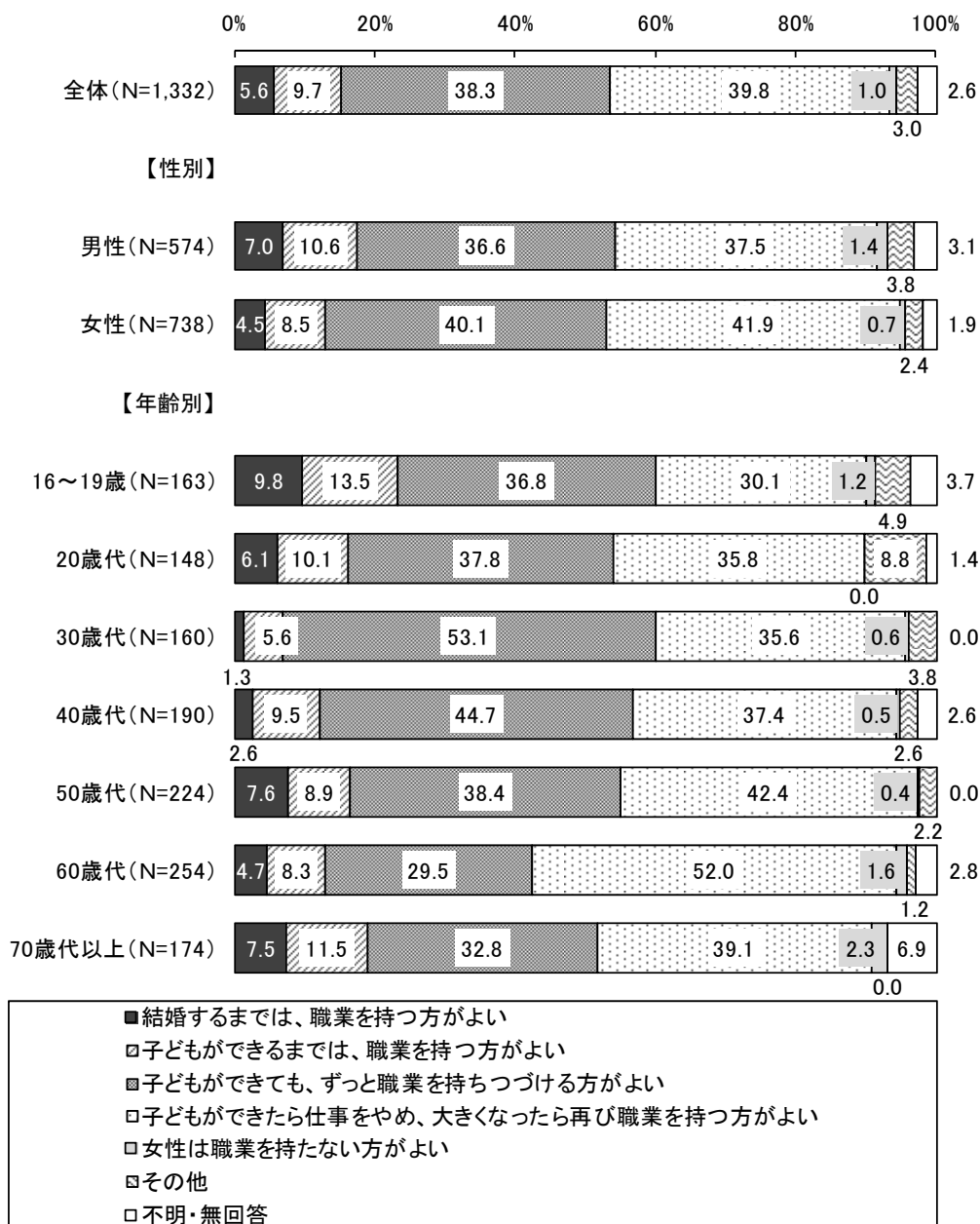
	家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識	男性優位の組織運営	い 家庭の支援・協力が得られない	分 女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援するネットワークの不足	女性側の積極性が不十分	その他	不明・無回答
16～19 歳（N=163）	44.8	55.2	25.8	17.8	12.3	20.9	4.3	4.9
20 歳代（N=148）	51.4	60.8	31.1	12.2	18.9	15.5	4.1	1.4
30 歳代（N=160）	48.1	63.8	33.1	12.5	15.0	13.8	5.0	1.3
40 歳代（N=190）	42.6	64.7	32.1	13.7	14.2	23.7	2.1	2.6
50 歳代（N=224）	32.1	61.2	31.7	21.9	16.5	27.7	2.2	0.9
60 歳代（N=254）	28.0	59.8	27.2	17.7	17.7	29.5	1.2	6.3
70 歳代以上（N=174）	29.3	52.9	29.9	15.5	13.8	27.6	-	13.2

問 18 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方はどれに近いですか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。(1選択)

女性が職業を持つことについての考え方は、全体で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が39.8%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を持ちつづける方がよい」が38.3%となっています。

性別では、男女ともに「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高く、男性で37.5%、女性で41.9%となっており、女性は男性と比べて4.4ポイント高くなっています。

年齢別では、40歳代以下で「子どもができて、ずっと職業を持ちつづける方がよい」が最も高く、30歳代で53.1%と高くなっています。50歳代以上で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高く、60歳代で52.0%となっています。なお、「女性は職業を持たない方がよい」が70歳代以上で2.3%、60歳代で1.6%、16～19歳で1.2%となっています。

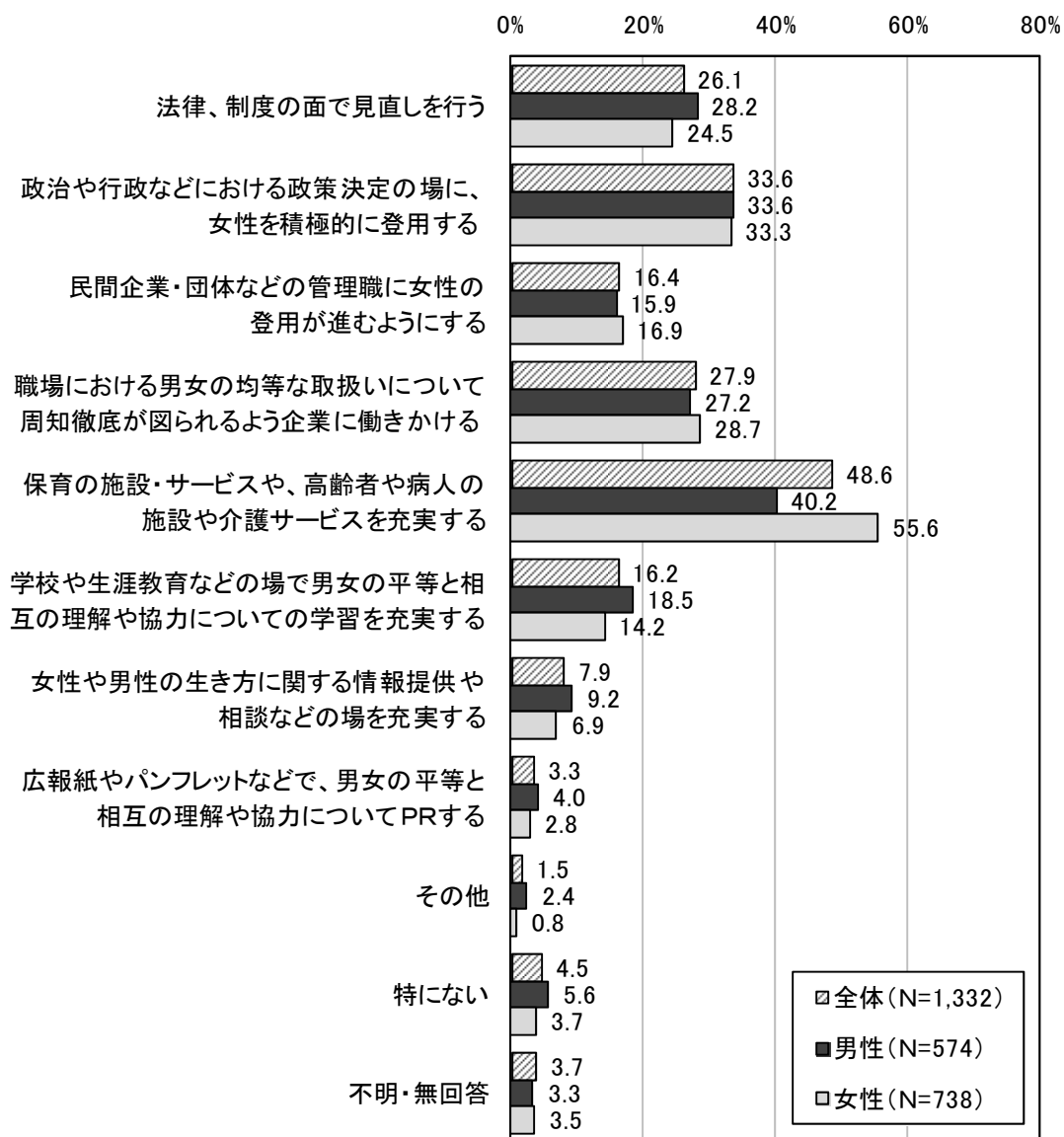


問 19 男女共同参画社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。(2選択)

男女共同参画社会の推進のために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思うかは、全体で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が48.6%と最も高く、次いで「政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する」が33.6%となっています。

性別では、男女ともに「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も高く、男性で40.2%、女性で55.6%となっており、女性は男性と比べて15.4ポイント高くなっています。

年齢別では、20歳代以上で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が5割前後と高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

	法律、制度の面で見直しを行う	政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むようにする	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底が図られるよう企業に働きかける	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	学校や生涯教育などの場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する	広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	その他	特になし	不明・無回答
16～19歳（N=163）	28.8	36.8	28.2	28.8	28.2	14.1	8.6	1.2	1.8	5.5	4.3
20歳代（N=148）	33.8	24.3	18.2	32.4	51.4	16.9	10.8	2.7	0.7	2.7	1.4
30歳代（N=160）	30.0	30.0	15.6	28.1	56.9	14.4	5.0	1.3	3.8	4.4	0.6
40歳代（N=190）	31.6	35.3	11.6	34.7	51.1	13.7	7.9	3.2	2.1	2.6	2.6
50歳代（N=224）	22.8	30.8	18.8	31.7	53.1	18.8	8.0	3.1	0.4	3.6	1.3
60歳代（N=254）	19.3	41.3	11.8	24.0	46.9	21.3	9.1	3.9	2.0	5.1	4.3
70歳代以上（N=174）	20.7	31.6	13.8	17.2	52.9	11.5	5.7	7.5	-	7.5	9.8

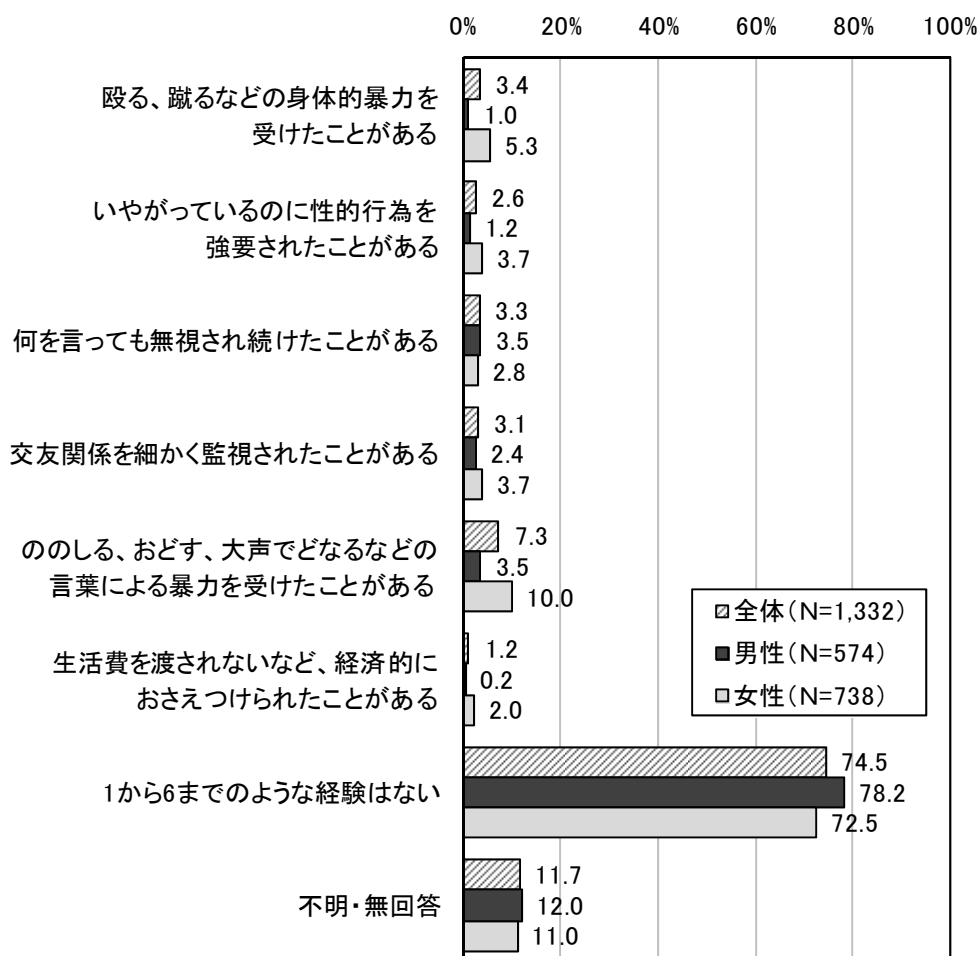
7. 夫又は妻や恋人からの暴力について

問 20 あなたはこれまでに、あなたの夫又は妻や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

夫又は妻や恋人から、暴力等を受けた経験があるかは、全体で「1から6までのような経験はない」が74.5%と最も高くなっています。一方で「ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受けたことがある」が7.3%、「殴る、蹴るなどの身体的暴力を受けたことがある」が3.4%、「何を言っても無視され続けたことがある」が3.3%となっています。

性別では、暴力等を受けたことがある男女ともに「ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受けたことがある」が最も高く、男性で3.5%、女性で10.0%となっており、女性は男性と比べて6.5ポイント高くなっています。なお、女性の「殴る、蹴るなどの身体的暴力を受けたことがある」は5.3%となっています。

年齢別では、40歳代で「殴る、蹴るなどの身体的暴力を受けたことがある」が6.3%と、他の年代と比べて高くなっています。また、40歳代以上で「ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受けたことがある」が30歳代以下と比べて高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

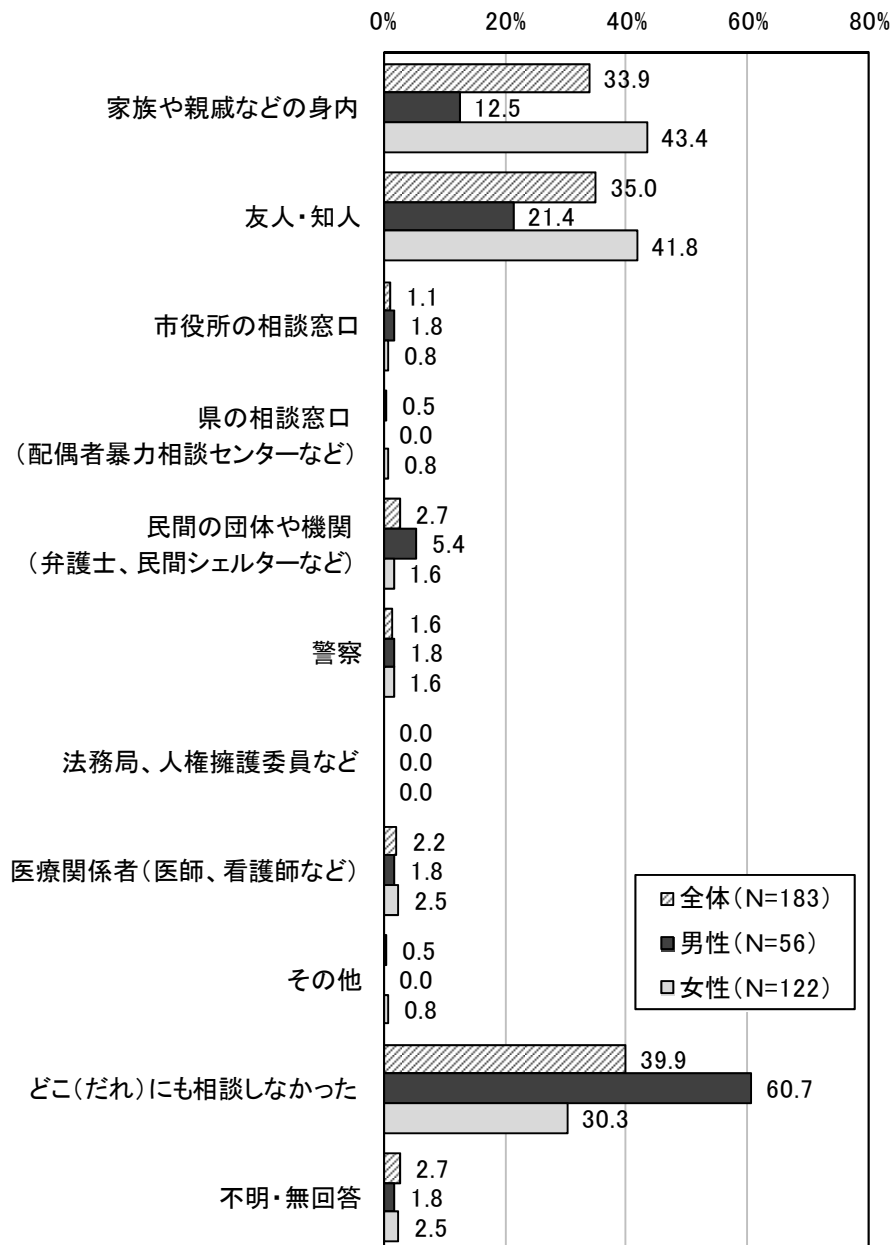
	殴る、蹴るなどの身体的暴力を受けたことがある	いやがっているのに性的行為を強要されたことがある	何を言っても無視され続けたことがある	交友関係を細かく監視されたことがある	ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受けたことがある	生活費を渡されないなど、経済的におさえつけられたことがある	1から6までのような経験はない	不明・無回答
16～19歳（N=163）	0.6	3.7	1.8	4.3	1.2	-	83.4	8.6
20歳代（N=148）	4.7	1.4	4.7	4.1	6.8	1.4	77.7	10.1
30歳代（N=160）	3.8	1.9	1.9	1.9	5.0	2.5	85.6	4.4
40歳代（N=190）	6.3	4.2	4.7	4.7	9.5	1.1	73.7	6.3
50歳代（N=224）	2.7	3.1	0.9	4.0	8.5	2.2	75.9	10.3
60歳代（N=254）	3.5	2.4	5.1	1.6	8.7	0.4	72.8	11.4
70歳代以上（N=174）	2.3	1.1	2.3	1.7	9.2	1.1	58.6	28.2

問 21 夫又は妻や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

夫又は妻や恋人からの行為について相談したりしたかは、全体で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 39.9%と最も高く、次いで「友人・知人」が 35.0%となっています。

性別では、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 60.7%、女性は「友人・知人」が 43.4%とそれぞれ最も高くなっています。女性は男性と比べて「家族や親戚などの身内」が 30.9ポイント、「友人・知人」が 20.4ポイント、男性は女性と比べて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 30.4ポイントそれぞれ高くなっています。男性の「民間の団体や機関（弁護士、民間シェルターなど）」(5.4%)を除いて、「市役所の相談窓口」など第三者機関への相談は数パーセント以内にとどまっています。

年齢別では、40歳代及び60歳代以上で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が5割前後と高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

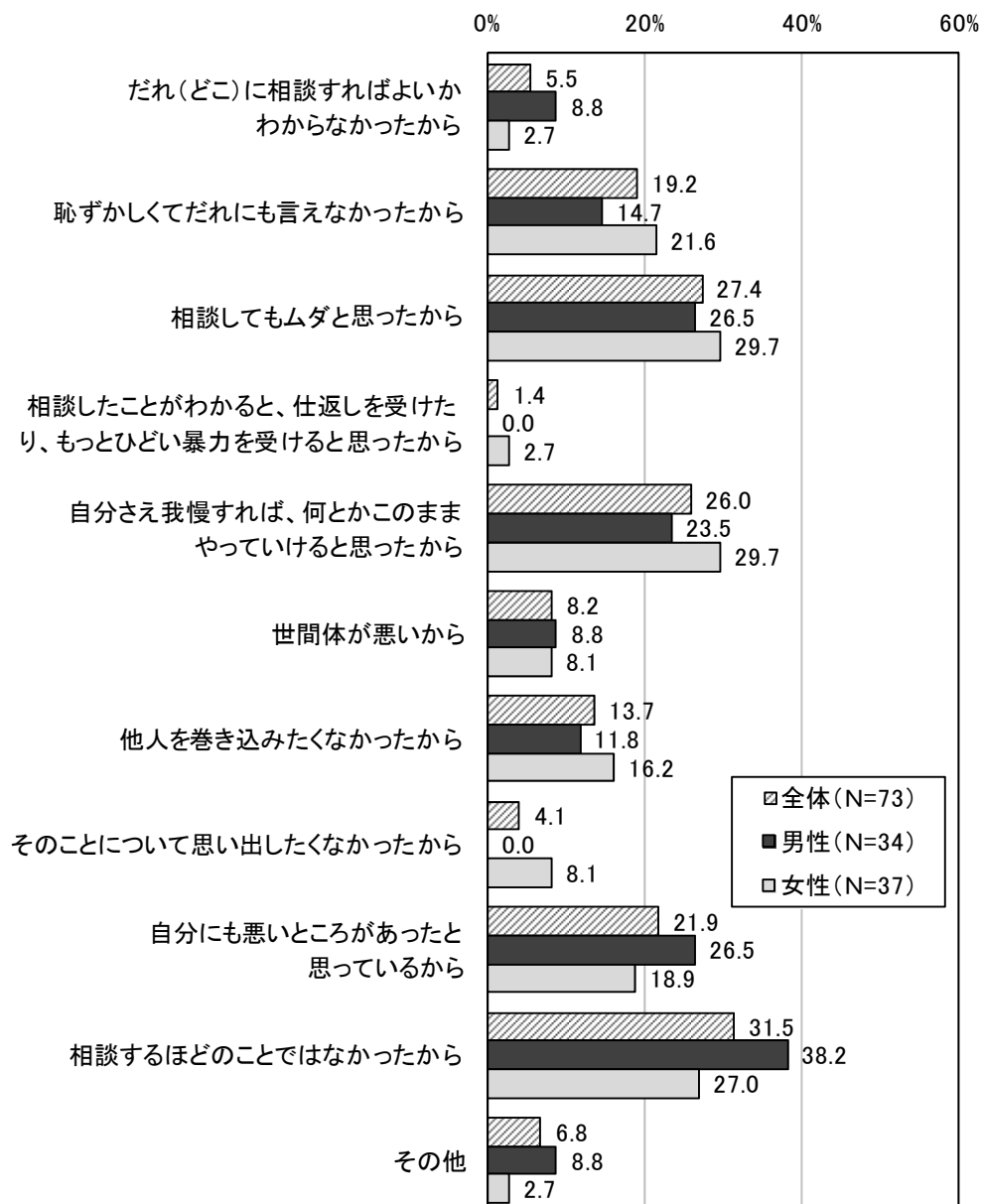
	家族や親戚などの身内	友人・知人	市役所の相談窓口	県の相談窓口（配偶者暴力相談センターなど）	民間の団体や機関（弁護士、民間シェルターなど）	警察	法務局、人権擁護委員など	医療関係者（医師、看護師など）	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	不明・無回答
16～19歳（N=13）	15.4	61.5	7.7	-	7.7	-	-	-	-	23.1	-
20歳代（N=18）	50.0	55.6	-	-	5.6	5.6	-	5.6	5.6	16.7	-
30歳代（N=16）	43.8	50.0	6.3	-	-	12.5	-	-	-	31.3	-
40歳代（N=38）	28.9	28.9	-	2.6	5.3	-	-	2.6	-	50.0	-
50歳代（N=31）	29.0	48.4	-	-	3.2	-	-	-	-	32.3	3.2
60歳代（N=40）	32.5	12.5	-	-	-	-	-	2.5	-	50.0	7.5
70歳代以上（N=23）	39.1	26.1	-	-	-	-	-	4.3	-	47.8	4.3

問 22 だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

だれ(どこ)にも相談しなかった理由は、全体で「相談するほどのことではなかったから」が31.5%と最も高く、次いで「相談してもムダと思ったから」が27.4%となっています。

性別では、男性は「相談するほどのことではなかったから」が38.2%、女性は「相談してもムダと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」がそれぞれ29.7%と最も高くなっています。女性は男性と比べて「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が6.9ポイント、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が6.2ポイント、男性は女性と比べて「相談するほどのことではなかったから」が11.2ポイント、「自分にも悪いところがあったと思っているから」が7.6ポイント、「だれ(どこ)に相談すればよいかわからなかったから」が6.1ポイントそれぞれ高くなっています。

年齢別では、40歳代及び70歳代以上で「相談してもムダと思ったから」が4割前後と高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

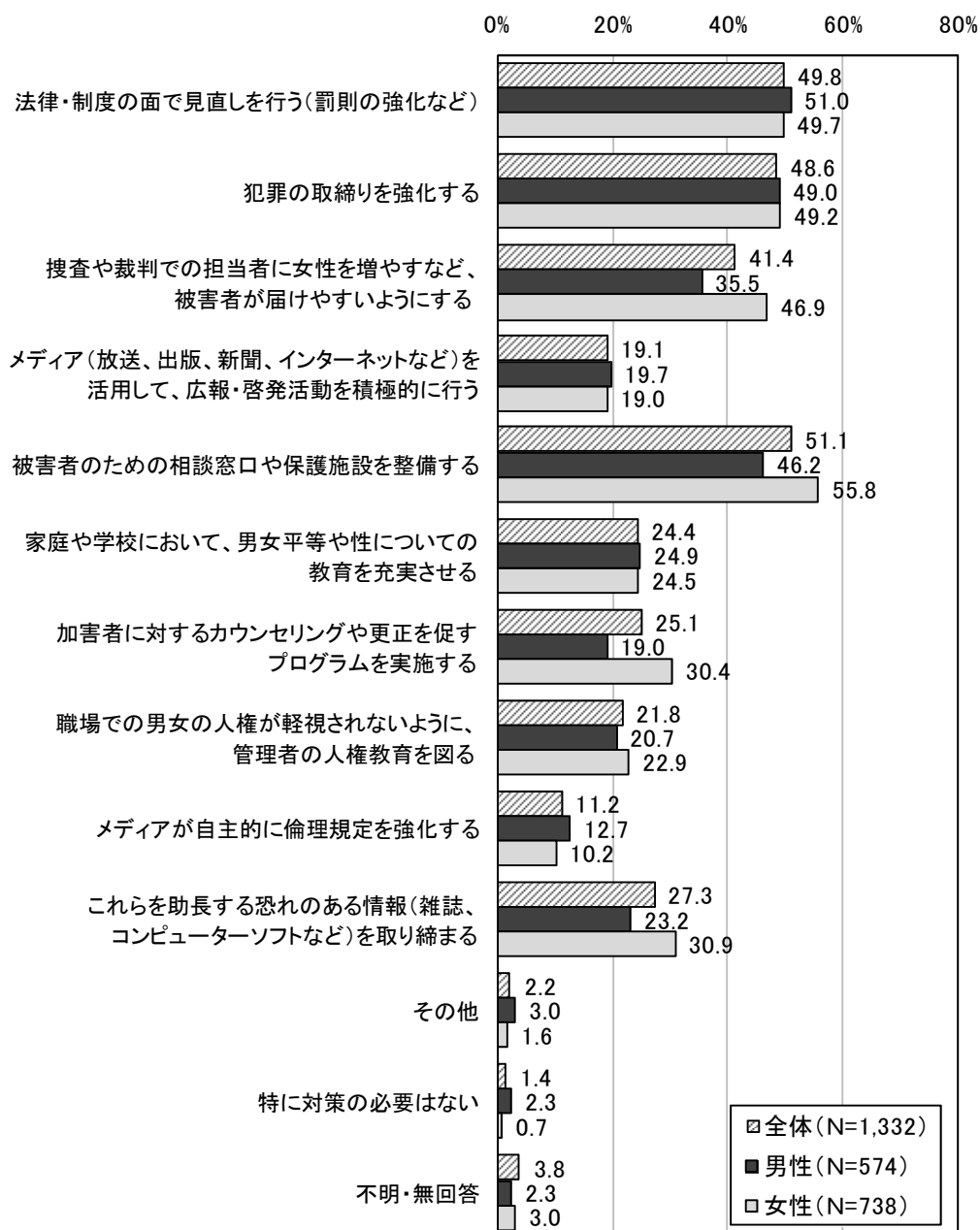
	だれ（どこ）に相談すればよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもムダと思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあったと思っ ているから	相談するほどのことではなかったから	その他	不明・無回答
16～19 歳（N=3）	-	-	33.3	-	66.7	-	66.7	-	-	33.3	-	-
20 歳代（N=3）	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-	66.7	33.3	33.3	-
30 歳代（N=5）	-	-	-	-	60.0	20.0	20.0	-	-	40.0	20.0	-
40 歳代（N=19）	5.3	26.3	42.1	-	15.8	-	5.3	15.8	21.1	36.8	-	-
50 歳代（N=10）	10.0	40.0	30.0	-	30.0	20.0	10.0	-	20.0	10.0	10.0	-
60 歳代（N=20）	5.0	10.0	15.0	-	25.0	5.0	15.0	-	25.0	55.0	-	-
70 歳代以上（N=11）	9.1	18.2	36.4	9.1	27.3	9.1	18.2	-	27.3	-	9.1	-

問 23あなたは、DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために何が重要だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。(複数選択)

DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために必要なことは、全体で「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が51.1%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が49.8%となっています。

性別では、男性は「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が51.0%、女性は「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が55.8%と最も高くなっています。女性は男性と比べて「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」「加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する」がそれぞれ11.4ポイント、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が9.6ポイント高くなっています。

年齢別では、20歳代～40歳代で「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が6割前後と高くなっています。



■クロス集計（年齢別）

	法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）	犯罪の取締りを強化する	捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする	メディア（放送、出版、新聞、インターネットなど）を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者のための相談窓口や保護施設を整備する	家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる	加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する	職場での男女の人権が軽視されないように、管理者の人権教育を図る	メディアが自主的に倫理規定を強化する	これらを助長する恐れのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる	その他	特に対策の必要はない	不明・無回答
16～19歳（N=163）	41.7	55.2	48.5	16.6	46.6	20.2	32.5	23.9	13.5	21.5	3.1	2.5	4.3
20歳代（N=148）	56.1	54.1	41.2	18.9	54.1	20.9	33.8	23.0	10.1	16.9	2.0	1.4	0.7
30歳代（N=160）	60.0	46.9	46.3	18.8	48.8	25.6	29.4	22.5	11.3	27.5	4.4	0.6	-
40歳代（N=190）	58.4	53.2	42.1	14.2	52.1	20.0	28.4	17.4	10.0	24.2	3.2	0.5	2.1
50歳代（N=224）	43.3	47.3	41.5	23.7	55.8	23.7	25.0	24.1	12.5	25.0	0.9	1.3	2.7
60歳代（N=254）	45.7	44.5	43.3	20.1	57.1	29.1	19.3	24.0	10.6	37.8	1.6	1.6	2.8
70歳代以上（N=174）	51.1	46.0	30.5	21.3	43.1	30.5	12.6	18.4	11.5	35.1	1.1	1.7	6.3

IV. その他回答

問3 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。

内容	件数
女性の優遇をやめる	5
男性が育児休暇等を取れる雰囲気をつくる。いくら女性のための制度をつくっても、男が家庭や育児をしないと意味がない	4
無理に平等にする必要は無い。それぞれに出来ること／出来ないことがある	3
性別にこだわらず、本人の能力や個性で登用などを判断する。男女はそもそも性別が異なるものであり、男女同じにすべきものとそうでないものを理解する	3
一人ひとりの意識の持ち方。仕掛けづくりを行っても、一人ひとりが実践しないと意味がない	3
男性の考え方を改める事が重要だと思う	3
社会全体の意識改革	2
雇用、特に賃金の格差を小さくする	2
よくわからない	2
育児介護に支援する環境を強化する	1
育児休暇の充実、子育て支援等保育園の無料化	1
子育てをしやすくする場所、保育料が高い	1
国として子育てができる、またはしやすい法整備をもっと進めるべき	1
6は必要だが、男女平等についての的外れな指摘がエスカレートする場面もあるので、このようなアンケートや教育組織の中での内容審査は必須と思う	1
一番大事なのは家庭教育、子どもに夫婦の価値観が反映される	1
男が優遇されるべき	1
経済的に知識を身につけるのが困難な女性が多く、経済的に自立できるよう支援する制度が必要だと思う	1
国会議員の数を男女同数にする	1
自身が社会人としての知識(一般常識)を付けることが必要	1
職場での地位、賃金の差別を撤廃して平等にする。男性は正社員、女性はパートでなく、平等に雇用する	1
女性が参加する機会が乏しいものに関しては、機会の均等を与える男性もまた女性の分野とされるところに積極的に参加するように働きかける	1
女性が出産後働くことができる、復帰できるように、具体的な受け皿(働く先)と法整備をする	1
女性側の自立が少ないため、そうせざるを得ない場合も	1
女性の出産、育児の現実を社会や企業が理解し、子どもは国家の責任として育てる制度が必要と思う	1
女性は家庭にて子どもの世話をしてほしい(願望)	1
女性を甘く見ないでほしい	1
女性への優遇政策は多いが、やりすぎると立場が逆転しかねないのではないか	1
人権教育をする	1
性犯罪を単にいたずらと呼んだり、刑罰が軽すぎると思うこと	1
全体的に差別はないと思うが、女性に自分は女だからという甘えがあるのでは	1
但し、中性だからと言って何事も鳥合しては駄目	1
男女の平等とは、それぞれの優劣の差を正しく認める事だと思う	1
男女平等は少子化につながるため、必ずしも平等が良いとは思えない	1
男女別の得意分野を伸ばす	1
地域の役員から女性が多くなるべき	1
中央、地方に限らず、女性を党首とする政界への進出を図り、女性の持つ手造り心配りのある政党が格力をもてば、今まで見られなかった、見て見ぬふりしてきた世代を発掘し平等につながると思う	1
現在の年配層の男性の考え方を変えないと	1
政治家自身差別がひどい。行政は男性優遇がひどい	1
古い考えの議員さんや役人を引退させること	1
理想と現実の違いを認識する、させる啓蒙が必要	1

内容	件数
この質問に疑問を感じる事が沢山ある。家庭を中心に考えることも、社会への参画であると思っている。子育てや家事は、健康的な家庭や家族を育み、社会へ送り出すための大切な仕事。介護もやり方は人それぞれ。助けてもらえる施設が増えるのはありがたいが、基本的に家族でできないから施設で助けてもらっているという気持ちが無い限り、だめだと思う。家族も仕事も地域も、何が自分にできるかを考えて生きる大人になれば、おのずと道は見つかるものである。	1
目先の税金欲しさに女性を働き手にし、納税させようとしているように思えてならない。育児より仕事と、洗脳した先には、また働く人の減る社会になる。少子化がさらに進む可能性も感じる。価値観が多様になった中、全てを同様に求めるのも難しいと思う。政治もその時の都合だけで調子合わせのように制度をつくるのもどうかと思う。継続して、きちんとできることをしっかりつづける気持ちでやってほしい。	1
平等である	1
あまり男女平等は好ましくない。男:女が7:3くらいよしとする	1
平等は難しい。男と女が 50:50 の立場にはならないと思う。なったとしても49:51みたいになると思う	1
このままで大丈夫	1
人間には無理だと思う	1
質問が平等ではない	1
特にない	1

問4あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。

内容	件数
特に女性の人権が尊重されていないと感じない	8
男性が尊重されていないという観点での設問はないのか。このアンケート自体が差別	3
育児休暇は女性にとるものという社会通念	2
お祭など	1
議会での女性に対する差別的発言。例 都議会で注目される	1
就活にあたっての子どもの有無の確認、年齢の確認、それによる面接結果への影響	1
20代前半で結婚しない女性をいかず後家とか社内では大奥様、お局様という陰口が TV 等でも若者たちの目のするところであり、逆にそのことを逆手にとってアラフォー世代の女性の活躍を目にする人気ドラマがはやるなど、このことも女性の人権が尊重されていないことにつながってきたのではと思う	1
会社での出世	1
職場での出産、育児の休暇の徹底法律	1
職場のマタハラ、パワハラ等	1
結婚・出産を理由とした就職などを婉曲的に促す	1
職場で差別がある	1
女性が考え方を変えるべき	1
女性側からの進んでの参加意志	1
女性に母性があるように、性別により向き不向きの作業があるのはいじめない	1
女性の権利を主張して、わがままばかり言う人間が多いほうが問題だ	1
これは難しい。好きである女性もいるだろうし、また逆に男性が上記の内容になる場合もある。問題は押し付けられているか否かで変わる	1
女性の本音が誤って認識されていること。例えば企業の管理職ポストに〇〇%登用という数値目標が設定されているが、女性の多くの本音はそんなことより、育児や出産のサポート体制の向上である事が多い。社会の誤った思い込みで女性が求めている事と異なる取り組みや制度が出来てしまうことになる。この例だと「管理職 30%を女性」とする時、もしも管理職になりたい女性が 20%しかいなかったら 10%の女性はなりたくもない管理職をさせられてしまう	1
政治活動の場などで活動している男女の比率が同等でない(女性の方が少ない)	1
祖父母の話の内容	1
男性より女性の方がサービスを受ける社会になってきていると思う。徐々にではあるが、女性が人権を尊重される社会になっていると思う	1
賃金の多い男性の方が女性よりも家庭での発信力、影響力、立場などが優遇されているために、女性の正当な意見や選択よりも、男性のワガママや好み押し通っていることが多い時に、仕事から家庭までの社会を通して、女性の人権が尊重されていないと、度々、常々感じる	1
能力等、関係なく地位が築けること	1

内容	件数
平等だと思う	1
本人の感じ方だからわからない	1
無理に男女平等を声高に叫ばれる時「ジェンダーフリー」などと言い、そのような思想をお持ちの方が勝手に女性の代表として自分の意見を、さも全女性の真意だと言わんばかりの主張する時、かえって男女差別と感じる。とても腹立たしい。出産が女性にしかできない事である限り、無理に平等にするのではなく、女性が安心して家庭に入れる(少なくとも子どもが成長するまで)、男性が安心して仕事に打ち込める環境を整える事が真の平等に近づくのではと思う。その上で、本当に仕事(外での)に向いている女性、家事育児に向いている男性)の障害がなくなればとても良い事と思う	1
子ども達を育てることも卒業し、今の若い人達とは考え方も違うので、何とも言えない	1
自分自身は、あまり尊重されていないとは感じていない。周りの人が喜ぶと周りの幸せを願って、人のために動くことは自分自身の幸せにもつながるので、尊重されていないと感じたことはないのよ	1
5について、逆に男性に対するものもある。6について、逆に男性であることや制限もある	1
1～6までは非常に当たり前のことだから無解答	1
上記の事では人権が尊重されていないとは感じない	1

問8(1) 現在(今までに)どのような活動に参加していますか(した経験がありますか)。

内容	件数
消防団	4
スクールガード	3
スポーツ少年団指導	2
お宮掃除、ゴミひろい	1
会社を通じてのボランティア活動	1
学校行事でのゴミ拾い	1
神社の年行司	1
子育てサークル	1
資源回収	1
障がい者施設等のボランティア	1
生協のこーぷ委員	1
青少年愛護センター	1
清掃活動	1
体育振興会	1
寺総代長	1
日本赤十字 厚生保護	1
美術協会	1
防犯連絡所班長	1
ボーイスカウト等活動	1
健康体操教室、月2回	1

問8(2) 今後又は引き続き、あなたが活動したい活動はありますか。

内容	件数
スクールガード(安全クラブ)	2
高齢のためできない	2
仕事が忙しく、参加したくても出来ない	2
今は思い浮かばない	2
必要に応じて参加したい	2
6に近いが、いろいろな場所をまわって、ちょっとした演奏会活動を行ってみたく思う。(大学でピアノを専攻しているので)	1
育児に役立つ児童センターなど	1
近所の高齢者4、5人で祖父江のプールに週2回楽しみに行っている	1

内容	件数
高齢化社会に健康で素敵なお後を迎えるお手伝いと子育て支援など、孤立しないコミュニティづくりをしていきたい。緑の森や、お掃除の会、脳いきいき教室をやって行きたい	1
参加したいわけではないが、PTA や子ども会などはいずれ参加しなくてはいけないと感じている	1
障がい者施設等のボランティア	1
消防団	1
防犯連絡所班長	1
食事と精神疾患(発達障害、うつ病など)の研究をしてきたので、これを社会に役立つ活動がしたい	1
スポーツ少年団	1
地域ボランティアに今までどおりやる	1
動物愛護に関する様々な活動であれば	1
母親クラブ	1
仏法聴聞	1
腰痛のため今は休んでいるが、いずれ参加したい	1
気持ちはあるが、やっと姑の介護や子育てから解放されて自分のために時間を使いたい	1
そんな時間や金銭的余裕はない	1

問9あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

内容	件数
社会で女性が家事をするのが当たり前という考え方を無くして、男女ともに平等に助け合って家事に参加するのが当然という意識の変革をする	2
必要なし	2
0歳児から保育所、長時間保育	1
企業が社員に対して積極的に育児介護の制度を取得させること、また、そのことによって待遇を下げたり評価を下げないこと。また、企業が男性に育休等を取得させることにより、企業に対し行政からの補助を行い、評価を上げる。また取得させない時は行政指導を行うこと	1
会社など職場の理解、周囲の理解	1
男性の働き方を変える。企業をかえる。長時間労働をなくす	1
中小・零細企業経営者の考え方も変わるようにすること。不利益にならないように	1
家事や子育ては、女性が主導権を持ってしまうことが多く、男性が手伝いにくい	1
女性が男性の協力に対して感謝の意を表すべき	1
最近の女性は家事をやるうともしない	1
研修講座をwebで見れるとよい	1
子どもの頃から家庭でお手伝いをして家事など家のこと自分のことをすることが、人としてあたりまえにすれば良いと思う	1
時短や育児休暇取得時にも給与や昇格へのマイナスの影響をなくす	1
社会全体で労働時間が減るとよい	1
収入があつてこそ、種々が出来る(余力が必要)。男女の役割が有っても良い	1
女性の仕事に対する責任感が必要	1
既に積極的に参加できているので、できていない人は気持ち次第である	1
男女平等ではなく、男7:女3位が良好。あまり男女平等と言い過ぎ	1
男性が仕事と家事、女性のみが家事も不公平なので、女性も働きながら家事と、条件を同じにする	1
妻の圧力	1
プライベートな問題であり、行政が口を出す問題と思えない	1
法整備が必要	1
やれることを積極的にやれば良い	1

問 10 男女平等の意識を育てるために、学校教育の場で必要なことは何だと思いますか

内容	件数
正しい男女平等の知識を身に付け、同じにするべきものとそうでないものを正しく理解する	6
男女に関わらず能力に応じて評価すること	3
出席番号が男が先で女が後ということをやめる。分ける意味はないと思う	2
”男女平等”より、人間としてどうあるべきかを考えるべきだと思う。教育者の考えを”男女平等”にしない限り、子ども達には判ってしまい、駄目	1
男・女のそれぞれが出来る役割も含め、人としてどう生きるべきかの教育を行っていくことが大切だと思う	1
男らしい女らしいという事の価値観も教えた上で、自分はどう生きていこうかと考える機会	1
学校教育はあまり関係ない。解決にはつながらないと思う	1
学校教育は問題ない、行政に問題あり	1
学校教育への父親母親の別なく参画すること	1
教職員は男女平等が進んでいる企業での研修を必須とする、社会経験のない教職員が意識を高めるのは難しい	1
現在、学生の間では女性の方が立場が上のイメージがある。セクハラやDVが問題視され女性を守ろうとする動きが強すぎる気もする	1
女性に対して、甘すぎる教員がいる	1
このままでいい。逆に学校で差別があったことを教えられて、女性に対して見る目が変わった	1
児童生徒の成長に対応して小・中・高校生と一貫して学習する。また、教師も同様に研修を受ける	1
社会は、増やしても男性の方への意識的信頼が高い	1
将来の子どもへの影響力の大きい女性には、高学歴や海外留学などの身心の向上を促す助成制度を設ける必要性を感じる	1
女性は女性らしくを教える。女性らしくない女はNG	1
スポーツ、ラグビー	1
そもそも教育の場でそのような考えになることがおかしいと考える	1
例えば体育の授業でマラソンを行う時、男は 1500m、女は 1000mと言ったように、もうこの時点で平等ではない	1
平等という言葉にとらわれすぎないようにする	1
必要なし	1
よくわからない	1

問 12 児童虐待が家庭の中で起こる理由が親にあると考える場合、関係している原因は何だと思われますか。

内容	件数
経済的な困窮	15
親であることの自覚がなく、精神的未発達	12
子どもより、自分を優先してしまう。子どもを一番にできない	11
子どもをストレス発散の対象にしている	9
夫婦の不仲	7
虐待する親自身が子どもであり、その親の育ち方(育て方)に原因があると思う	5
怒ると叱るの区別がつかない親が多い。子に対する言葉使い等	2
性に対する意識が低く、早く子どもが出来てしまったりして、金銭的、心の余裕が無いまま、親になってしまったからではないか	2
連れ子	2
5と重複するかもしれないが、休日夜間でも相談できる体制が必要。以前に相談したくても、公共の機関は土日祝や 17:00 以降は休みでできなかった	2
いい子に育てたいと考えすぎる事	1
夫の無関心。ほかの子との比較によるプレッシャー	1
うつ病になっている	1
親が「人のいたみ」を分かっていない	1
親が離別し、一人での子育てによるストレスで虐待となっている	1

内容	件数
親の保護、弱い者いじめ	1
格差社会(経済的、社会的 etc)の影響	1
虐待している親の方に問題があると思う。充実した生活が送れていないとか、不満を子どもにぶつけてしまう	1
虐待をする親が子どもの事を人ではなく物として考えているので、いきすぎた虐待をしてしまうと思う	1
個人的問題	1
自分自身に対して精一杯になりすぎて、子どもまで意識がいかず、手遅れになりがち	1
自分に対する不安	1
母親本人に問題があった	1
周りに頼る人がいなくて自分の時間が持てない。気持ちにゆとりが持てなくなるからではないか	1
ゆとり教育のゆがみ	1
ワークライフバランスに関する企業側の取り組みが不十分(スピードに追い付けない)。取り巻く環境が激変しており、結局、効率化を求めたところで限界が来て、仕事の量や質が変わったとは現場レベルでは感じられず、仕事と生活の調和を図ることは困難である	1
子どもを理解しようとしなから	1

問 13 あなたは、ご自分の老後考えたとき、不安はありますか。

内容	件数
年金のこと	3
日本の将来(経済破綻とか自然災害とか)	2
お金がほしい	1
公共交通機関がないこと	1
公的機関に本当に頼れる窓口が無いこと	1
死後の処理	1
自然災害。特に地震	1
社会の激しい変化	1
全部、不安	1
同居の親のこと	1
病院と病院との個人の関係	1
老後をむかえるまでに自分が結婚できるか	1
若い者は仕事で朝早く夜遅く、一人で家にいる時間が長く不安	1
若者への負担	1
子どもが病気のため、子どもの先行きが心配	1

問 14 あなたは、老後どのように暮らしたいと思いますか。

内容	件数
2年くらいでサービスも環境もどんどん変化しているから、少しの期待を待って静観している	1
お金の心配をせず、ゆったりと安心した環境で暮らしたい。子ども達に負担はかけたくない	1
親子で話し合いが出来る関係を作っていきたい、でいたい	1
海外移住	1
介護付マンション等で気楽に暮らしたい	1
気の合う友達が住む自分の地元に戻って、ゆったりと暮らしたい	1
気を使って暮らすのは嫌だけど、家族と一緒にいたい。いろいろゆれて心苦しい	1
元気なうちは一人暮らし	1
元気なうちは一人でも自立生活し、弱ったら老いては子に従い、なるべくぼけずに暮らしたい	1
健康であれば一人暮らしも可、介護が必要になれば特養に入りたい	1
健康で元気に暮らせられればよい	1
子どもに迷惑をかけないようにしたい	1
子どもの住居の近くの老人ホームで暮らしたい	1
子どもは別居で夫と暮らしたい	1
仕事をもっていない	1

内容	件数
自宅で元気に暮らしたい	1
自分の好きなことを好きなだけしたい	1
自分一人で暮らす時間は淋しく嫌。何とか何時もそばにいる時間を長く持ちたい	1
生涯仕事していきたい	1
その時の健康状態による。健康なら自宅が良い	1
なる様にしかならないと思う	1
年一回ゆっくりと日本の休養地と呼ばれる土地へ2～3日の旅行をしたい	1
一人になってしまった時のことは考えるとこわい	1
物価の安い国などで自給自足の生活をしながら生きてゆく	1
まだ考えがまとまっていない	1
周りの人に負担をかけたくないので、その時の自分の健康状態によって判断したい。家族などに負担はかけたくないので一人暮らしが不可能になれば、老人ホームに入りたい	1
娘夫婦と暮らしており、とても幸せ	1
要介護となり、家族への負担が増すようなら施設へ入居させてほしい	1
旅行する	1
老後とはの設定が広すぎて、どの状態になった時、年にもよると思うが	1
子どもがいない	1

問 15(1) 主に介護を担っているかたは、介護を受けているかたから見てどなたですか。

内容	件数
祖母	1
父の義父が要介護5、義母が父を介護している	1
ディサービス	1
友だち	1

問 16 あなたが、女性が増えるとよいと思う職業や役職は何ですか。

内容	件数
職種に応じて能力があればどんな職業でもよい	8
特になし	6
わからない	3
警察官	2
全部	2
女性が就きたいと思う職業	2
特になし。個々がやりたい職業に就き、能力を発揮できればよい。無理に数を増やすことが男女共同参画社会の実現につながるとは思えない	1
仕事と家庭をバランス良く両立できるなら、すべてに可能性はあると思う	1
管理職が女性でも、トップが男性だとあまり意味はない	1
何事に対しても正直な人を選んでほしい	1
社会進出=管理職ではないと思う。どの職業でも何かを我慢するのが女性だけにならないように	1
企画関係の役職	1
結婚、子育てを経験している女性管理職	1
高齢化社会になる日本を皆の不安なくすような活動仕事をするといい	1
困りごと相談員	1
獣医師	1
女性にはかできない仕事や女性に頼みたい仕事	1
男女含めて、働ける場所がほしい	1

問 17 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。

内容	件数
子育て、出産	4
政治や行政の体質がとて古くて、世代交替できてないから	4
女性側にも関心の薄い人が多く、また男性側も望まないため	2
1以外ない	1
育児や介護などを担う環境が不十分	1
家庭での時間が減ることは、子育てにとってどうか。満たされない心を持った子が増えている	1
重労働を男性がやっているから	1
女性が権利を主張しすぎている	1
女性に権利欲が少ない	1
女性の議員とかが不祥事を起こしすぎて印象を悪くしている。	1
女性の権利のみの実践。具体的政策のなさ	1
進める環境がない	1
進める必要がないと思う	1
政策の企画や方針決定の過程を知らないので分からない	1
政治、行政に女性の参画を真剣に進めようとする意識も実行力も不足しているから	1
政治や行政を理解しようとしていない	1
そういう世の中だから	1
能力の問題	1
体力不足	1
助けない男性が多い。あきらめる女性が多い	1
伝統的に男性優位の社会だから	1
組織内の男女比が反映されているだけではないか	1
飲む席であられる男上司達の発言、悪言	1
女性を積極的に参画させる事は女性差別であり、能力において優れている方を男女問わず参加させれば良いと感じる	1
参画したいと思っている女性が少ない。家庭優先したい人もいるから	1
昔ながらの「男は仕事、女は家事」という考え方、やり方で生活が成り立っていることもある。無理に女性進出を進めようとするのもおかしい	1

問 18 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方はどれに近いですか。

内容	件数
本人の自由なので、本人の好きなようにすることが一番だと思っている	20
配偶者と話し合い、互いの意見を尊重して妥協点を見つける	3
仕事が生きがいのキャリアウーマンもいるので選択の幅が多いといいと思う	2
状況に応じた女性自身の意思を尊重すべき	2
家族の協力が得られるのであれば、職業をずっと持ち続ける方が良い	1
環境や状況は人それぞれなので、一概に「～する方がよい」とは言えない	1
子どもができたら、一度休み、少しずつ再び仕事に戻る。子育てには母親が本当に大切だから	1
子どもができたら、夫婦で交代で育児をしながら仕事を続ける	1
職業向きな女性は持ち続けられれば良いし、家庭向きな女性は家庭におさまれば良い	1
職業を持ち続け、子育て期間は子どもが育てられる環境をととのえる	1
職業を持つか否かより、精神的な自立の方が大事。自立していればよし	1
定年まで	1
両立が難しいので職業は、パート、アルバイトや短時間労働などがいい	1
そのような質問自体意味が分からない。無理やり女性差別問題を作り出そうとしているのか。個人は配偶者同士でそれぞれがプランニングしていくこと。他人のことを決めつけさせるような質問こそ人権侵害だ	1

問 19 男女共同参画社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

内容	件数
行政自体の意識改革、正しい理解が大切	2
在宅でできる仕事や、託児所のある仕事場を増やす	2
保育園、乳児を預かってくれる所の充実	2
男女共に自立すること。自分の生活は自分で良くするという積極的な社会参画の意識を高める教育	2
推進していく必要がないと思う	2
自然な形で男女が平等にあつかわれる社会を形成していく方法を考える事	1
女性次第	1
すべての人の仕事の時間の短縮などを義務化して、すべての人が働きやすい環境をつくっていく	1
男女の均等を図る前に、働きやすさの選択肢が増えるよう企業に働きかける	1
男性も家庭・育児に関わるよう働きかけをする	1
人数合せでの積極登用では意味がないと思われる	1
能力のある人をのばす	1
無理に進出を促す必要はない。男女関わらず平等に評価されるべき。女性が差別行為を受けたなどというときに相談、対応してくれる窓口の創設	1

問 21 夫又は妻や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

内容	件数
相談するようなことはない	2
学校の先生	1

問 22 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。

内容	件数
⑤+自分も悪いのでは	1
自分で選んだのだから、自分で解決するのがあたりまえだと思った	1
性格の不一致	1
そんなにヒドイ事とは思ってないから	1
秘密は守られない。必ず漏れるから	1
問題なかったから	1

問 23 あなたは、DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために何が必要だと思いますか。

内容	件数
家庭での親から子どもへの教育	2
原因のほとんどは家庭。良い事も悪い事も親から子へ、子から孫へと家風を受け継いでしまう。親自体が愛し認められた家庭で育てば悲しい出来事は起こらない。私自身モラハラ家庭に育ち、子どもにも同じような育て方をしてしまった。子どもの不登校により私自身が相談を受け、また勉強(講演会、本などカウンセリングも)したためすべての根源は家庭であると理解した。(もちろん社会的なこともあるが、根本は家庭。)メディアでそのことを発信して欲しいと思っている	1
DVはされても仕方ないという考え方を持つ。恥ずかしいから言えない人もいるから	1
女の人が強くなる	1
加害者＝男性、被害者＝女性と決めつけているのもおかしいと思う。特に売買春等は買春した方のみ罰則を受け、売春側は不問というのもおかしい話で、両成敗が原則ではなか	1
家族でいられる自由な時間、週休3日の仕事	1
家庭環境を良くする	1
企業に職場での意識を教育することを義務付ける。罰則あり	1
気づいた人が通報しやすい環境づくりをする。または、通報を義務付けて	1
警察が真面目に仕事をする。学校で道徳の教育を充実させる	1
警察もちゃんと被害者の言葉に耳をかたむけるべきだ	1

内容	件数
社会(特に公務員)の人間性の向上	1
市役所の担当者のいいかげんな対応により、秘密がばれることをふせぐ	1
少数だとは思いますが、列車内等でのボディタッチをされたらと、やってない男性を女性の一方向的な言葉で冤罪にされる事のないよう検討すべきと考える。平等は当然必要だが、平等を正常に推し進めるため、平等と言う名のもとに女性の一方向的な身勝手な考え方、言い分をそのまま受け入れる事に対しての方法を用意しなければいけないという事	1
女性の経済的自立	1
性犯罪者への再犯予防プログラム、GPS、HP 上への掲載	1
全体的に過剰な提案が多すぎる。自由社会に反すると思う	1
電車の中などにもっと監視カメラを増やす	1
当事者自身の問題だと思う。いくら取り締まっても隠れて起きるものは起きるし、被害者にも非があったかもしれないのに加害者ばかり攻められるのはよくない。それこそ男女差別である	1
ニート、無職などの人が職を得られるよう促す	1
ネットでの規制を厳しく、罰則の強化する	1
平等の意味を間違えないよう、教育、他活動が必要。この調査も同様	1
報道をひかえる	1
モラルの問題	1
難しい	1
頑張れ	1

あなたの職業についてお答えください。

内容	件数
農業	4
会社社長	1
自営業の手伝い、専従者	1
専従者	1
システムエンジニア(コンピュータ系)(自由業)	1
精神疾患について研究中です(自宅)	1
大工	1
派遣(短期)	1
療養、通院中	1

(1) あなたの配偶者の職業についてお答えください。

内容	件数
農業	2
経営者	2
育児休業中	1
県職 OB	1
年金生活	1

V. 調查票

男女共同参画社会づくり市民意識調査アンケート

調査へのご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この調査は、平成 23 年 3 月に策定した「いなざわ男女共同参画プランⅡ（第 1 次中間改訂）」の見直しに当たり、市民の皆様の意識やお考えをお聞きし、今後の施策を検討する上での基礎資料にしたいと考えております。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名であり、調査の結果は統計的に処理いたしますので、個別の回答などを公表してご迷惑をお掛けすることはありません。

平成 26 年 11 月

稲沢市長 大野 紀 明

【アンケート対象者】

調査対象者は、稲沢市内に在住の 16 歳以上のかたから無作為に抽出した 2,500 人のかたです。

※ 対象となるかたは、平成 26 年 11 月 1 日現在の住民基本台帳によりあて先を編集しておりますので、住所・氏名が変更前の場合はご容赦くださいますようお願いいたします。

【ご記入上の注意】

- ・ご記入は、アンケートが送られたご本人でお願いします（代筆可）。
- ・回答は、この調査表に直接お書きください。
- ・回答は、選択肢が 1 つの場合と、複数場合がありますので、ご注意ください。
- ・その他を選択された場合は、具体的にその内容をお書きください。
- ・調査の集計は、ご回答があるものすべてについて対象とさせていただきます。

【回収について】

記入後は、同封の返信用封筒に入れて、12 月 12 日（金）までにポストにお入れください。（切手は不要です。）

【問い合わせ先】

稲沢市教育委員会事務局 生涯学習課

電話 0587-32-1111 内線 309 ファックス 0587-32-1196

男女平等の意識について

問1 あなたは、次にあげる「男女共同参画社会」に関する言葉や制度のうち、見たり聞いたりしたことがありますか。次の中からあるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。

〔複数選択〕

1. いなざわ男女共同参画プラン
2. 男女共同参画社会
3. DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力）
4. ジェンダー（社会的性別）
5. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
6. ポジティブ・アクション
（男女間の格差改善のため、活動に参画する機会を積極的に提供すること）
7. 女子差別撤廃条約
8. 男女雇用機会均等法
9. 育児・介護休業法
10. いずれも知らない

問2 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれの項目について、当てはまる番号を1つ選んで、番号を○で囲んでください。〔1選択×8〕

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6
B 職場	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
E 政治の場	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
G 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
H 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問3 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。

次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。 [複数選択]

1. 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める
2. 女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりするなど、積極的に能力の向上を図る
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
5. 行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する
6. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
7. その他（具体的に： _____)

問4 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中から

2つまで選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

1. 家庭での家事・育児・介護が女性の仕事として押し付けられている
2. 家庭内での夫から妻への言葉使いや暴力（ドメスティック・バイオレンス「DV」）など
3. 学校や職場における性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）
4. 職場におけるお茶くみ、補助的業務など
5. 女性を商品化したテレビ番組、コマーシャル、ヌード写真、風俗産業など
6. 女性であることを理由とした伝統行事などへの参加の制限
7. その他（具体的に： _____)

結婚、家庭・地域生活について

問5 「現在結婚しているかた（事実婚を含む）」にお聞きします。あなたの家庭では、次にあげる家事は主にだれが分担していますか。（A～Hのそれぞれの項目について、当てはまる番号を1つ選んで、番号を○で囲んでください。） [1選択×8]

	夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人
A 食事のしたく	1	2	3	4	5
B 食事の後片付け	1	2	3	4	5
C 掃除	1	2	3	4	5
D 洗濯	1	2	3	4	5
E 買い物	1	2	3	4	5
F 家計の管理	1	2	3	4	5

※子育て中、介護中のかたはG、Hについてもお答えください。

G 子育て	1	2	3	4	5
H 介護	1	2	3	4	5

問6 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択]

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそうは思わない
5. そうは思わない

問7 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択×2]

(1) 希望として （ここから1つ）

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つとも大切にしたい
8. わからない

(2) 現実として （ここから1つ）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している

5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つとも大切にしている
8. わからない

問8 あなたは、仕事以外に地域で何か活動に参加した経験はありますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択]

1. 現在参加している → (1)、(2) へ
2. かつて参加していたが現在は中止している → (1)、(2) へ
3. 参加したことはない → (2) へ

(1) 現在（今までに）どのような活動に参加していますか（した経験がありますか）。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。 [複数選択]

1. PTAや子ども会
2. 女性の会や地域女性団体（又は男性の会や地域男性団体）
3. 町内会や自治会
4. 老人クラブや高齢者の会
5. NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体
6. 教養・趣味・スポーツのサークル
7. その他（具体的に： _____）

(2) 今後又は引き続き、あなたが活動したい活動はありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。 [複数選択]

1. PTAや子ども会
2. 女性の会や地域女性団体（又は男性の会や地域男性団体）
3. 町内会や自治会
4. 老人クラブや高齢者の会
5. NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体
6. 教養・趣味・スポーツのサークル
7. その他（具体的に： _____）
8. いずれも参加したくない

問9 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動への関心を高めるよう、啓発や情報提供を行う
8. 研修・講座などにより、男性の家事や子育て、介護の技能を高める
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
10. 仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設ける
11. その他（具体的に： _____）

子育て、子どもの教育について

問 10 男女平等の意識を育てるために、学校教育の場で必要なことは何だと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。〔2選択〕

1. 男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる
2. 男女の別なく能力を生かせるよう指導する
3. 教員の男女平等意識が高まるように研修会を実施する
4. 管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく
5. その他（具体的に： _____)

問 11 自分の周りで、子どもを虐待しているのではないかと思ったことがありますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。〔1選択〕

1. よく思う
2. ときどき思う
3. 感じたことがない
4. よくわからない

問 12 児童虐待が家庭の中で起こる理由が親にあると考える場合、関係している原因は何だと思われますか。次の中から2つまで選んで、番号を○で囲んでください。〔2選択〕

1. 育児することに不安がある
2. 育児の悩みについて相談する人がいない
3. 子どもが勉強していないと不安になる
4. 子どもが嫌い、子育てに関心がない
5. 躰（しつけ）の行き過ぎ
6. 子どもに虐待された経験がある
7. 核家族化が影響している
8. よくわからない
9. その他（具体的に： _____)

高齢社会、介護について

※以下の質問について、配偶者には事実婚を含みます。

問 13 あなたは、ご自分の老後を考えたとき、不安はありますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 生活費のこと | 2. 自分や配偶者の健康のこと |
| 3. 住宅のこと | 4. 配偶者に先立たれること |
| 5. 面倒を見てくれる身寄りがないこと | 6. 話し相手がいないこと |
| 7. 就労の機会が減ること | 8. 適当な趣味がないこと |
| 9. 特に不安は感じていない | 10. その他（具体的に：) |

問 14 あなたは、老後どのように暮らしたいと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

1. 1人暮らしとなっても、必要に応じ、介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい
2. 家族と一緒に暮らしたい
3. 気の合った友達と暮らしたい
4. 特別養護老人ホームなどの施設で暮らしたい
5. 同居でなくてもよいが、自分の子どもたちと、顔を合わせられる距離で暮らしたい
6. あまり真剣に考えたことはない
7. よくわからない
8. その他（具体的に：)

問 15 同居するご家族の中に、介護が必要なかたはいますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択]

1. 介護を受けている同居の家族はいない
2. 介護を受けている同居の家族がいる → (1) へ

(1) 主に介護を担っているかたは、介護を受けているかたから見てどなたですか。次の中から最も近いかたを1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択]

1. 配偶者
2. 母
3. 父
4. 娘
5. 娘の配偶者
6. 息子
7. 息子の配偶者
8. ホームヘルパーなどの在宅介護サービス
9. その他（具体的に：)

女性の社会進出について

問 16 あなたが、女性が増えるとよいと思う職業や役職は何ですか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

1. 企業の管理職
2. 国家公務員、地方公務員の管理職
3. 小学校、中学校、高等学校の管理職
4. 弁護士、医師などの専門職
5. 大学、企業などの研究者
6. 自治会、PTAなどの役員
7. 都道府県、市町村の首長
8. 国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員
9. その他（具体的に： ）

問 17 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

1. 家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識
2. 男性優位の組織運営
3. 家庭の支援・協力が得られない
4. 女性の能力開発の機会が不十分
5. 女性の活動を支援するネットワークの不足
6. 女性側の積極性が不十分
7. その他（具体的に： ）

問 18 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方はどれに近いですか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択]

1. 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
2. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
3. 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
4. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他（具体的に： ）

問 19 男女共同参画社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つ選んで、番号を○で囲んでください。 [2選択]

1. 法律、制度の面で見直しを行う
2. 政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する
3. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むようにする
4. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底が図られるよう企業に働きかける
5. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
6. 学校や生涯教育などの場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
7. 女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する
8. 広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
9. その他（具体的に： ）
10. 特にない

夫又は妻や恋人からの暴力について

問 20 あなたはこれまでに、あなたの夫又は妻や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。 [複数選択]

1. 殴る、蹴るなどの身体的暴力を受けたことがある
2. いやがっているのに性的行為を強要されたことがある
3. 何を言っても無視され続けたことがある
4. 交友関係を細かく監視されたことがある
5. ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受けたことがある
6. 生活費を渡されないなど、経済的におさえつけられたことがある

→問 21 へ

7. 1 から 6 までのような経験はない →問 23 へ

問 21 夫又は妻や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。 [複数選択]

1. 家族や親戚などの身内
2. 友人・知人
3. 市役所の相談窓口
4. 県の相談窓口（愛知県女性相談センターなど）
5. 民間の団体や機関（弁護士、民間シェルターなど）
6. 警察
7. 法務局、人権擁護委員など
8. 医療関係者（医師、看護師など）
9. その他（ ）

→問 23 へ

10. どこ（だれ）にも相談しなかった →問 22 へ

問 22 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。次の中から当てはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。 [複数選択]

1. どこ（だれ）に相談すればよいかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもムダと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
6. 世間体が悪いから
7. 他人を巻き込みたくなかったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 自分にも悪いところがあったと思っているから
10. 相談するほどのことではなかったから
11. その他（具体的に： ）

統計的に分析するため、あなた自身のことについてお聞かせください

A あなたの性別についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。

[1選択]

1. 男性 2. 女性

B あなたの年齢についてお答えください（平成26年11月1日現在）。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。

[1選択]

1. 16～19歳 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代
6. 60歳代 7. 70歳代以上

C あなたの職業についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。

[1選択]

1. 勤め人（常勤） 2. 勤め人（非常勤）、パート、アルバイト
3. 自営業 4. 専業主婦、専業主夫
5. 学生 6. 無職
7. その他（具体的に： ）

D あなたは、結婚していますか（事実婚を含む）。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。

[1選択]

1. 結婚している→ (1) へ 2. 結婚していない 3. 死別、離別した

(1) あなたの配偶者の職業についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。

[1選択]

1. 勤め人（常勤） 2. 勤め人（非常勤）、パート、アルバイト
3. 自営業 4. 専業主婦、専業主夫
5. 学生 6. 無職
7. その他（具体的に： ）

E あなたは、未婚のお子さんがいらっしゃいますか。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。

[1選択]

1. いる→ (1) へ 2. いない

(1) お子さんは、次のどれに当たりますか。当てはまるすべての番号を○で囲んでください。

[複数選択]

1. 就学前 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生
5. 大学生（短大、大学院含む） 6. 専修学校・各種学校
7. 就業している 8. 無職

F あなたの世帯の家族構成についてお答えください。次の中から1つ選んで、番号を○で囲んでください。 [1選択]

1. 単身世帯（1人）
2. 1世代世帯（夫婦のみ）
3. 2世代世帯（親と子）
4. 3世代世帯（親と子と孫）
5. その他

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

稲沢市男女共同参画社会づくり市民意識調査
結果報告書

平成 27 年5月

発行 稲沢市
編集 稲沢市教育委員会事務局 生涯学習課
〒492-8269 愛知県稲沢市稲府町1番地
TEL 0587-32-1111(代表)
